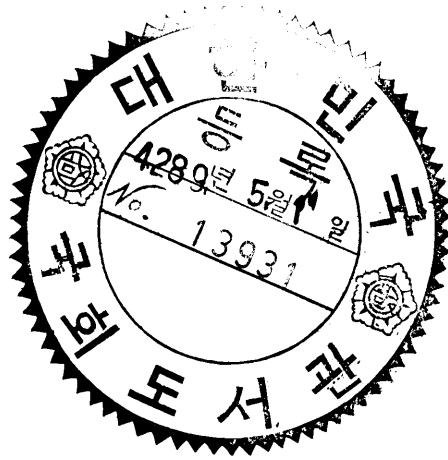


MON03198012590

調査資料第二十三輯

朝鮮の犯罪と環境

朝鮮總督府



## 序

本書は執務上の参考に資する目的を以て、囑託善生永助をして編纂せしめたるものに係り、朝鮮に於ける最近の犯罪現象を統計的、地理的に調査研究したものであるが、特に犯罪と社會環境との關係を精密に叙述してあるから、これを繙くに於ては、朝鮮の人文と經濟の實情を觀察する上にも、亦多少裨益する所があること信ずる。

昭和三年三月

朝鮮總督府總督官房總務課

調査資料  
第二十三輯

# 朝鮮の犯罪と環境

## 目次

總説	一
第一章 貧富と犯罪の關係	二三
第二章 文化と犯罪の關係	七七
第三章 犯罪の年次的消長	一二九
第四章 犯罪の地理的考察	二三一
結論	二五七

調査資料  
第二十三輯

# 朝鮮の犯罪と環境

〔禁斷轉載〕

朝鮮總督府囑託 善 生 永 助 著

## 總 說

犯罪に對する觀察には、その原因を、犯罪者の人類學的、生理學的方面から研究した、伊太利學派のロンブローゾによりて初めて唱道せられ、フェリー、ガロファロ等によりて敷衍せられた、刑事人類學說と犯罪者の社會的環境を重視した、佛蘭西のデュルケム、白義耳のケトレーを始め、多くの犯罪學者、社會學者等によりて主唱せられた、刑事社會學說とに、二大別されるのである。ロンブローゾの説に據ると、犯罪者の中には生來の犯罪者があるといふのである。即ちロ氏は、多數の犯罪者の頭蓋を検査し、且つ多數の犯罪者に就いて、その容貌、骨格を量定し、また他の一面に於て多數の犯罪者の言語、筆蹟、體質、感覺、特に文身の有無を検査し、その量定及び検査の結果により、犯罪者は頭腦の發達不充分にして、腦の重量が普通人よりも軽く、耳の形も尋常でなく、眼は斜に釣り、且

つ痛苦を感ずること比較的鈍く、加ふるに、磁石力及び氣象の影響を受くること強く、概して文身を好み、尙はその歩き方も常人と異り、また容貌も常人と同じからずと斷定して居る。ロ氏のこの「犯罪者定型説」には一面の眞理はあるが、また多少の誤謬が存して居る。即ち犯罪者と同一の外貌、體質を有するものにして犯罪者ならざるものあり、常人と同一若くはこれに優る外貌、體質を有するものにして犯罪者たることあり、例へば性的犯罪者や、一時の出來心に基く犯罪者中には、常人と異ならざるものが多いのである。さればロ氏自身も、その後右の「犯罪者定型説」を訂正して、犯罪は獨り犯罪者の體質にのみ基くにあらずして、諸種の原因に左右せらるゝことを主張し、一九〇二年版の「犯罪の原因及びその鎮滅」に於ては、犯罪の原因及び誘因は、氣象、人種、文化、人口の増殖、榮養の良否、酒精の可否、經濟的事情、宗教的關係、教育、遺傳、年齢、地位、職業等に在りと論ずるに至つたのである。

犯罪に對する生物學的・心理學的原因を重視する、右のロンブローゾ一派の刑事人類學說に對立して犯罪の社會的・環境的原因を力説した、デュルケム・ケトレイ等の刑事社會學說の主張する所は、犯罪は犯罪者を圍繞する周圍の事情が、犯罪の主たる原因を爲すものであると説き、固より犯罪の原因は、犯罪者自身に存する個人的原因と、社會的原因の兩者によりて發生するものであるが、犯罪の原

因を爲す最も有力なるものは、社會的原因に在りといふのである。而して犯罪の社會的原因の中で、その主要なるものは、(一) 生活資料の窮乏に因るもの、例へば、扶養すべき家族多くまたは係累ありて、正業を以ては生計を支ふるに足らざるが如き、職業を得ずまたはこれを失ひ若くは勞働力充分ならざるが如き、水・火・震災、その他の災害によりて衣食に缺乏するが如き、或は刑餘の不信用の爲めに正業に就くを得ざる如きこと、(二) 社會的關係の不適當に基くもの、例へば、浮浪無頼の徒の間に生長し交友悉く不良なるが如き、刑餘の不信用に基き前科者の外交際する者なき場合の如き等を舉げ、尙ほこの外に、教育の如何、宗教の良否等も、犯罪の社會的原因を爲すことが尠くないことを主張して居る。勿論犯罪には、刑事人類學說の主張するが如く、個人の先天的疾患を主因とするものも尠くないが、刑事社會學說の主張するが如く、後天的に社會環境に支配さるゝものゝ方が、遙か多いやうに思はれる。

私は朝鮮の犯罪を研究するに當りて、特にその社會環境との關係に重きを置いて、各種の方面より觀察し、就中、犯罪と經濟現象との關係、犯罪と文化現象との關係を、明かにせんことに努めたのである。朝鮮と内地とは種々の點に於て社會事情を異にし、従つて犯罪狀態も自ら異なつて居るので、犯罪の人類學的、生理學的研究も、頗る有益なことであると認むるが、本書に於ては、編纂者たる私

がこの方面の研究に門外漢たる關係と、調査の性質上、統計的、地理的に大量觀察を試みた結果、自然、個々の犯罪者に就いて、微細なる説明を爲す如きことの出来なかつたのは遺憾である。然しながら社會環境としての貧富及び文化に、支配さるゝこと大なる犯罪中には、犯罪者の民族性及び思想傾向を窺ふに足るやうな資料をも、多少提供して置いた積りである。本書は主として犯罪現象を叙述したのであるけれども、犯罪現象を透して觀たる朝鮮の社會狀態及び國民生活が、讀者の眼に如何に映ずるかは、執筆に際して私の最も注意した所である。而して朝鮮に於ける犯罪と環境の關係を考察する爲めには、先づ最近に於ける朝鮮の犯罪趨勢を一瞥して置く必要がある。

犯罪件數及檢舉件數人員名別

年	果	區	分	犯罪件數	檢舉件數	檢 舉 人				計
						内地人	朝鮮人	支那人	其ノ他ノ外國人	
大	正	元	年	四三、二九七	三三、七八二	四、二九三	三、八二一	五〇五	一	三七、六〇九
同	二	年	年	五一、五四三	三九、三四五	五、〇九二	三、七八七	四四〇	一	四三、四〇四
同	三	年	年	五五、五六八	四三、四〇七	四、九二六	四、一六九〇	五七〇	五	四七、一九一
同	四	年	年	五九、〇八〇	四七、八四九	四、八〇〇	四、七、〇七	五六三	七	五二、四七七
同	五	年	年	七〇、一四七	五八、四〇七	五、九九九	五、九、〇五	六四〇	一一	六五、六七五



刑・ 法・ 犯・	比較		皇 室 = 對 ス	公 務 ノ 執 行 ヲ 妨 害 ス	逃 走	犯 人 藏 匿	證 憑 湮 滅	騷 擾	放 火	失 火
	同	同								
刑・	同	同	三	三	三	三	三	三	三	三
法・	十	十	三	三	三	三	三	三	三	三
犯・	四	三	二	一	一	一	一	一	一	一
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
三三、三三〇	二〇、一〇六	一〇〇、六〇三	八九、七五五	八一、九〇一	八〇、五六八	七四、二八九	八四、七五五	八三、〇五一	六九、二九八	五、九五三
二二、五五七	一〇四、七八六	八八、〇五三	七七、六七六	七三、九〇九	六五、四五八	六〇、九〇六	七一、四八一	六九、二九八	五、六八七	七三、〇七八
六、四八二	五、九五六	六、二六六	五、七九二	五、一〇〇	四、七三四	四、二九八	五、六八七	五、九五三	七、六五四	七、六五四
二八、三六六	一一四、六八九	一〇一、〇二四	九〇、七八九	九〇、八〇六	八二、一八七	七九、三四三	七六、五四二	七三、〇七八	七、六五四	七、六五四
七九一	七六一	八一五	五九四	五五三	四二二	三二二	六五九	五八六	三	三
一〇	四	三〇	二二	三三	六七	九	一六	三	一六	三
一三五、六四九	一一、四一〇	一〇八、二三五	九七、一八七	九六、四九〇	八七、四〇九	八三、九六一	八二、九〇三	七九、六二〇	八二、九〇三	七九、六二〇

總  
說

五

朝鮮の犯罪と環境

殺	瀆	禮拜所及墳墓ニ關ス	富	賭	猥褻姦淫及重婚	誣	偽	印	有	文	通	飲	阿	秘	住	往	溢
人	職	ス	籤	博	告	證	造	造	造	造	造	ス	ス	ス	ス	ス	ス
五八三	一九〇	二九九	三	四〇四一	九五七	七四五	三四一	一三四七	一〇九	二八〇四	一〇五	四	一七一	三	一七三	六七	九七
五八	一九五	二八三	三	四、一五七	九七〇	七四二	三五三	一三九五	一四三	二九七〇	八〇	四	一七九	三三	一七九	六〇	九五
一六	三〇	二	一	四二七	二二	三四	四	二二	二六	九六	一	一	一〇	二	五八	二	二
九〇一	二九二	五〇一	一四	二、二二五	一三二一	九六五	五五九	四六〇	一一五	二三九七	二二	五	二三九	二八	一四五	八〇	三三三
一四	三	一	一	九五	二	二	一	一	一	一	四	一	八	四三	一	一	一
九三	三五	五三	一四	二、三三七	一三三四	一〇〇一	五三三	四七一	一四一	二、四九四	二七	五	二二七	三〇	一、五三六	八一	三五

特・別・法・犯  
刑・法・及・隱  
計

毀棄及隠匿	贓物ニ關ス	横領	恐喝	詐欺	竊盜	強盜	信用及業務ニ對ス	名譽ニ對ス	略取及誘拐	脅迫	逮捕及監禁	遺棄	墮胎	過失傷害	傷害
二二、九八一	一、六八三	二二、〇九一	九、五三三	二〇、六二二	四八、一八八	二、一九一	六、七六	六、四五	一、六六五	六、七七	三、四九	三、〇五	一、〇二	五、五二	一三、三二
二一〇、二七九	一、六七三	二、七〇〇	九、四二	二〇、九九五	三五、五〇〇	一、八九二	六、七八	六、五四	一、七三三	六、七〇	三、五二	一、八七	一、〇四	五、五〇	一三、四二
五、七七七	五、九	八、六四	四、五	一、九四一	二〇、七九	二〇	四、二	四、四	四、八	四、四	六	六	一	二、八	五、六
二、五三四四	一、〇三八	二〇、三二	一、一八四	二〇、三七八	二六、三三	二、八三五	一、〇五八	七、九	二、五五二	九、九一	五、七一	二、三三	二、三〇	五、九三	二二、六五
六、九	二	四、九	五	五、一	一、五七	二、九	一	一	二、六	一	五	一	一	四	八〇
八	一	二	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二二、八〇八	一、一〇〇	二二、三六	一、三四	二二、三七	二七、三六七	二、八八四	一、一〇〇	八、四一	二、六八	一〇、三六	五、八一	二、九	二、三	七、六	二二、七

朝鮮の犯罪と環境

汚物掃除規則	除穢規則	獸疫豫防法規	朝鮮種痘令	肺ヂストマ豫防ニ關スル規則	肺結核豫防ニ關スル規則	傳染病豫防令	其ノ鹽類取締規則	モルヒネ、コカイン及注射、取締規則	朝鮮阿片取締令	藥品及藥品營業取締法規	看護婦規則	按摩術、鍼術、灸術營業取締規則	入齒營業取締規則	醫生規	齒科醫師規則	醫師規則	寺刹令
二	三	一〇	二六	九	二	三	二〇六	三三〇	七四	四八七	一	二三	一六	六二	一	六〇	五
三	三	一〇	二七	九	二	三	一九九	三三二	七五	四八八	一	二三	一七	六二	一	六〇	五
			一		一		二四		五	一六	一		五		一	八	
二	三	二〇	二五	九	一	三	二七六	二五一	二〇九二	五〇		三	三	六二		五二	五
	一						三	一	四九	一							
二	三	二〇	二六	九	二	三	一九三	二五三	二四六	五三七	一	二	一七	六二	一	六〇	五

斃獸取締規則	八	八	一	八	一	八
警察犯處罰規則	二四九	二六八	七	二四三	七	二二七
保安法	二五	二九	一	一五四	一	一五四
寄附金募集取締規則	一一	一三	一	一九	一	三〇
懸賞富籤類似其ノ他 投票募集等取締規則	九	九	一	三三	一	二三
諸營業取締規則	一一	一三	一	一〇	一	二
古物商取締法	四二	四〇	三	三六	一	三九
質屋取締法	六	六	一	五	一	六
銃砲火藥類取締法	二二三	二二九	一	二六〇	一	三七四
引火質物貯藏所取締規則	三	三	一	二	一	三
宿泊及居住規則	九二	九二	一	九二	一	九二
墓地火葬場埋葬及火葬取締規則	八三六	八三三	二	八八一	一	八八三
古蹟及遺物保存規則	二	二	一	一	一	一
出版法	二六	二六	三	一七	一	九〇
著作權法	一	一	一	一	一	一
新聞紙法	七	七	五	三	一	八
門戶標札掲出取締規則	六六	六六	三	六三	一	六五
遊藝場取締規則	二	二	一	二	一	二

總說

朝鮮の犯罪と環境

國有未墾地利用法	三	三	一	三	一〇	三
森林令	二八六	二八一	二九	三七五	八	三七〇
私有林伐採取締規則	二〇	一三	一	一六	一	二七
林野保護規則	二六	二七	一	二六	一	二六
朝鮮林野調査令	一	一	一	一	一	一
松姑嶺驅除豫防規則	一	一	一	一	一	一
河川取締規則	三九	四〇	五	六	一	七
官有水面埋立規則	二	二	一	二	一	二
港灣其ノ他公共ノ用ニ供スル水面並其ノ敷地ニ關スル規則	二	二	一	二	一	二
地方稅賦課規則	二九	二九	二	一九	一	二〇
酒稅法	三〇	三六	一	六四	一	六四
印紙稅法	二	二	一	一	一	二
關稅法	六	六	一	二	一	二
金銀貨幣又ハ金銀地金ノ輸出ニ關スル規則	六	六	一	二	一	二
金若クハ銀ヲ主タル材料トスル製品ノ輸出ニ關スル規則	一一	七	二	四	一	八
オノオレカンスル規程	二三	二	一	三〇	一	三〇
朝鮮煙草專賣令	二六〇	二六二	一	三二	一	三三
朝鮮紅蔘專賣令	三	三	一	七	一	七

總說

軍港要港規則  
陸軍召集令  
徵兵令  
朝鮮戶籍令  
朝鮮發物取締罰則  
印紙犯罪處罰法  
外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行  
券證券偽造變造及模造取締規則  
政治犯罪處罰令  
治安維持法  
朝鮮蠶業法  
講會稷會取締規則  
市場規則  
米穀檢查規則  
大豆檢查規則  
小麥檢查規則  
麻布檢查規則  
粗調製取締規則  
棉花取締規則

一  
三  
二  
八  
三  
一〇  
一〇  
二八  
五  
一九  
三  
一  
一六  
一  
一  
一  
二四

一  
三  
二  
九  
四  
一〇  
一〇  
二〇  
五  
一〇  
三  
一  
一六  
一  
一  
一  
二四

一  
三  
二  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
三

四  
一  
一  
七  
〇  
〇  
七  
二〇六  
七  
一三  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
二八

二

一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一

四  
三  
二  
七  
二  
二  
二  
二〇六  
九  
二四  
三  
五  
一〇  
一  
四  
一  
三

朝鮮の犯罪と環境

朝鮮鑛業令	五二	五一	一	九二	一	九二
漁業取締規則	二〇九	二二四	七四	二九〇	一	三六四
海藻取締規則	二	二	一	一	一	二
狩獵規則	二一八	二二〇	一八	二八	一	一四六
狩獵免狀及特別許可ニ關スル規則	六	六	四	二	一	六
商法	二	二	六	一〇	一	一六
請願令	二	二	一	一	一	二
雜業取締規則	一五	一五	一	一五	一	一五
代書業取締規則	三九	四五	七	三四	一	四
理髮營業取締規則	二六	二六	五	二〇	二	二七
紹介營業取締規則	一六	一六	一	一八	一	一八
印刷營業取締規則	三	三	一	三	一	三
畜犬取締規則	四	四	一	一	一	四
廣告物取締規則	一	一	一	一	一	一
市街地建築取締規則	一六	一七	七	九	一	一七
建築取締規則	七	七	四	三	一	七
荷車取締規則	五七	五四	六〇	四八一	二	五四三
人力車取締規則	一八	一八	一	一八	一	一八



馬車取締規則	三	三	三	三	三	三	三	三
原動機取締規則	三	三	二	一	三	三	三	三
自動車取締規則	一〇一	一〇一	二	八二	九五	三	二	九五
自轉車取締規則	三三	三三	三九	二九五	三七	三	三	三七
電車取締規則	五	五	二	三	五	三	三	五
宿屋營業取締規則	一三八	一三八	七	一三三	一九	三	三	一九
料理屋飲食店營業取締規則	二七〇	二七〇	〇	二五二	二六四	二	三	二六四
藝妓酌婦藝妓置屋營業取締規則	三〇	三〇	六	二六	三三	三	三	三三
貸座敷娼妓取締規則	一五	一五	一四	一	一五	三	三	一五
條約ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ニ關スル規則	二	二	一	一	二	三	三	二
勞働者募集取締規則	一五	一五	四	一四	一八	三	三	一八
刑死者ノ墳墓祭祀肖像等ノ取締ニ關スル規則	一	一	一	一	一	三	三	一
衛生上有害飲食物及有害物品取締規則	七	七	一	六	七	三	三	七
水流ニ於テ蔬菜食器等ノ洗滌取締ニ關スル規則	八	八	一	八	八	三	三	八
牛乳營業取締規則	二	二	二	一	二	三	三	二
清涼飲料水及冰雪營業取締規則	五	五	一	五	五	三	三	五
屠場規則	九七	一〇一	一	二四	二四	三	三	二四
獸肉販賣營業取締規則	五二	五二	一	五	五	三	三	五

總 說



連續犯の場合に於ける犯罪件數及檢舉件數は之を一件として掲記す。

數罪を犯したる場合の檢舉件數は罪名毎に各之を掲記し檢舉人員は其の重き罪名欄に一人と掲記す。

本表には犯罪即決處分に依るものを包含せず。

即ち右の犯罪件數及び檢舉件數を見るに年と共に著しく増加し、大正元年には犯罪件數四三、二九七件、檢舉件數三二、七八二件なりしものが、大正十四年には犯罪件數一三三、三三〇件、檢舉件數一二一、五五七件に達し、犯罪件數に於て約三倍、檢舉件數に於て約四倍の増加を示して居る。檢舉人員の内鮮外人別を見るに、大正元年に於ては内地人四、二九三人、朝鮮人三二、八一一人、外國人五〇五人であつたものが、大正十四年には内地人六、四八二人、朝鮮人一二八、三六六人、外國人八〇一人となり、内地人及び外國人の約一倍半の増加に對し、朝鮮人は約四倍の増加を來して居る。人口數に對する犯罪の割合を見るときは内地人及び外國人に對して朝鮮人の犯罪率は遙かに低いが、近年その増加の傾向顯著なるは大に注意すべきことである。いづれの國民と雖も海外または植民地への移住者や出稼人は、その本國に在る者よりも進取の氣象に進み、元氣潑瀾たる一面に於ては、犯罪が多い傾向あり、米國に於ける移住民に特にその適例が尠くないのである。而してこれが原因は、第一には社會的、經濟的理由と、第二には生理的肉體的の理由に基くものにして、移住者中には往々社會

環境に順應し得ず、事志と違ひて失望落膽、遂ひに自暴自棄に陥り、または氣候風土に慣れざる爲めに健康を害したりなどして、貧困の結果、犯罪者となるものが多いのである。ニューヨークの少年裁判所クリニツクの長官シュラツプ博士の研究に據ると、本國にて健全な子供を生んだ母親が、アメリカに移住して後に生んだ最初の子は精神的に缺陷が多いと云ふことが判つた。時として移住後の最初の子供ばかりでなく、第二、第三の子供もまた缺陷を持ち易いが、これはその母親の内分泌腺の異常に外ならぬことが明かになつたので、シュラツプ博士は、移住後の母親の内分泌腺の障害を治療して觀察した所が、果して健全なる子供の生れることが經驗されたさうである。また移住民に犯罪多きは、家庭を有せず、殺風景なる獨身生活を營むこと多きに基くことも見逃してはならぬ。されば我國に於ても、内地に於ける朝鮮人や、朝鮮に於ける内地人の犯罪に就いて、科學的研究を行ふに於ては、必ずやその状態を改善するやうな効果を收めることが出來やう。

翻つて右に掲げた犯罪の種類を見るに、大正十四年に於ける刑法犯罪では、窃盜四八、一八八が拔群にして、詐欺二〇、六二一、傷害一三、二二一、横領一二、〇九一、賭博四、〇四一、文書偽造二、八〇四、失火二、四四三、強盜二、一九一、住居を侵す一、七七三、毀棄及隱匿一、六八三、略取誘拐一、六六五、贓物に關する九九〇、猥褻姦淫及重婚九五七、恐喝九五三、誣告七四五、脅迫六七七

信用及業務に對する六七六、名譽に對する六四五、殺人五八三の如きは犯罪件数の多いものである。  
 また特別法犯では、森林令二、八三六最も多く、これに亞いで警察犯處罰令一、一四九、墓地火葬場  
 埋葬及火葬取締規則八三六、朝鮮阿片取締令七二四、荷車取締規則五三七、藥品及藥品營業取締規則  
 四八七、道路取締規則四七六、モルヒネ、コカイン服用及注射取締規則三三〇等である。更に新受刑  
 者の犯數別、入所時の年齢別、犯由別、教育別を見ると左表の如くなつて居る。

新受刑者犯數別 (大正十四年)

犯 別	内地人		朝鮮人		外國人		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
初 犯	一九六	一〇	六一九三	三六	二四	四	六,五〇三	三三〇
再 犯	四七	一	一,三六六	二	一四	一	一,四七	二二
三 犯 以 上	八二	二	一,〇五一	五	三	一	一,一三六	七
六 犯 以 上	二二	一	八四	一	一	一	一〇六	二
合 計	三四六	一四	八六九四	三三	三三	四	九,一七一	三五二
								九,五三三

新受刑者入所時の年齢別 (大正十四年)

總 說

朝鮮の犯罪と環境

犯由別	年齢別		内地人		朝鮮人		外国人		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
憤	七	一	一九九	一七	二	一	二〇八	一七	二二五	一三五
怨	三	一	八二	八	一	一	八六	八	九四	九五
嫉	一	一	四	一	一	一	四	一	五	五
痴	一	三	二九	二五	一	一	三〇	二六	五八	五八
色慾	六	一	三五	五四	三	一	三三四	五四	三八八	三八八
合計	三〇六	一四	八九四	三三三	一三二	四	九一七	三五一	一二六八	九五三
合	二	一	六〇	六	一	一	六二	六	六八	六八
六十歳以上	九	一	二八九	一五	五	一	三〇三	一五	三一八	三二八
五十歳以上	七九	一	一二三	六〇	二七	二	一、二九	六三	一、二八二	一、二八二
四十歳以上	二九	六	三、四五	九八	五四	一	三三三	一〇四	三、四三二	三、四三二
三十歳以上	一一	七	三、五三	一四	四	一	三六五	一三	三七七	三七七
二十歳以上	七	一	二七〇	二三	四	一	二八一	二四	三〇五	三〇五
十八歳以上	九	一	三〇四	一七	一	一	三三四	一七	三三二	三三二
十八歳未満	九	一	三〇四	一七	一	一	三三四	一七	三三二	三三二

新受刑者犯由別

(大正十四年)

家病貧食誘迷習出疎不懶射虛奢利娛遊飲  
 庭  
 總 不 來 用  
 和苦困慾惑信癖心虞變情倖榮侈慾樂蕩酒  
 說

	一	一	三		七		二	四	二	二	二	一		二	一〇		四	二
		二					五		一						二			
	二	三六七	二二四	二九	一三七	二	二四六九	四〇二	三五	六四	四二六	四	二八	四	二四八二	四	一九二	七
	七	二六	二四	一	三	二	四五	一五	五	三	三				五	八		
		四	七				三	二	一	一	四				七		二	
							一								三			
一九	三	三七	二五三	二九	一四四	三	二〇二	四〇八	三八	六七	四三	四	二八	六	二六八	四	二六	八
	七	二六	二四	一	三	二	五	一五	六	三	三				五八	八		
	〇	四〇	二七	三〇	一四七	一四	二六五三	四三	四四	七〇	四四	四四	二八	六	二七二六	五四	二六	八

朝鮮の犯罪と環境

親族不和	友誼	非行	惡戯	模放	刑餘不信	其ノ他	不詳	合計
1	1	1	1	1	3	4	1	346
1	1	1	1	1	1	1	1	24
1	1	1	1	1	1	1	1	8694
1	1	1	1	1	1	1	1	333
1	1	1	1	1	1	1	1	131
1	1	1	1	1	1	1	1	4
1	1	1	1	1	1	1	1	9272
1	1	1	1	1	1	1	1	351
1	1	1	1	1	1	1	1	953

新受刑者教育別 (大正十四年)

教育程度	内地人	朝鮮人	外國人	合計
高等	1	4	1	5
中等	33	67	1	99
普通	234	873	3	1100
簡易ノ文書ヲ讀ミ得	59	2385	41	2485
無教育	16	2140	40	2196
無筆者	14	335	8	327
	1	259	4	264
				351



合	計	三四六	一四	八六九四	三三三	一三一	四	九一七二	三五一	九五三
---	---	-----	----	------	-----	-----	---	------	-----	-----

即ち新受刑者の犯數は、總數九、五二三中、初犯六、八三三を占め、入場時の年齢は、二十歳以上四十歳未満の者が殆んど大部分である。犯由別は、利慾二、七一六、習癖二、六五三、貧困一、一七七、懶惰四四四、出來心四二三、病苦四〇〇、色慾三八八、遊蕩二三六、憤怒二二五などが多い方である。その教育別は、無筆者の三、五五一が第一位を占め、簡易の文書を読み得る者二、五〇六、無教育者二、二五六、普通教育を了へたる者一、一〇六、中等教育を了へたるもの九九、高等教育を了へたる者五の順序にして、教育の程度低き者に犯罪の多き事實を明白に示し、教育ある者の犯罪は、思想犯か、文書偽造及び詐欺などの智能犯が大部分を占めて居る。

# 여 백

## 第一章 貧富と犯罪の關係

犯罪の發生が犯罪者を圍繞する社會的原因即ち環境に支配されること多きは既に述べたが、就中、貧富の程度によりて、犯罪の種類並にその發生件數には自ら消長がある。ボンガーは貧富の懸隔と犯罪の關係に就いて有益なる研究を發表し、その外此種の資料は學者によりて盛んに提出されて居る。ロンブローゾは伊太利の犯罪人百人に付、これを資産あるもの、稍資産あるもの、資産なきもの、赤貧のものに分ちて調査した結果、その八〇%乃至九〇%が資産なきものに屬し、資産あるものは僅に一〇%に過ぎざる事實を明かにし、また同氏は納稅率を以て貧富の標準と爲し、富裕區、中間區、貧困區の三種に分ち、その性的犯罪、詐僞罪、竊盜罪、殺人罪に就いて研究した結果、詐僞罪は比較的富裕區に多く、中間區これに亞ぎ、貧困區に最も多く、竊盜罪は貧困區に最も多く、富裕區これに亞ぎ、中間區に最も少く、殺人罪は貧困區に最も多く、中間區これに亞ぎ、富裕區に最も少きことを示し、性的犯罪は貧困區、富裕區、中間區の順位になつて居る。これを要するにロンブローゾの研究では、貧困區に概して犯罪の多いことを示して居るが、私は犯罪の種類によりては、極貧なるものより

も、却て貧困の程度低きか稍資産あるものに多い事實を認めるものである。獨逸のメーヤーは小麥の小賣値段の高低を以て累年の經濟狀態の良否を示すものと見做し、浮浪、乞食、殺人、竊盜、性的惡行、其他の犯罪は小麥値段と并行的關係を有し、その値段の低き年には犯罪件數も低下して居ることを明かにした。我國に於ても特に都會地に於ては、物價騰貴は生活難を招致し、自然犯罪件數を多からしむるが、朝鮮は全人口の約八割餘が農耕に従事して居る關係上、水害、旱害等の凶作の年に於ける犯罪件數は例年に比して多いのを普通とする。而して貧富と犯罪の關係を究めんとせば、先づその貧富の程度を考察する必要がある。

### 第一節 社會環境としての貧富

有史以來、地勢、地質、氣候等あらゆる條件に於て先天的に資源の豊富でなく、また人爲的に産業の發達も充分でなかつた上に、人口のみが過多であつた朝鮮は、併合前までは、國力の不振、政治の腐敗の爲め、民心は萎縮怠惰に陥り、國家的にも個人的にも經濟上の活動を阻止せられて居た。従つて半島全體としても、また國民個人としても、その富の程度は著しく低く、貧民の數は甚だ多かつたのである。併合以來、庶政改善の結果、産業の發達、民力の増進は漸く著しきを致して居るけれども

尙ほ内地や諸國外國に比すると大に貧富の懸隔がある。由來完全なる國富の調査及び家計調査の行はれざる我國に於て、貧富に關する研究を爲すことは極めて困難であるが、殊に朝鮮に於てはこの種の資料を得ることに最も不便を感じるのである。何を標準として貧富の程度を觀察するのが捷徑であるかは、人々によりて議論もあらうが、私は手許に在る數種の資料を基礎として、民族的に地理的に、朝鮮に於ける貧富の程度に就いて聊か研究を試みて見たいと思ふ。

### 農家の階級

朝鮮に於ける産業は古來農耕を主なるものとして居るので、その人口の構成は、これを職業別に見ると、大正十四年末現在に於ては、農業八一・五、漁業及製鹽業一・四、工業二・六、商業及交通業六・九、公務及自由業二・九、其他の有業者三・四、無職及不詳一・三の割合を示し、農業は殆んど大部分を占めて居るのである。されば農家の戸數を階級別に觀察するときは、略ぼ全土の戸數に對し貧富の程度を推測することが出来る。即ち左表に示す如く、大正十四年九月末現在の朝鮮の農家戸數は二百七十二萬八千九百二十一戸であるが、これを内譯すると、地主十二萬一千九百八十五戸 自作五十五萬三千六百七十八戸、自作兼小作九十一萬七千三百一十一戸、小作九十七萬三千七百三十八戸、窮農十六萬二千二百九戸となつて居る。

農家階級別戸數表

(大正十四年九月末)

種別 道名	地			自作兼小作	小作		窮農	合計
	主	自作	自作兼小作		小作	窮農		
京畿道	一九二一五	二五〇〇〇	七三、九四一	一一四、五三三	二三八、五五	二四六、四四四		
忠清北道	三七七七	一五、五三六	五三、二三四	五四、一四一	七、五九七	二三四、二七五		
忠清南道	四八九〇	一五、〇二二	六五、二五七	九四、三六九	七、六五四	一八七、一八二		
全羅北道	三、一七三	一四、二二二	五八、七七五	一一、七六五	一三、三二七	二二、一四〇		
全羅南道	一六、二六九	六八、三〇六	一三〇、二七五	一〇三、八一	二七、五三三	三五六、一九四		
慶尙北道	八七九一	六〇、五三三	一三四、八七一	一〇四、七七〇	二四、〇三〇	三三、一九六		
慶尙南道	九、〇〇八	三八、九七五	九三、九二〇	一二、七二五	二五、五六七	二九〇、三八五		
黄海道	一〇、七二五	三九、七七〇	七四、九七八	九三、七〇九	七、六六八	二二、八四〇		
平安南道	六、三九〇	二八、九〇九	四六、六五七	三六、五二九	二、六五四	一一、三三九		
平安北道	一四、四七四	五、二九一八	四九、七五七	六、二六七	七、五〇三	一八七、二七九		
江原道	六〇二五	五八、二五〇	七、三〇九	四八、二九七	九、八〇八	一九四、六八九		
咸鏡南道	五八四四	八九、二六〇	四九、〇八一	二、八五八	四、七七四	一七一、七九七		
咸鏡北道	三、三三四	四七、〇〇七	一四、一六六	三、六一五	二、五九九	六八、三八一		
合計	一二三、九八五	五五三、六七八	九七、三二一	九七三、七三八	一六、二〇九	二、七八九二		

更に大正十四年末現在に就いて、朝鮮全土の耕地を自作地と小作地に分ちて見ると、自作地は、番

五十四萬八千二百餘町步、田百六十萬一千四百餘町步、計二百十四萬九千六百餘町步となり、小作地は、番百一萬五千五百餘町步、田百十八萬三千二百餘町步、計二百十九萬八千七百餘町步に達し、自作地一、〇〇〇に對する小作地の割合は、番一、八五二、田七三九、平均一、〇二三となり、朝鮮に於ても内地と同様に、近年次第に土地兼併の傾向が著しくなり、大地主の數と小作農の數が増加し、農家の中堅を爲す自作農階級の漸次減少の趨勢を辿りつゝあることは注目し値すべき問題である。

自作小作別耕地面積

(大正十四年十二月末)

道名	種別		自作地		小作地		計
	自作	小作	田	計	田	計	
京畿道	五三七,三四七	一,四五一,九三六	六五九,五六〇	一,一九六,九〇七	一,四五一,九三六	一,一九一,〇八二	二,六四三,〇一八
忠清北道	二六〇,一七二	四八三,二一〇	四〇二,九九七	六六二,二六九	四八三,二一〇	四八〇,五〇七	九〇八,八一七
忠清南道	四六三,八七五	一一三,六七八	四三九,七〇二	九〇三,五七七	一一三,六七八	三九四,九六八	一,五三二,七六六
全羅北道	三五七,三三七	一三三,四四二	二九二,四三二	六四九,七五九	一三三,四四二	三八七,三三一	一,七七一,七三三
全羅南道	八〇九,九〇七	一一三,〇〇〇	一三九,二三八	二,一〇一,二二五	一一三,〇〇〇	六九五,八一〇	一,九一五,九二〇
慶尙北道	八三三,〇一一	一〇,五二七	一,〇三〇,〇七一	一,八六三,〇八三	一〇,五二七	九八二,二九八	一,〇三〇,〇七一
慶尙南道	五八四,一九四	一〇,七四六	五五〇,四三三	一,一〇九,三三七	一〇,七四六	五八三,九五二	一,六五八,五八五
黄海道	三六三,四二六	九四八,〇七八	一,七三九,九八八	二,二〇三,四二四	九四八,〇七八	一,三三三,三九三	三,五三六,八一七

平安南道	二四、四六	一、七八四七	二〇、五八九七	四一、〇七五〇	一、五四、二二	一、九四、九六一
平安北道	二六、五四四	一、六五、七三三	一、八七八三〇七	五〇、六三四三	一、六三、〇一九	二、三六、五四四
江原道	四一、四九五	一、七七八六六四	二、一九三六一九	三九、八六六七	八〇、〇五三	一、一九九、一八〇
咸鏡南道	二七、九六二	二、五三六〇〇七	二、八一五六元	一、七五、三三八	六四、九六〇〇	八四、四九八
咸鏡北道	七四、二八〇	一、八二七、一七二	一、八九一、四五二	二、七三〇八	一、七八、〇六一	二〇、五三、六九
合 計	五四、八二〇八八	一、六〇、四一、七九	二、二四、九六、三五五	一〇、一五、五、二、五	二、一八、三、一、〇〇八	二、二九、七、二、八三

試みに各道に就いて、自作地一、〇〇〇に對する小作地の割合を見ると、小作地の最も多きは全羅北道の二、六三四にして、京畿道の二、二〇八それに亞ぎ、その最も少きは咸鏡北道の一〇九にして、それに亞ぐは咸鏡南道の二九三である。これによりて見るも、全鮮中全羅道が小作爭議の熾んな地方たる理由を首肯し得べく、また土地の分配が公平に行はれて居る咸鏡道が理想の農村として羨望する所以を知ることが出來やう。然しながら咸鏡道や平安道と雖も、今後農業の進歩し經濟狀態の發達するに従ひ、決して現状の儘に自作農の割合が維持され、若くは地主對小作の關係が圓滿であるとは考へられないのである。即ちこれ等西北鮮地方も、聽ては新時代の經濟潮流に捲き込まれ、産業組織の變遷に伴ひて、自然その農業經濟が南鮮地方と同じ狀態に立ち到るものと見るのが至當である。

## 自作地千に對する小作地の割合

(大正十四年十二月末)



道名	種別	畝	田	平	均
京畿道		11,011	1,796		12,108
忠清北道		1,646	1,192		1,370
忠清南道		2,451	898		1,695
全羅北道		3,706	1,324		2,634
全羅南道		1,506	500		870
慶尙北道		1,264	954		1,092
慶尙南道		2,840	1,122		2,495
黃海道		2,609	1,341		1,560
平安南道		1,701	854		955
平安北道		1,925	1,009		1,237
江原道		962	450		547
咸鏡南道		627	256		293
咸鏡北道		367	98		109
總計		18,521	739		14,033

備考 本表には土地稟帳未登録土地面積の自作小作の區分を欠く。

農家經濟に關しては、既に各方面に於て種々調査が行はれて居るが、試みに内務局社會課の調査を

見ると左の如くなつて居る。これに據ると、全鮮平均の一戸當農家収入差引残額は、地主五百四十五圓（地主の収入は相當に多いが、その中には大地主を含んで居るので、小地主の收支状況は案外悪いことを忘れてはならぬ）自作農八十七圓、自作兼小作農二十五圓にして、小作農は十一圓、窮農は四圓のいづれも不足を來して居る。これでは小作農及び窮農の生活難や以て知るべきであるが、地主階級に於ても、大營農業者は別として、中流以下の地主中には、近時物價騰貴の影響を受け、また遽かに子弟教育費及び各種の負擔が増加し、一方に於ても奢侈、虚飾の風は依然として改まらず、體面を重んじ、勤勞を卑み、生活程度のみ徒らに向上して家計費の膨脹する等の爲めに、収入に對して支出の急激なる超過を來し、餘儀なく土地家屋を擔保として負債を爲し、或はこれを他に賣却する如きものも自然と夥しき數に達して居ることは、土地所有權の移動の事實に徴しても明かであり、従つて中小地主以下の農民中には大體に於て經濟的に疲弊して居るものが多いことを認めるのである。

最近一箇年間農家收支狀況

（大正十四年九月調）

種別	地 主		自 作 農		自作兼小作農		小 作 農		窮 農	
	收入	支出差引残	收入	支出差引残	收入	支出差引残	收入	支出差引残	收入	支出差引残
道 名										
京 畿 道	三、一七五	一、七〇〇	四、三三三	六、七三三	五、五五五	一〇、八〇〇	六、二二二	五、一〇一	二、〇〇〇	五、三三三
忠 清 北 道	二、六四一	一、七九四	八、三三三	六、六三三	五、五五五	一、一五五	六、六六六	五、〇〇〇	六、六六六	五、〇〇〇

忠清南道	三,一四三	二,〇二八	一,二三五	七四〇	五九八	一四二	六四五	六〇〇	二五	五五五	五五八	△	三	一三五	一三五
全羅北道	五,〇三二	三,〇八四	一,九八八	七四〇	六八八	二〇六	六三三	六〇一	三	四二	四四〇	△	七三	二〇四	二四〇
全羅南道	八,五九三	二,七四〇	五,八〇八	七五五	六四八	八七	五三	五〇〇	一	五四二	五三三	一九	一〇五	一〇五	一一△
慶尙北道	三,二六〇	二,二四二	一,二四四	一,〇九二	一,〇〇〇	七三	八〇	七八一	二〇	六九二	七〇	△	一八	五三	五五
慶尙南道	六,一七五	四,三〇〇	一,九五五	一,八二九	一,三六三	四四六	八五五	八二四	四	六四四	六四四	△	三〇	一三七	一三五
黃海道	一,三三六	一,〇六六	一,七〇	三六七	三六八	一九	三九	三六四	一五	三四九	三四〇	九	九四	九三	九二
平安南道	一,一八五	九〇三	三六二	四七	三六三	七四	三五三	三五	三六	三三	三〇九	四	九二	九二	九△
平安北道	二,〇五六	九三八	一,一三〇	五五五	四三八	九七	四三三	四四二	五	四六	四四	二	一六〇	一六〇	一六〇
江原道	四,六八八	二,八三三	一,九五五	六五五	五三九	二六	五〇〇	四九〇	三〇	四九	四四	△	五	七一	八三
咸鏡南道	三,三七	一,三九八	九六	五四	四六	六	六一	五六三	一八	四〇五	四九	△	四	一三〇	二〇〇
咸鏡北道	一,五五	九三八	六四七	六六二	五五	二六	六三	五九	七三	六四六	五〇	一三六	一五〇	一五四	一四
一戸當平均	一,善四	九九九	善五	六四六	五五	八七	四七六	四五	三五	四〇三	四四	△	一一	一〇三	一〇六

備考 一、△印は減を示す。 二、圓位以下は四捨五入せり。

中農以下の農家の収入が良好でないことは既に述べた通りであるが、尙ほ朝鮮に於ける下層農民の生活が窮迫に陥つて居ることは、最近一箇年間の農家轉業狀況に依りても略ぼ窮ひ得るであらう。人口の密度が高く、且つ土地兼併の傾向が漸く著しい上に、農業の能く進歩發達して居る南鮮地方に、農家の轉業者が多く、これに反せる西北鮮地方に比較的農家の轉業者の尠いことも、朝鮮の農政を研

究する人士の閑却してはならぬ事實である。朝鮮に於ては現在のところ商業及び工業は極めて不振であるけれども、農家の轉業状態を見ると、農業に従事するよりはこの方面または勞働に従事した方が有利である事實も現はれて居る。殊に鮮外出稼者の多いことは最も注意すべきことであるが、凡そ水の卑きに就く如く、人は生活の易き方面に趨くのが當然の成り行である。朝鮮人の鮮外移住者は、地理的關係上從來は、南鮮地方のものは多く内地へ、西北鮮地方のものは多く滿洲、西伯利亞へ移住したのである。然るに最近に至り、慶尙道及び全羅道地方の農家にして、滿洲、西伯利亞方面へ移住し水田耕作を行ふものが漸く増加して來た。私は命に依りて昭和二年の秋、南北滿洲及び北支那地方に出張し、親しくこの事實を目撃し、種々調査の結果、内地の勞働者需要に限りある以上、將來南鮮地方の農家にして滿洲、西伯利亞地方へ移住する者は一層増加する傾向にあることを確めたが、内地の農村と甚だしき徑庭なき南鮮地方の農家轉業の狀況は、畢竟するにその下層農家の經濟状態が、西北鮮地方に比し今日既に尠からず逼迫窮乏せる事實を示すものであると觀察される。

最近一箇年間の農家轉業狀況

(大正十四年九月)

種別	出稼者	一家離散者	其他計
商業に就ける者	内地へ 滿洲へ 西伯利亞へ	一家離散せる者	其他計
工業及雜業に就ける者			
勞働又は傭人となる者			

京畿道	七九九	四八六	一三三三	六六	二四	六	四一	三七	二七八二
忠清北道	一、三二四	九九三	二、八三七	一三九	二四	六	五四	七〇	五、八九七
忠清南道	四〇一	一、二六六	九三六	九四	一八	一	一七〇	五〇	一、九三六
全羅北道	一、六五六	一、七九二	二、一九八	六二六	一六	一	六六四	一、三四五	八、二八七
全羅南道	一、七〇五	一、一九四	五、四三九	四、六六三	九	二四	四八六	一五	二、三五五
慶尙北道	一〇、五五〇	五、九三五	二八、七六〇	六、九九五	一、二九五	二三五	二、八九〇	四九五	五七、〇五五
慶尙南道	二、二二三	一、九八七	一四、〇六九	二、二〇二	二五一	一五	九元	二六一	三、一八三七
黃海道	六八七	五九六	一、二八六	二八	八	三	一三二	四九	二、七八九
平安南道	七四四	五九	三、五九七	二二	八二	一	三四	六	五、〇〇五
平安北道	四六七	六七二	一、五三四	三〇	二九九	六	二四	二四二	三、三六九
江原道	六三二	五七八	一、四九〇	一九九	五三	三八	一七一	三九	三、二〇〇
咸鏡南道	二、一九五	一、六二〇	五、五九五	二二五	七五一	四八五	六七五	八八〇	二、二四二六
咸鏡北道	四五五	二三二	五八〇	四九	三〇三	三七二	五	九	二、〇〇四
合計	一三、七二八	一六、八七九	六九、六四四	二五、三〇八	三、一三三	一、〇九二	六、八三五	三、四九七	一五〇、二二二

右の統計を見るに、一箇年間に十五萬餘人の農家轉業者あり、その中で、他の業務に就いた者、内地または滿洲及び西伯利亞へ出稼した者を除き、一家離散せる者その他が約一萬人以上に及んで居る如きは、農業發達の未だ幼稚にして、その進歩の道程に在る今日の朝鮮としては、寧ろその數の多き

に驚くが、貧者に適當なる職業を與へ、過剩勞力を利用するだけの生産業の勃興せざる限り、私はこの傾向の將來益々増大せんことを深憂するものである。

### 租税の負擔

國民の貧富の程度を測定する一方法として、各自の租税負擔額を見ることも普通に行はるゝ所であるが、間接税の負擔額を地方別に檢することは不可能であるから、直接税のみに就いて、府及び郡・島に分ち、内鮮外人別に、その負擔金高の總額、一戸當、一人當を示すと左の如くなつて居る。而して各府に於ける直接税負擔額は、一戸當 内地人 八二・六五二、朝鮮人 一二・五八三、外國人 三〇・一五八、一人當 内地人 二〇・六二〇、朝鮮人 二・七九二、外國人 七・七二七 となつて居り、郡・島に於ける直接税負擔額は、一戸當 内地人 八二・五一三、朝鮮人 一一・八六五、外國人 一七・二三九、一人當 内地人 二三・四九三、朝鮮人 二・二一六、外國人 四・八二二 にして、擔税力を通じて見たる朝鮮在住の内鮮外人の貧富の程度には相當の懸隔あることを示して居る。各道及び各府に於ける一人當直接税負擔額を見るに、府に在りては、内地人は群山府の二七・四七四、朝鮮人は京城府の四・二四三、外國人は京城の一・二・三二六がどれも筆頭を占めて居り、郡・島に在りては、内地人は全羅北道の三九・二六四、朝鮮人は忠清南道の三〇・八三、外國人は忠清南道の一・二・六二二が最も多い方である。

直接税負擔額表 (府) (大正十四年度)

府別	區分		朝鮮人		外國人	
	内地	人	朝鮮人	一人當	負擔金額	一人當
京城府	負擔金額 一戸當	一人當	負擔金額 一戸當	一人當	負擔金額 一戸當	一人當
仁川府	一九九七、九九 <sup>四</sup>	一〇、二七六	九三、三〇三 <sup>四</sup>	一九三六二	五八、三二九 <sup>四</sup>	五九、九〇六 <sup>四</sup>
群山府	二七七、五〇五	一〇、八九七	八一、四五五	八、六六七	二〇、四三三	二〇、三九七
木浦府	一九四、三九五	一〇、九九一	四〇、三七四	一三、一九四	四〇、五九九	三九、四一四
大邱府	一六七、〇三五	一三、九四九	二八、〇九一	七、五〇五	一、四九三	二、七二七
釜山府	三〇二、三三九	五四、五〇五	一七四、三八七	一五、七五五	三、五三六	三、七一九
馬山府	七四九、二五九	八〇、〇一四	七六、九四四	五、四四〇	一、二二七	五、二七一
平壤府	七六、〇三〇	六、九六四	二九、二七七	八、〇三九	一、七〇七	一、二五八
鎮南浦府	二六三、九五五	三八、七〇三	一五四、七〇二	七、四九七	一、八〇〇	一〇、四五五
新義州府	一一、五三四	九三、七八	三三、八三三	六、七一九	一、五五八	三、三六三
元山府	九五、一四七	六七、九一三	二二、八三八	九、一九一	一、六四六	八、六七九
清津府	一五九、三七七	九四、九六五	四六、四四六	八、四六六	一、九三七	六、一〇九
合計	九八、七八九	六〇、六四四	二〇、九八一	六、〇六二	一、五六九	二、九三五
備考	四四九、三五九	八二、六五二	一、六〇、六三三	二、五八三	二、七九二	三〇、一五八

備考 負擔額中へは國稅、地方稅、府稅、面賦課金、學校費賦課金、學校組合費の六種中直接税のみを含む。

直接税負擔額表 (郡及島) (大正十四年度)

道名	内地		朝鮮		外國	
	負擔金額	一人當	負擔金額	一人當	負擔金額	一人當
京畿道	二七二,七三六 <sup>四</sup>	六六,二二四 <sup>四</sup>	一八,二二〇 <sup>四</sup>	四〇五,二七八 <sup>四</sup>	二,三六八 <sup>四</sup>	二,五八三 <sup>四</sup>
忠清北道	一五二,三六三	七四,六七五	二〇,八〇九	二〇六,六三三 <sup>〇</sup>	二,三三八四	二,五二六
忠清南道	五〇九,三三五	九四,十三九	二六,〇二六	三七六,四九七	一,六六四八	三,〇八三
全羅北道	七八九,九三四	一五三,四八九	三九,七六四	三三三,九三三 <sup>六</sup>	二,三二六四	二,五六五
全羅南道	七九九,五九〇	二〇七,四七七	三三,〇八七	四五四,一七九	一〇,九八九	二,二〇一
慶尙北道	三七二,四一五	六九,九三三	一九,〇一八	五五三,四六五	三,三七一五	二,五八七
慶尙南道	七三二,四九四	八四,五三五	二二,六四二	四六八,七九三	二,三四三二	二,六〇〇
黄海道	三六七,六四二	八三,三六五	二五,〇二六	三五七,八四〇 <sup>一</sup>	一,三〇三四	二,五五八
平安南道	一五八,〇八一	六七,四九八	二二,四五一	二〇一,三三三	九,九六三	一,八二七
平安北道	二二三,七五七	三三,四三九	二二,〇二二	一九五,二三三	八,〇八三	一,四三四
江原道	一五三,〇二九	五四,七二二	一七,七二〇	二〇〇,二七三	八,三九四	一,五四〇
咸鏡南道	一六三,九四八	四四,三八二	一四,二五四	一五六,四九五	七,三三九	一,二〇四
咸鏡北道	二八四,八六九	五九,〇六四	一九,七四六	七四八,二二九	八,〇八三	一,三〇四
合 計	四八五,八九九	八二,五三三	三三,四九三	三,九八〇,六五〇 <sup>一</sup>	二一,八六五	二,二二六



以上は直接税全部の負擔額に就いて貧富の程度を窺はんとしたのであるが、更に地稅負擔者に就いて、その納額別人員を内鮮外人に分ちて見ると左の如くなつて居る。而して市街地稅施行地に在りては、納稅額十五圓以上のものは内地人が多く、地稅令施行地も五百圓以上の多額納稅者は内地人が多く、朝鮮人は概して一圓以下の少額納稅者が多數を占めて居る。

地稅負擔者納額別人員 (大正十四年十二月末)

納稅額	地稅令施行地			計	市街地稅令施行地			計
	内地人	朝鮮人	外國人		内地人	朝鮮人	外國人	
五百圓以上	四八〇	四二八	一	八九九	三三	五	四	七二
二百圓以上	八四七	二八六二	六	三、七二五	一七〇	二七	八	二〇五
百圓以上	一一八七	一一七三	一四	八三七六	三三八	五二	二〇	四〇〇
五十圓以上	二二二八	一八〇五五	二六	二〇、二九九	六九九	一五〇	四〇	九八九
三十圓以上	二四七三	二七、七六	三六	三〇、七三五	七六一	三三五	四五	一、三三一
二十圓以上	二、六三二	四〇、二四	三三	四一、七八九	七九八	五〇四	四五	一、三四七
十五圓以上	二、四三三	四八、九六〇	二六	五二、四二九	六五九	五三一	三三	一、三三四
十圓以上	三、五三九	一〇〇、三二八	四八	一〇三、九〇五	一、〇一七	一、一三五	六一	一、一三四
七圓以上	三、五七〇	一四、一九二	三四	一四五、五二六	一、〇七三	一、三六六	五七	一、四九六

第一章 貧富と犯罪の關係

朝鮮の犯罪と環境

五圓以上	三、九二二	一九二〇、九七	五一	一九六〇、六九	一〇、八五	一、九五四	五八	三〇、九七
三圓以上	六、二三三	三三九、四七五	九〇	三四五、六九八	一、五〇九	三、九五〇	七五	五五、三四
二圓以上	五、八七一	三七〇、三六八	一〇三	三七六、三四三	一、一四〇	四、一四七	五五	五三、四一
一圓以上	八、四九二	五八九、四二	一九二	五九八、一一〇	一、五八〇	九、八三四	九〇	一一、四九四
五十錢以上	六、五〇一	五六〇、三七三	二〇七	五六七、〇八一	一、〇一一	二、六六九	六一	二二、七四一
三十錢以上	四、七二六	四五五、九一〇	一八八	四六〇、八四	五、五四	八、〇七九	二九	八六、六一
三十錢未満	六、六四四	七八〇、四三二	三四八	七八七、四三三	六、三五	一一、六九四	四二	一三、三六一
合 計	六、一六〇	三六七、五六八	一、四〇三	三、七三八、七〇一	一三、〇八二	五六、五二三	七四	七〇、三二九
地 番 數	九二、三二二	一七五、〇六二、〇五	八〇、一八	一八四、六、五〇五	四九、六三三	八九、一一七	一、〇四一	一四〇、七八一

備考 地稅令施行地は左の市街地稅施行地を除く面全部を包含す。

市街地稅令施行地

京畿道	京城府、仁川府、水原郡水原面、開城郡松都面	慶尙南道	釜山府、馬山府、晉州郡晉州面
忠清北道	清州郡清州面	黃海道	海州郡海州面
忠清南道	公州郡公州面、大田郡大田面、論山郡江景面	平安南道	平壤府、鎮南浦府
全羅北道	群山府、全州郡全州面	平安北道	新義州府、義州郡義州面
全羅南道	木浦府、羅州郡羅州面、光州郡光州面	咸鏡南道	元山府、咸興郡咸興面
慶尙北道	大邱府、金泉郡金泉面	咸鏡北道	清津府

更に朝鮮に於ける地主階級の貧富の程度、並に土地所有權移動の趨勢を知る爲め、累年の地稅及び

市街地納税義務者面積別人員數を見ると左の如くなつて居る。これに據りて見ると、大體に於て大地主の年と共に増加し、所謂土地兼併の傾向著しき事實を示し、また内地人の土地投資の特に市街地に於て旺盛なることも看取し得られるのである。

地稅納稅義務者面積別人員數

段 別	種 類 別	大正十年末	同十一年末	同十二年末	同十三年末	同十四年末	昭和元年末
二百町歩以上	内地人	一六九	一七六	一七九	一六七	一七〇	一七七
	朝鮮人	六六	六二	六七	四八	四五	六六
百五十町歩以上	内地人	一〇八	一〇五	一三三	一三六	一三〇	一一一
	朝鮮人	九四	七六	七二	七一	七四	九六
百町歩以上	内地人	二二三	一九九	二二〇	二三八	二三〇	二四五
	朝鮮人	二六六	一八九	二二七	二三七	二七〇	二九
七十町歩以上	内地人	二四六	二五八	二六六	二九六	二九九	三〇〇
	朝鮮人	五六三	四五〇	四五六	五〇〇	五五七	五八〇
五十町歩以上	内地人	二七三	二七一	三〇八	三三八	三六〇	三七六
	朝鮮人	一〇八七	九二一	九七	一〇〇七	九五〇	一一〇九
四十町歩以上	内地人	二四〇	二三四	二六六	三三五	三八二	三三九
	朝鮮人	一三三八	一二三二	一二七六	一四四五	一五三八	一四三八

朝鮮の犯罪と環境

三十五町以上	朝鮮内地人	二三八	一三九	二七八	二七七	三七七	三三六
三十町歩以上	朝鮮内地人	一、五七〇	一、三六六	一、一八一	一、五六〇	一、六五五	二、四九九
二十五町歩以上	朝鮮内地人	二六一	二二三	三三九	三六六	四二七	三九一
二十町歩以上	朝鮮内地人	二、三八六	二、〇〇八	二、三三五	二、三四八	二、七八八	二、五〇五
十五町歩以上	朝鮮内地人	二八一	三五六	四二二	四二九	五〇二	四六五
十町歩以上	朝鮮内地人	三、六四〇	二、九三二	三、二五三	三、二二七	三、六二〇	三、九九六
七町歩以上	朝鮮内地人	四一〇	四四一	四九九	五六九	六二六	六二九
五町歩以上	朝鮮内地人	五、五〇四	四、八四〇	四、七三三	五、〇二二	五、六〇五	五、五八九
四町歩以上	朝鮮内地人	五、五三	六、五三	七、九四	八、四七	九九五	九一五
三町歩以上	朝鮮内地人	九、六三五	九、四八二	九、四三二	九、六五〇	一〇、三四四	一〇、三九一
二町歩以上	朝鮮内地人	九九一	一、〇八一	一、二二八	一、二八一	一、三九四	一、四五〇
一町歩以上	朝鮮内地人	一、〇〇一	二、〇八七	二、〇二四	二、〇四六	二、四三三	二、三三四
一町歩以下	朝鮮内地人	一、〇四〇	一、一九一	一、三五六	一、四四三	一、六九二	一、七〇四
一町歩以下	朝鮮内地人	三、五二五	三、五八六	三、五九三	三、五九〇	三、六九一	三、八〇四
一町歩以下	朝鮮内地人	六、七八	八二二	八八五	一、〇二六	一、一三二	一、二六九
一町歩以下	朝鮮内地人	三、〇六二	二、九五七	三、一〇一	三、三一九	三、四三〇	三、五五九
一町歩以下	朝鮮内地人	八三七	一、〇三三	一、一九八	一、二六一	一、四二三	一、四四一
一町歩以下	朝鮮内地人	四、五四八	四、九六五	四、四八〇	四、七三五	四、九二七	五、〇四三
一町歩以下	朝鮮内地人	一、〇六八	一、一〇一	一、二八六	一、四三〇	一、五八六	一、六八二
一町歩以下	朝鮮内地人	六、四二七	六、四二四	六、五七三	六、九二五	七、一八五	七、五七五

三町五反以上	内地人	1,130	9,988	1,193	1,401	1,440	1,611
以	朝鮮人	5,687	5,732	5,949	6,909	6,944	7,647
三町歩以上	内地人	1,093	1,161	1,464	1,657	1,927	2,095
以	朝鮮人	8,087	8,460	8,964	8,608	9,202	9,183
二町五反以上	内地人	1,355	1,431	1,693	1,861	2,054	2,194
以	朝鮮人	10,145	10,971	10,546	10,783	11,655	11,999
二町歩以上	内地人	1,655	1,861	2,091	2,363	2,657	2,803
以	朝鮮人	3,923	4,330	4,330	4,834	4,954	5,036
一町五反以上	内地人	2,144	2,635	2,788	3,044	3,377	3,475
以	朝鮮人	11,030	12,197	12,538	13,619	14,445	15,130
一町歩以上	内地人	3,127	3,527	3,939	4,090	4,809	5,125
以	朝鮮人	3,527	3,585	3,797	3,939	4,809	5,125
七反歩以上	内地人	3,120	3,429	3,855	4,059	4,534	4,756
以	朝鮮人	3,682	3,539	3,669	3,415	3,388	3,300
五反歩以上	内地人	3,668	3,440	4,145	4,395	4,573	4,927
以	朝鮮人	3,447	3,628	3,884	3,568	3,334	3,398
三反歩以上	内地人	4,999	5,399	6,001	6,273	6,607	6,844
以	朝鮮人	4,774	4,953	4,760	4,798	4,876	4,902
一反歩以上	内地人	6,431	7,216	7,601	7,684	8,045	8,659
以	朝鮮人	6,018	6,358	6,385	6,497	6,551	6,691

第一章 貧富と犯罪の關係

朝鮮の犯罪と環境

一 反 步 未 滿	内地人	八一八〇	八九六八	九一八七	一九九五	一〇〇三三	一〇三三三
	朝鮮人	五三三四二四	五七三三〇	五九九五五八	六一〇五八二	六五二九二	六五二八五二
合 計	内地人	四四、三九七	四八、九三九	五三、五九二	五七、二四三	六一、六八〇	六四、五八一
	朝鮮人	三、四一八、五四〇	三、四七二、四四七	三、五二八、七四四	三、五七二、五三六	三、六二五、六一八	三、七三九、一六一

備考 外國人の昭和元年末に於ける狀況は左の通りである。

市街地稅納稅義務者面積別人員數

百五十町歩以上	一	十町歩以上	一九	一町五反歩以上	四〇
百町歩以上	一	七町歩以上	二五	一町歩以上	六五
五十町歩以上	二	六町歩以上	九	七反歩以上	五一
四十町歩以上	三	五町歩以上	一五	五反歩以上	八六
三十五町歩以上	七	四町歩以上	二七	三反歩以上	一三四
三十町歩以上	六	三町五反歩以上	一一	一反歩以上	二〇八
二十五町歩以上	一〇	三町歩以上	二二	一反歩未滿	六一〇
二十町歩以上	九	二町五反歩以上	一八	合計	一、四二五
十五町歩以上	九	二町歩以上	三六		

反別	種類別	大正十年末	同十一年末	同十二年末	同十三年末	同十四年末	昭和元年末
百町歩以上	内地人	一	一	一	一	一	一
	朝鮮人	一	一	一	一	一	一

第一章 貧富と犯罪の關係

七町歩以上	十町歩以上	十五町歩以上	二十町歩以上	二十五町以上	三十町歩以上	三十五町以上	四十町歩以上	五十町歩以上	七十町歩以上
朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人
内地人	内地人	内地人	内地人	内地人	内地人	内地人	内地人	内地人	内地人
一四	三三	五二	六一	七一	一一	一二	一一	一一	一三
一五	二二	八二	二二	四二	一一	二二	一一	一一	一一
二四	二二	二〇	五四	一三	一一	一一	一一	一一	一三
二三	二三	二三	五四	一四	一一	一一	一一	一一	一一
一五	二〇	二三	二〇	五二	三三	三七	二二	三三	四四
三三	二四	〇九	一四	一五	一一	一一	一一	一一	一一

四三

朝鮮の犯罪と環境

七反歩以上	一町歩以上	歩一町以上	二町歩以上	歩二町以上	三町歩以上	歩三町以上	四町歩以上	五町歩以上	六町歩以上
朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人
335	307	239	242	140	136	92	108	49	52
386	265	196	233	155	152	81	93	50	45
386	284	210	232	238	219	87	85	45	58
433	333	336	244	233	232	82	87	48	59
366	331	259	291	134	145	76	90	53	73
343	378	272	309	155	162	71	84	55	79



貯蓄の多寡

五反歩以上	内地人	三二二	三〇四	三四三	三六〇	三七一	四八八
	朝鮮人	五四〇	六三二	六六六	六六〇	六三五	五〇六
三反歩以上	内地人	六三三	七五	七五四	七四九	七九二	七二三
	朝鮮人	一〇一九	一二四一	一二五一	一二七九	一二四九	九六八
一反歩以上	内地人	一九九二	一八五四	二〇三九	二〇八六	二二三一	二五五一
	朝鮮人	二六五八	三八五四	三六九八	三九一一	三七二〇	二九三四
一反歩未滿	内地人	七三〇	七三五八	八一五五	八三四六	八四〇二	九〇五七
	朝鮮人	四九八七四	四九〇五六	五〇一二二	四九六二二	四九八六三	五〇〇三七
合計	内地人	一一〇九二	一一二七	一二六四	一二九四	一三〇七九	一三九九六
	朝鮮人	五五二二六	五五、七五八	五六七四〇	五六五二〇	五六、五二六	五五、四五二
備考	外國人の昭和元年末に於ける狀況は左の通りである。						
二十五町歩以上		一	三町五反歩以上	三	七反歩以上	二五	
二十町歩以上		三	三町歩以上	九	五反歩以上	一九	
十町歩以上		一	二町五反歩以上	六	三反歩以上	二八	
七町歩以上		三	二町歩以上	九	一反歩以上	九四	
五町歩以上		三	一町五反歩以上	一三	一反歩未滿	四六九	
四町歩以上		二	一町歩以上	一八	合計	七〇六	

貯蓄の多少即ち銀行預金や郵便貯金の在在を以て、各國民または個人の貧富の程度を測定するは決して正鵠を得た方法でない。例へば佛蘭西人や白耳義人の如く貯蓄心の發達して貯蓄機關を利用する國民もあれば、支那人の如く貯蓄心は旺盛であつても現銀を貯藏して銀行などを比較的に利用しない國民もあり、個人としても或は直接事業に投資する者、或は公債及び株式等の有價證券に投資する者、または銀行預金及び郵便貯金を爲す者等、各自の欲する所に依つて貯蓄の方法は異なつて居るが、然しながらこれ等の金額を通じて、貯蓄思想普及の程度及び貧富の一斑は窺知されなくてもない。元來朝鮮に於ける人口の大部分を占むる朝鮮人は、遠い昔より勤勞を厭ひ、奢侈浪費の弊ありて、一般に貯蓄心乏しく、「其日暮し」と云はんよりは、寧ろ「借金生活」を平氣で繰返し、従つて蓄財の餘裕ある者は極めて僅少であつた。その原因に就いては色々の説があるが、兎も角も勞働者は今後の収入を目當てに、百姓は來る秋の收穫を頼りにして、高利の負債を爲し、甚だしきは先祖傳來の借金を背負ひて、希望もなければ光明もなき陰慘なる生活を營んで居る者が多かつたのである。併合以來、當局は各種産業の開發を計ると共に、勤儉貯蓄の奨勵を行つた結果、國民の生活は次第に改善され、また貯蓄思想は年と共に普及し、各種預金の金額も著しく増加して來たことは洵に欣ぶべき傾向である。朝鮮に於ける預金の主なるものとしては、各銀行民間預金、金融組合預金、郵便貯金を擧ぐることに

出来るが、先づ各銀行民間預金の國人別を見ると左の如くなつて居る。

一、各銀行民間預金國人別調

(大正十四年十二月末)

道名	種別			預金總額		人口一人當預金	
	内地人	朝鮮人	外國人	計	内地人	朝鮮人	外國人
京畿道	五五六,一七五 <sup>門</sup>	二,七八六,五二〇 <sup>門</sup>	三,九四四,一〇四 <sup>門</sup>	七,三四三,七六六 <sup>門</sup>	五三,三七七 <sup>門</sup>	六九九,一四二,三三三 <sup>門</sup>	三,七四一 <sup>門</sup>
忠清北道	八八六,五八	二,八二八,八二	二,四一四	一,一七一,八四	一一,二六〇	〇,三四五	二,六一
忠清南道	三五五,三四一	一,〇〇二,七七六	九六,八七五	四,六五三,〇六一	一八,六二二	〇,八二	三,六七三
全羅北道	六八六,九九二	一,二二,二九二	二九,二二三	八,一一,三三七	一五,二八七	〇,八四八	六四,〇二七
全羅南道	三九三,九五〇	一,七七〇,二九二	一五八,〇〇八	五,八六七,八〇〇	二四,五六一	〇,八五〇	七,二四二
慶尙北道	六三三,三八〇	一,八六九,五七二	二〇,四九八	八,四三八,四〇〇	一五,二七四	〇,八四一	二二,七七三
慶尙南道	一九八,二五二 <sup>〇</sup> 三	二,〇八九,五三七	六七一,六〇二	二,二五八,三三四 <sup>一</sup>	二五,五六一	一,一一〇	四一,六六七
黄海道	一六五,二三五	三三三,七二五	六五,七九六	二〇,五二,八三六	一一,四三三	〇,三三九	二六,二六二
平安南道	六八八,六三一	一,三二五,八六三	三四,〇六〇	八,五二,七九四	一九,九四三 <sup>〇</sup>	一〇,九七	八三,四八五
平安北道	一二七,七〇六 <sup>一</sup>	四〇,八九六九	四六,六六六	一,七三二,六九七	七八,六四二	〇,三〇一	四〇,九七
江原道	八九,二三八	一三二,七三三	一五,二五一	一,〇四〇,三〇二	一〇,三七四	〇,一〇二	一四,八三六
咸鏡南道	三四四,五二〇	八三七,二二〇	一五九,九三一	四,四三七,五六一	一六,三五五	〇,六三三	四三,八六一
咸鏡北道	二九一,六二〇 <sup>〇</sup>	二五〇,七五九	四八七,三三〇	三,二二五,六八九	二二,九三五一	〇,四七七	一一,三三一

第一章

貧富と犯罪の關係

合 計 二四二八九四二 二四三〇二九〇 五八〇〇六八 一四四二〇一九四〇 二六八六八〇 一三〇五 二三八九五 七五八三

即ち各道中人口一人當預金の最も多きは京畿道の三七・二四一にして、慶尙南道一一・五一二これに亞ぎ、全道に於ける内鮮外人別の平均額は、内地人二六八・六八〇、朝鮮人一・三〇五、外國人一二三・八九五、平均七・五八三となつて居る。朝鮮に於ける銀行の營業所は本支店出張所を合し百六十一に達し、一營業所當人口數十一萬八千百九人、面積八十九方里弱であるが、その多くが市街地に分布して居る關係上、京城及び釜山の如き商業の盛んなる地方を含む右の二道が銀行預金の多いのも當然にして、これに反し、江原道を始め、平安北道、忠清北道、黃海道の如き市街地の少い、銀行の普及せざる地方に銀行預金の少いのは止むを得ないことである。また内地人の多くは市街地に住み、その職業も農業以外のものが多い爲めに、朝鮮人よりは銀行を利用することが多いのであるが、概して兩者の富の程度には懸隔がある。

朝鮮に於ける庶民金融機關として、金融組合は最も特色あるものに屬して居るが、今その預金地方別を見ると左の通りである。

## 二、金融組合預金地方別調

(大正十四年十二月末)

區分	都市金融組合		村落金融組合		合 計		人口一人 常預金
	組合員	非組合員	組合員	非組合員	組合員	非組合員	
道 名							
京 畿 道	四三三、三八三	一七〇、五七四	三八四、五三六	二四、五七三	七九七、九一九	四一六、三二四	四九六、一〇四三
忠 清 北 道	六〇、一六一	二〇、九六四	二四五、九八五	一〇、〇六一	三〇六、二四七	一、七〇、三五六	一、五七六、六〇三
忠 清 南 道	二二九、六〇〇	六、三三九	四六、八七七	二、五五四〇	六八二、四九七	三、二八七、九七	三、八〇、三五九
全 羅 北 道	三九、一五一	一〇、四一九	一三四、三三九	一、五三二、五四	六九三、四八〇	二、五五、八三	三、二五八、六六三
全 羅 南 道	二二、〇三九	三、五、九五	六〇、四八九	二、一五三、四三	八八二、五二八	二、五、九四八	三、四〇、一九八
慶 尙 北 道	一五八、二三九	七、八一、二八六	五七二、〇九八	二、八五、五八八	七九三、三三七	三、六〇、六七四	四、三三六、一一一
慶 尙 南 道	一一、二四〇、五六	一、六〇〇、〇〇四	六八、四三二	二、六四五、九七一	一、八九五、四八八	四、二四五、九八六	六、三三四、二四四
黃 海 道	一〇〇、五四二	三、六一、三三八	三五四、六六六	一、七八四、〇一〇	四、五五、三三八	二、一四五、四八	二、六〇〇、三七六
平 安 南 道	一〇九、一八二	六、〇〇、二八	一五三、三〇八	一、四六六、四七	四〇二、四九〇	二、二、三六、九七	二、五九、一八七
平 安 北 道	一一、二六〇	一、四八四、五六	三五五、四四四	二、一九六、四七	四六八、〇四五	二、六八〇、七九	三、一四八、七七四
江 原 道	四七、三四一	一、五二、五七七	一五六、三五五	一、六四八、一五三	三〇三、六七六	一、七九九、七〇〇	二、一〇三、四〇六
咸 鏡 南 道	七〇、五四	五〇、四九一	一五四、四〇七	一、五三四、四八	二三四、九二二	二、〇三九、三九	二、二、六四、二四〇
咸 鏡 北 道	三三三、二〇六	一〇、五八、三三七	一四九、六五四	一〇、二九六、七七	四八二、八六〇	二、〇八七、九四	二、五、六九、八五四
總 計	三、三八九、二三六	九、五八、三三八	四、九三四、五八〇	二、四八四、〇九七	八、三三三、七二六	三、四三、七九二、九五	四、二七、三〇、一一

大正十四年十二月末現在の金融組合数は五百十七(村落金融組合四百五十八、都市金融組合五十九)金融組合聯合會十三にして、金融組合一箇所當人口數三萬六千七百八十一人、面積二十七方里餘であ

るが、右の表に據ると、各道中金融組合の人口一人當預金額は、咸鏡北道の四・一九七が最も多く、慶尙南道の三・二三〇、及び忠清南道の三・〇六四これに亞いで居る。人口一人當金融組合預金の最も少い地方は江原道、全羅南道、咸鏡南道等である。人口分布の粗密及び金融組合普及の如何にも依るが金融組合利用の程度はこれに依りて知ることが出來やう。

銀行預金や金融組合預金の消長を見ると、これを利用する程度は判るけれども、未だ各人の貧富の程度を測定することは困難である。これに反して郵便貯金の方は、市街地に偏在する銀行、及び會員組織の金融組合などに比し、その分布が比較的普遍的であると、且つはその預金の性質上、一人當預金額を比較すると、その利用の程度と共に、一面また庶民階級の資力の程度をも略ぼ知ることが出來ると思ふ。

三、郵便貯金預入人員金額調 (大正十四年度末)

道名	内地			朝鮮		
	人員	金額	一人平均金額	人員	金額	一人平均金額
京畿道	一一,二一五	三,七四九,九五 <sup>円</sup>	三三・六七〇 <sup>円</sup>	二六,八四三	五,三二〇,七五 <sup>円</sup>	二・四四九 <sup>円</sup>
忠清北道	八,三〇五	二,七八〇,〇四	三三・四七四	四七,六四〇	八,四二三四	一・七六八
忠清南道	一〇,二二一	六,〇九〇,一五	三〇・二六六	六一,八一	一三,二一四	二・一三五

全羅北道	一九四八〇	六五九七六一	三三・六六九	七二九九〇	一九〇・八五七	二・六一五
全羅南道	四三〇〇四	一、四七、三五八	三四・一九九	一三二、五一五	二九七九二九	二・三六五
慶尙北道	三四〇〇八	一、二七六、〇二一	三四・五六〇	一〇九、七六七	二六六、〇六四	二・四二四
慶尙南道	七二、九七一	二、五五三、一七一	三五・四七五	一〇六、五二四	三八〇、六八五	三・五七四
黃海道	一五、二八七	六七六、〇八〇	四四・三六	六八、七七七	一三七三〇八	一・九九六
平安南道	三三、九四	一、一六六、二九二	三四・三八〇	八三、八五五	二三五〇五八	二・八〇三
平安北道	一九、五九五	九八〇、八二九	五〇・〇五五	一一〇、六七五	二五〇、八七〇	二・〇七九
江原道	一一、七四九	四七九、九九三	四〇・八五四	六七、二〇八	一四〇、一七二	二・〇八六
咸鏡南道	二八〇三八	一、〇四七、九三二	三七・三七五	八九、二七七	一八〇、六五九	二・〇二五
咸鏡北道	四三、六八一	一、三五六、七一九	三二・〇六〇	四三、〇四六	一六五、〇八〇	三・八三五
總計	四六二、三三〇	一六、三三〇、二二五	三五・二八一	一、二二九、九四八	二、九九二、二三三	二・四五三

即ち大正十四年度の全道一人平均郵便貯金額は内地人三五・一八二、朝鮮人二・四五三にして、内地人は平安北道の五〇・〇五五第一位を占め、黄海道の四四・二二六これに亞ぎ、朝鮮人は咸鏡北道の三・八三五を筆頭とし、慶尙南道の三・五七四これに亞いで居る。貯蓄思想發達の如何にも依るが、内地人と朝鮮人との貯蓄力則ち貧富の程度に相當の開きあることは、右の郵便貯金額を通じて看取するに難くあるまい。

これを要するに、各種貯金の状態から觀察すると、朝鮮人多數の富の程度は大體に於て甚だ低く、下層階級に屬する者の數の極めて多く、その貧民の生活に至りては實に悲惨なるものあり、一般の家計が概して餘裕なく弾力性に乏しいことを窺ひ得るであらう。「恒産無き者に恒心無し」、社會の健全なる發達を冀はゞ、先づ民力の涵養を計ることが急務である。

### 貧困者の數

朝鮮に於ける貧富の程度を測定すべき二三の資料に就いては概略の説明を試みたが、現在生活上窮迫を告げて居る所謂貧困者の數が幾干に達し、その分布が如何になつて居るかを觀察して見やう。古來、朝鮮に於ける貧困者の生活程度は極めて低く、農民に在りても窮農若くは火田民の如きは、端境季節に入ると、粗惡なる穀食すら爲し得ずして、野生の木の實、草の根などを食し、甚だしきは或る地方に於て土を喰ふ者さへある。されば乞食の數の多いことも驚くべきもので、殊に京城の如き大都市の目貫の場所に、みすばらしき乞食の蟬集せる様は、市街の各所及び近傍に散在せる土幕生活者の多いこと、共に、人生の悲哀であり且つ文明の汚辱である。最近の調査に據ると、朝鮮全土に於ける細民は四十萬八千四百二十二世帯、人口百八十六萬人、窮民は七萬三千五百十五世帯、人口二十九萬五千六百二十人に達し、總戸數に對する細民及び窮民の割合は、世帯數に於て一三%、人口數に於て



一一%を占めて居る。尙ほこの外に一萬六十六人の乞食が居るのであるから、朝鮮に於ける防貧救貧施設は、社會政策上重要な問題である。

細民窮民及乞食調 (道別)

(昭和元年末調)

種別 道名	細民			窮民			合			總戸口數に對する率 世帯數 人口	乞食數	
	世帯數	男	女	世帯數	男	女	世帯數	男	女			
京畿道	四,二四九	一四〇,一〇八	九四,七六六	一六,八四四	六,六六三	一四,七七七	一三,四七三	二六,八三三	一〇八,三三九	三,五〇,四四	二・八	八四
忠清北道	二〇,四四四	四一,七七七	四一,六六六	九三,八三三	三,三六〇	六,三九〇	六,〇四七	三三,四七七	三三,七四四	四,四,五七	一・一	二九
忠清南道	四,四三三	五五,五〇〇	八六,七六六	一八,三六六	八,四三六	一九,一七七	一八,一〇四	三三,三三三	四八,七七六	四,八,六七	二・〇	六五
全羅北道	三七,六四四	八六,一〇五	七七,七六六	一六三,八六三	八,四三三	一七,四三三	一六,四四六	三三,九六六	四六,〇八七	一〇三,五五七	一・七	一〇六
全羅南道	四,五九〇	一〇二,〇九六	九六,六六六	一九九,七四九	九,一〇四	一八,四〇〇	一七,五〇四	三三,六四四	五三,六三三	一一三,三三六	一・四	一四七
慶尙北道	四,一三六	九三,五五五	八六,四四九	一七九,〇三三	九,九九九	一八,八六〇	一八,六六六	三七,五五六	五二,〇〇七	一一一,四三三	一・一	九三
慶尙南道	三六,六五五	八七,六三三	八〇,〇三三	一六二,六七四	七,七二六	一三,四三三	一三,七四四	二七,七七七	四四,三三三	九五,〇九五	一・一	一,七四三
黄海道	三三,八六六	七九,七九九	七三,九九〇	一五五,七四九	四,三五四	九,〇三三	八,五〇四	一七,六六六	三三,〇三三	八八,七八三	一・一	五〇
平安南道	二,二二二	四九,九九九	四七,〇三三	九六,九六六	二,九四九	五,八一五	五,三三三	一一,〇四六	二四,八四六	五五,七七七	一・〇	三四
平安北道	二六,七九九	七三,五五五	六七,一〇〇	一四〇,七五九	二,五九〇	六,二二二	五,四六六	一一,七八八	三三,三九九	五五,七七七	一・〇	七一
江原道	三三,四三三	八六,二六七	七九,〇三三	一六四,一八〇	六,三九五	一四,六二二	一三,四六六	二八,〇〇〇	四三,八四六	一〇〇,七七九	一・一	七四三
咸鏡南道	二〇,八六六	五三,〇〇〇	五〇,八六六	一〇三,八四六	三,二二二	六,九三三	六,七七七	一三,三三三	二四,〇三三	五九,九四三	一・〇	八〇

咸鏡北道	四六九三	一一,七六	一〇,九七	三,二五	五九	八三	八九一	一,七〇三	五,二四一	一一,九九〇	二,八八六	三,三八八	四,九	三・八	四三
總計	四八,四三三	九六,〇二九	八六,六六一	一八,六〇〇	七,五五	一五,五九	一四,一〇一	二五,六三〇	四八,九七	一一,四一五	一,一〇,〇六二	二,一五,六〇〇	一三,〇	二・〇	一〇,〇六六

## 備考

本調査は凡そ左記標準に基き且つ廣く居住の状態、世帯の構成、職業の種類等より生活の實狀を觀察して之を計上した。

一、細民とは生活上窮迫を告ぐるの状態に在るも必ずしも他人の救護を受くるの程度に至らず辛うじて生計を營み得るものを謂ふ。

一、窮民とは生活上窮迫を告げ緊急何等かの救済を要するの状態にある者を謂ふ。

一、乞食とは諸處を浮浪徘徊して自己及其の家族の爲め未知の人に對し貧困を訴へて常業的に救助を乞ふものを謂ふ。

即ち各道に就いて總人口に對する細民及び窮民の割合を見ると、忠清南道の一七・一が第一位を占め、これに亞ぐは全羅北道と江原道の一四・四であり、その最も少きは咸鏡北道の三・八及び咸鏡南道の八・三である。また乞食の数は慶尙北道の二千二百九十二人が最も多く、これに亞ぐは慶尙南道の一千七百四十三人であるが、江原道を除けば概して經濟狀態の發達した南鮮地方に貧困者が多く、その進歩の遅れて居る北鮮地方には貧困者の少いことを示し、前者に貧富の懸隔が漸く著しく、後者に未だその傾向の濃厚に現はれざることを物語つて居る。

貧困者を細民、窮民、乞食に分類すると右の通りであるが、朝鮮にはこの細民及び窮民に屬する火田民と稱する特殊の生活を爲す者がある。火田民は山野の樹木を焼き拂ひ、その跡地を極めて亂雑に

耕鋤し、これに粟・麥・大豆・小豆・黍・玉蜀黍・稗・馬鈴薯・麻等を栽培し、その收穫及び狩獵、炭焼等に依り、辛うじて生活を爲しつゝある貧困者にして、彼等は多く半島西北部の高山地帯に分布し、水草を追ふて放浪したる遊牧時代の原始人さながらの生活を爲して居る。火田民中には火田のみを耕作する者と、熟田と火田とを併耕する者との二種あり、概して前者は中部以北の高山地帯に於ける火田民に多く、後者は南鮮地方の山地住民及び山麓生活者に多いのであるが、試みに火田面積及び耕作戸口を見ると左の如くなつて居る。

火田面積及耕作戸口數調

(大正十三年九月末現在)

道名	種別	面積	戸數	人口
京畿道	道	二六八・〇〇 <small>町</small>	三、七二七 <small>戸</small>	一六四、五〇〇 <small>人</small>
忠清北道	道	二〇七・五二八	三、八三六	一六〇、〇〇九
忠清南道	道	五二・〇〇〇	三、四二一	一三、五八八
全羅北道	道	一一二・八九五	六、二〇七	二七、五七八
全羅南道	道	二二五・四三二	五、八九九	二六、四二七
慶尙北道	道	一四七・〇〇〇	三、六六九	一五、七〇九
慶尙南道	道	二二八・〇〇〇	一、〇六九	四八、四一

朝鮮の犯罪と環境

黄 海 道	一四〇八五・五	二二九五九	五七六三七
平 安 南 道	四二、〇七〇〇	二二、一七七	一一、六八
平 安 北 道	二二、六五〇〇	五五、九五五	二七八二六六
江 原 道	五六、四五〇〇	四三、八九四	二〇五、〇三七
咸 鏡 南 道	八五、一九七〇〇	四五〇八四	二四八七三一
咸 鏡 北 道	五、八四〇〇〇	六三三五	三八五九三
計	三、四七〇、四三七	二二〇、一八三	一、〇四八、二六五
營 林 廠	七六、五七七八	一〇、四〇一	一一〇、七六一
合 計	四〇〇、九六、二二五	二三〇、五八五	一一五九、〇二六

これに據ると、火田耕作者の最も多きは、平安北道の二十七萬八千二百六十六人にして、咸鏡南道の二十四萬八千七百三十一人、江原道の二十萬五千三十七人、平安南道の十一萬一千六百二十八人、黄海道の五萬七千六百三十七人等これに亞ぎ、尙ほ此の外、營林署管内に十一萬七百六十一人の火田民が居る。火田耕作は林野を荒廢し、洪水の原因を爲す等非常に弊害あり、當局は百方その整理を計つて居るが、しかも火田民は却つて年と共に増加の傾向を示して居る。これは詮する所、平地帯で窮屈な生活を爲すよりも、山地帯に入つて火田耕作を爲す方が、生存上容易であると云ふ結果に外ならぬのであるから、火田取締に就いては、その點に留意せねばならぬ。

朝鮮に於ける貧困者の生活状態の悲惨なることは想像の外であるが、極貧に達せざる下層階級民が負債の重荷に苦むことも亦痛ましきものである。彼等の頼みとする金融機關の一たる質屋は、その營業者内地人六三二人、朝鮮人八五六人、合計一、四八八人あり、入質金額内地人三、八〇三、三九〇圓、朝鮮人四、四五九、二七一圓、一件當入質金額内地人五・九九、朝鮮人三・〇八である。また個人金貸業は大正十四年九月末現在にて、内地人一、一五〇人、朝鮮人二、〇五九、外國人一一人、計三、二二〇人あり、その一箇年間の貸出高三一、五六一、四八六圓に達して居るが、その金利平均は月利にして左の如くなつて居る。

個人金貸業金利平均調 (月利) (大正十四年中)

種 別	最 高		最 低		普 通
	分	厘	分	厘	
内地人間	三	八	一	八	二・六
朝鮮人間	四	四	二	一	三・一
外國人間	三	五	二	〇	二・七
内地人對朝鮮人間	四	三	二	三	三・一
朝鮮人對外國人間	四	四	二	六	三・二
市場貸	七	九	四	二	六・四

右は表面に現はれたる報告であるが、實際に於ては更にこれ以上に高率の金利を以て、苛酷なる條件の下に貸借が行はれて居り、この外に農家が來る秋の收穫まで地主より借入るゝ米粃の如きは、一石に對して五斗の現物を利息として納める方法あり、朝鮮の下層階級民の多數は、高利の鐵鎖に縛られて煩え苦んで居るのである。

### 消費の大勢

また國民の貧富の程度を、消費の状態より觀測する方法もあるが、生活の向上は必ずしも富の増加とは云へないから、斯かる觀測は多少不完全たるを免れない。然しながら併合當時の明治四十三年と大正十四年とを比較すると、朝鮮に於ける主要品一人當の消費額は富の増加に伴ひて左の如く増進して居る。これに據ると餘り著大ではないが、朝鮮の國民生活は向上しつゝあることを窺ふことが出来る。それでも諸産業の勃興、教育の普及、各種文化施設の進歩などに比すると、食糧品や衣料品の消費力には未だ物足らぬものがある。尤も明治四十三年に比しその後米の消費量が減少して居るのは、農家が米を賣つて必要なる粟、雜穀、麥粉、その他の食糧品や、嗜好品、衣料品等を購ふに至つた爲め、朝鮮人の生活程度が年と共に改善されて居るのは云ふまでもない。

### 主要品一人當消費額對照表

品目	明治四十三年		大正十四年	
	數量	指數	數量	指數
米	七〇三斗	100	四九四斗	70
小麥	〇・八七	100	一〇九	一二五
粟	二・三八	100	三・五三	一四八
大豆	一・四七	100	一・四三	九七
麥粉	二・五	100	六三九	二五五六
水産物	〇・九九六	100	二・三七〇	三九八
獸肉	〇・三三	100	〇・九一〇	二九二
鹽	七・一	100	二・四五	三四五
煙草	〇・四六	100	一・六五	三五九
酒	〇・九	100	二・九八	三三一
砂糖	〇・八五	100	三・三	三六七
綿布	〇・六九	100	三・二九	四四八
苧麻布	〇・六八	100	〇・七五	一一二
苧布	〇・八一	100	〇・六八	七四一
絹布	〇・五四	100	〇・六一	一一三
石油	〇・三〇	100	〇・二四	三四七
煤	〇・三〇	100	〇・二四	三四七

第一章 貧富と犯罪の關係

原料品	紙		窯業製品		石炭	綿花	金肥	牛皮
	〇・四三	一〇〇	〇・六八	一〇〇				
	〇・四三	一〇〇	〇・六八	一〇〇	一七・四	△	⊗	〇・二四
	〇・四六〇	一〇〇	〇・七六八	一〇〇	〇・四一九	△	⊗	〇・二四
	一・〇七〇	一〇〇	一・二一九	一〇〇	一・八〇〇	△	⊗	〇・二四
	一・〇七〇	一〇〇	一・二一九	一〇〇	一・八〇〇	△	⊗	〇・二四
	一・〇七〇	一〇〇	一・二一九	一〇〇	一・八〇〇	△	⊗	〇・二四
	一・〇七〇	一〇〇	一・二一九	一〇〇	一・八〇〇	△	⊗	〇・二四
	一・〇七〇	一〇〇	一・二一九	一〇〇	一・八〇〇	△	⊗	〇・二四
	一・〇七〇	一〇〇	一・二一九	一〇〇	一・八〇〇	△	⊗	〇・二四
	一・〇七〇	一〇〇	一・二一九	一〇〇	一・八〇〇	△	⊗	〇・二四

備考 一、△印は明治四十四年、煙草及鹽の×印は大正十三年、煙草の⊗印は大正三年、金肥の⊗印は大正四年を示す。

二、右の指数を見るには明治四十三年と大正十四年の物價に著しき變動のあるを忘る可らず。

また文明の利器たる電話、及び生活上必要なる電燈の需要状況を通じても、内鮮外人の貧富の程度を略ぼ測定することが出来やう。電燈や電話は主として市街地に架設され居るものにして、内地人及び外國人は多く市街地に分布して居り、その職業の性質上これを利用することも朝鮮人に比して多いことは云ふ迄もないが、これに依りて三者の貧富の程度を窺ふの一資料と爲し得ることは勿論である。

電話加入者數及通話度數地方別

(大正十四年度)

道名	種別	電話加入者數		通話度數	人口一千付に	
		内地人	朝鮮人		加入者數	通話度數
			外國人			面積一方里に付
			合計			



京畿道	六九五五	一三九三	二六八	八五九六	四、九六、七五七	四四四六	二五、七五〇	一〇、三四七	五〇、五〇九
忠清北道	三〇五	二六	八	三三九	一、二五八、四八〇	〇、四〇九	一、五〇六	〇、七〇五	二六、一六
忠清南道	九一七	一一七	三三	一、〇六五	四〇、五二、八五六	〇、八五六	三、二五八	二、〇二六	七、七〇九
全羅北道	一四九三	二二六	三八	一、七五七	六、七、七、六、八、四	一、三、二、一	五、〇五六	三、二七七	二、一、五、四
全羅南道	一、三四三	二四三	一六	一、六〇二	五、八、三、四、三、四、五	〇、七、五、七	二、七、五、七	一、七、七、九	六、四、八〇
慶尙北道	一、七八一	二九四	二八	二、一〇三	一〇、三、五、四、〇、一	〇、九、八	四、五、七、三	一、七、〇、八	八、四、一、九
慶尙南道	三、五六三	二九五	二九	三、八、八、七	一、七、六、五、〇、七、五、二	一、九、八、一	八、九、九、七	四、八、七、二	二、三、二、二、四
黃海道	五四	二三二	一八	七、六、四	三、六、七、二、八、二	〇、五、四、〇	二、五、五、五	〇、七、四	三、三、三、五
平安南道	一、三、九、七	三、五、四	二、九	一、七、八、〇	八、三、一、六、三、四	一、四、二、八	六、六、〇、二	一、八、三、九	八、五、〇、六
平安北道	八四一	一、六、九	三三	一、〇、四、二	四、五、〇、九、五、九、〇	〇、七、五、三	三、二、五、九	〇、五、五、五	二、四、四、五
江原道	三〇六	九三	一三	四、二、二	一、二、五、四、二、七、四	〇、三、二、五	九、八、八	〇、四、一	七、六、〇
咸鏡南道	一、〇、六、一	二、八、九	三七	一、三、八、八	五、三、九、二、五、四、六	一、〇、三、二	四、〇、〇、五	〇、六、六、九	二、六、〇、一
咸鏡北道	一、三、四、〇	一、五、九	三二	一、五、三、〇	六、六、六、三、七、三	二、四、九、九	一、〇、八、八、三	一、二、六、一	五、〇、五、一
總計	二二、七、九、七	三、八、九、〇	五、七、八	二、六、二、六、五	二、七、六、一、〇、三、五	一、三、八、一	六、一、八、五	一、八、五	八、二、一、八

電燈需要戸數及供給區域内戸數對照

(大正十四年四月一日)

供給區域	電燈需要戸數	供給區域内戸數	經營者				
	内地人	朝鮮人		外國人			
京城府、高陽郡、崇仁面外五面、始興郡北面、金浦郡、東面、富川郡、桂南面	一九、二、四、七	二、九、六、〇	六、二、四	二、〇、三、五、四	七、〇、五、七、二	一、〇、一、〇	京城電氣株式會社京城支店

第一章 貧富と犯罪の關係

朝鮮の犯罪と環境

仁川府	多朱面	二七六三	二八八二	二五二	二七八一	七〇三五	三四〇	京城電氣株式會社仁川支店
水原郡	水原面外三面	四九八	五四〇	一五	五三〇	二六九三	一九	水原電氣株式會社
開城郡	松都面	三七五	二二六二	三八	三九〇	八七〇〇	四〇	開城電氣株式會社
大田郡	大田面外三面	一三五五	一三四	二二	一六七七	三六九五	五三	大田電氣株式會社
燕岐郡	鳥致院面	九五	一九八	二八	一〇二四	二二四三	五五	同 鳥致院支店
清州郡	清州面外一面	五五	三八四	五四	五七六	五二四九	八七	江景電氣株式會社
論山郡	江景面外三面	四九七	二六一	一五	五四六	一、五六三	三八	公州電氣株式會社
公州郡	公州面	一九四	一〇八	一八	二二五	五二	二七	天安電燈株式會社
天安郡	天安面	一九七三	七七七	七三	一九八〇	七五四二	一三八	群山電氣株式會社
群山府	沃溝郡米面外一面	二一〇〇	一、三六九	一〇一	二、三六九	一六四八九	一三二	全北電氣株式會社
全州郡	全州面外四面、益山郡益山面外一面、金堤郡金堤面	二六七	二七九	一六	二九〇	二、二一五	二七	井邑電氣株式會社
井邑郡	井邑面外一面	一、五六	七八六	四九	一、二二四	五、三六六	五三	大興電氣株式會社光州支店
光州郡	光州面外四面	一、五四六	一、〇七六	六一	一、八九〇	三、九八四	六六	木浦電燈株式會社
木浦府	務安郡二老面	三八四	二四七	九	四六七	二、二七五	一一	麗水電氣株式會社
麗水郡	麗水面	四、二四	二、二〇一	五三	五、三四	一〇、三五五	一四三	大興電氣株式會社大邱支店
大邱府	達城郡達西面外一面	四九八	三八八	一四	五〇〇	二、〇八二	二三	同 金泉支店
金泉郡	金泉面	四九一	二二〇	四	六五	一、七〇六	二五	同 浦項支店
迎日郡	浦項面	二六八	二四三	一三	二八〇	四、四三五	一八	同 尙州支店
尙州郡	尙州面							

慶州郡慶州面	一五〇	三四三	九	一五一	三〇四六	九慶州電氣株式會社
馬山府、昌原郡昌原面	一二四五	一四五七	二七	一一〇九	七三四七	二九京城電氣株式會社馬山支店
外一面、咸安郡山仁面						
昌原郡鎮海	九五〇	三八六	二	一二七	一一八二	二同鎮海支店
釜山府、東萊郡東萊面外四面	九、〇九〇	五三三八	六七	九一九	一四三九一	九一朝鮮瓦斯電氣株式會社釜山支店
晉州郡晉州面外一面	六七九	一一八二	九	六九〇	三三三四	一四晉州電氣株式會社
統營郡統營	五四五	二〇七	六	六三五	三一五四	一〇統營電氣株式會社
蔚山郡東面	四〇〇	八八	一	五六二	一七五三	一蔚山電氣株式會社
密陽郡密陽面	三三五	四二六	一四	三七三	二二八四	一四密陽電氣株式會社
黃州郡兼二浦面	二五九	二六三	一八	三八	一、六六六	八二兼二浦面
海州郡海州面外一面	五〇六	八五八	二〇	五八八	四七三二	四八海州電氣株式會社
鳳山郡沙里院面	三〇七	三七一	二六	三七一	二二四〇	六〇沙里院面
鎮南浦府、龍岡郡大代面	一一二	一二四三	七九	一、三三一	五、六〇四	六六鎮南浦電氣株式會社
平壤府、大同郡大同面外三面	三、八四二	四、四九四	二六	三九二	一七、三二七	三五一平壤電氣株式會社
安州郡安州面新安州面	一七六	三四〇	一一	一八一	四、四二五	一六安州電氣株式會社
新義州府義州郡義州面外三面	一、八六六	一、〇五〇	二四〇	二、九一五	四、九九五	一、三三新義州電氣株式會社
義州郡古林面外三面	一三	一一〇	三	一三	一、五一九	一三滿鮮殖産電氣株式會社
龍川郡龍川面外七面						
江界郡江界面	一四八	二三四	八	二四四	二、一〇七	八六江界電氣株式會社
通川郡通川面外二面、金化郡金化面外二面、鐵原郡鐵原面	五七九	一、四六四	四二	六六六	二、二八九七	七四金剛山電氣鐵道株式會社
楊州郡柴苴面外一面						

第一章 貧富と犯罪の關係

春川郡	春川面	三六七	二六三	七	四七七	一、二六三	一三	春川電氣株式會社
元山府	徳原郡縣面外三面	一、九八六	一、九二一	一七四	二〇五八	一〇、六二九	一九五	元山水力電氣株式會社
咸興郡	咸興面外三面	一、二二六	一、六五五	五一	一、二五五	四四三二	五六	大興電氣株式會社咸興支店
甲山郡	惠山鎮	二〇八	一九七	一八	二〇八	九〇五	六〇	北鮮商事株式會社
清津府	鏡城郡羅南面外二面	三、一〇一	一、一〇一	一五〇	三、四七五	一、四三二	二五四	朝鮮電氣株式會社
會寧郡	會寧面	七〇六	五〇三	四二	八六一	二、三三六	七〇	會寧電氣株式會社
城津郡	城津面	三七二	四四五	三五	三七八	一、二七〇	三六	城津電氣株式會社
慶興郡	雄基	二五六	三五六	三七	二八〇	九〇二	四〇	雄基電氣株式會社
合	計	六九、二九九	七〇、〇四〇	二、七七一	七五、二〇四	二七九、三三七	五、三二〇	

即ち電話の加入者は全鮮中で、内地人二萬一千七百九十七人、朝鮮人三千八百九十八人、外國人五百七十八人であり、電燈の需要戸數は、内地人六萬九千二百六十九戸、朝鮮人七萬四十戸、外國人二千七百七十一戸であるから、その人口に對する割合から云つて朝鮮人の内地人及び外國人に比してこれが利用率の低いことは明かである。

要するに朝鮮に於ける消費状態は併合以來漸次増進しては居るが、國民一人當の生産額が約五倍、輸移出額が約十三倍に増加せるに對し、その輸移入額が約六倍、市場取引額が約二倍の増加に過ぎざる如きは、明かに國家經濟の發達に伴つて、個人生活の向上が遅れて居る事實を示すものであるまい。

か。朝鮮の如き地方に於て産業の奨励すべきことは最も急務であるが、新時代の經濟政策は、如何なる場合に於ても、國民の生活を基調として進むべく、二千萬人近くの異民族を抱擁する朝鮮統治に於ては、特にその必要を認めるのである。

### 經濟 爭 議

朝鮮に於ける貧富の懸隔と下層階級の生活難の概況は前に説明したが、これ等の結果と時代思潮の影響を受けて、朝鮮の經濟爭議も漸次増加の傾向を現はして居る。即ち勞働爭議は大正元年より同六年末迄に總計三十六件、一箇年平均六件に過ぎざりしものが、大正七年以降俄然擡頭し、大正八年及び同九年には一躍八十件臺に上つたのである。大正十年に於ては財界の不況に陥り、一方事業主の溫情的施設を講じたる爲め大にその數を減じ、爾來著しき増加を見ず、爭議の内容も概ね消極的になり、賃銀の値下反對等多く、その結果は罷業者の要求撤回に終りたるものが多いが、將來工業の勃興し、勞働者の需要増加するに伴ひ、勞働運動は思想界の動搖と相俟つて次第に進展し來るべく、殊に内地資本の投下が益々増加し、内地人、朝鮮人、支那人勞働者が相競争するに至らば、勞資間若くは勞働者相互の間に於て、利害の衝突の外に民族的反感が加はつて相紛争するやうな危険があるから、豫めその對策を講じて置く必要がある。朝鮮に於ける小作爭議もまた勞働爭議と同じく最近に至りて

頻發し、大正十一年迄は毎年全鮮を通じ三十八件に過ぎざりしものが、歐洲大戰以來内地に於ける小作爭議に刺戟されて、各地に小作團體の簇生を見、次第に地主對小作關係を惡化し、大正十二年には爭議件數百七十六件、その參加人員九千六十人を算し、爾來朝鮮の小作爭議は、産業的にも思想的にも頗る重要性を帯びて來たのである。殊に朝鮮に於ける現在の小作慣習は、地主に對し極めて有利にして小作人に對し甚だしく不利なるものあり、小作生産の約五割以上は地主の收得する所となり、その上小作地の地稅公課、その他のものを小作人の負擔する地方多く、且つ小作年限にも何等の保障なく、小作地は地主又はその土地管理人によりて自由に處分せられ、小作權なるものは事實上殆んど存在せざる状態に在るを以て、小作人の不安窮乏は想像の外にあり、従つて小作爭議は現状の儘に放任するに於ては將來益々増加し行き、その内容も漸次深刻となり惡化するは避くべからざる勢ひである。茲に於てか當局は見る所あり、小作制度改善の目的を以て、既に「臨時小作調査委員會」を設けて調査審議を行つて居る。今試みに最近數年間に於ける同盟罷業及び小作爭議の統計を示せば即ち左の通りである。朝鮮に於てはこの外に、階級思想の產物たる衡平運動が近年に至り擡頭して來たが、その性質は恰も内地の水平運動に類したものである。また各種學校に於けるストライキの多きことは他に類例なき奇現象にして、斯かる事件の頻發するは洵に憂慮すべきことである。

同盟罷業件數及參加人員累年比較

道名	大正十年		大正十一年		大正十二年		大正十三年		大正十四年	
	件數	人員	件數	人員	件數	人員	件數	人員	件數	人員
京畿道	二	七四	二五	五五四	四二	二〇七三	二二	一九四	二二	二四五
忠清北道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
忠清南道	二	二五九	二	四六	一	一	二	三九	一	一
全羅北道	一	五〇	一	一〇五	五	三三	六	二九八〇	三	九七
全羅南道	一	一三〇	一	一	一	一六〇	一	一五	六	五九
慶尙北道	四	二六一	三	一〇六	一	二五	四	三八九	一	四六五
慶尙南道	七	一〇六九	六	四二	三	一九六〇	三	三〇二	三	三三四
黃海道	一	五五	二	九一	一	二〇	一	一	一	七八
平安南道	二	一〇二	一	四〇	六	六八〇	一	一五〇	六	一〇四九
平安北道	二	三〇〇	一	一	一	六九	一	四六	四	三六九
江原道	一	一	二	九六	四	六〇	二	一四〇	四	三三四
咸鏡南道	一	二〇〇	三	二三二	五	三六二	二	五八〇	二	二〇五
咸鏡北道	四	三三三	一	一八	三	一五〇	二	八六	二	八〇
總計	三六	三,四三三	四六	一,七八九	七二	六,〇四一	四五	六,七五一	五五	五,七〇〇

第一章

貧富と犯罪の關係

小作爭議件數及參加人員累年比較

道名	大正九年		大正十年		大正十一年		大正十二年		大正十三年		同十四年	
	件數	人員	件數	人員	件數	人員	件數	人員	件數	人員	件數	人員
京畿道	一	一三三	二	五六	二	五	三	三三二	一	一五一	二	二七
忠清北道	一	一	一	一四	二	一四	一〇	二四三	二	九八	三	二七
忠清南道	一	四〇	二	八四	四	一四三	二	六	八	二六	七	九二
全羅北道	二	二九二	七	八〇一	二	五三	六	二五三	一	四〇	三	七
全羅南道	五	一七五	四	一五	一	一	二四	一六〇	五九	二九〇	三	七
慶尙北道	四	二五三	七	一六四	三	一三四	三	七	八	五二	三	五
慶尙南道	一	一	三	二四七	四	一六	一〇三	三、〇四	六三	一五	一	一
黃海道	一	一七二	一	一	三	三八〇	七	六五四	一八	二四	四	五
平安南道	一	八五	一	一	一	三三	三	二七	二	一七	一	一
平安北道	一	一	一	一	一	一	四	一〇	二	一	二	一
江原道	一	一	一	九	一	一	二	一九	二	二	二	一
咸鏡南道	一	一	一	一	三	一九	一	一	一	一	一	一
咸鏡北道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
總計	一五	四、四〇	二七	二、九七	二四	二、五九	一七	九、〇六	一六	六、九	二九	七、〇九



## 第二節 貧富に支配さるゝ犯罪

犯罪は社會環境に支配さるゝこと多きものであるが、さればと云つて如何なる犯罪が貧富の影響を受け、また如何なる犯罪が文化の影響を受けるかを、判然と區別して説明する如きことは不可能である。私は環境の支配を受けること最も大なる次の十種の犯罪を分ち試みに、貧富の影響を受けること大なるものに、窃盜、強盜、横領、恐喝、賭博罪を算へ、文化の影響を受けること大なるものに、文書偽造、詐欺、殺人、傷害、猥褻姦淫及重婚罪を擧げて見た。勿論これ等の犯罪の消長は、いづれも貧富と文化の影響の外にあらゆる社會的原因によりて左右せらるゝのみならず、また生物學的原因に基くことも大であるから、一方的原因のみを見て他の影響を顧みざる如きは妥當なる觀察でない。

朝鮮に於ける犯罪中最も件数の多いものは窃盜罪であるが、これは朝鮮の經濟力が貧弱にして、生活に窮迫せる貧困者の多い證據である。一般的に云へば富の程度も貯蓄力も漸次増加しては居るが、この數年來貧富の懸隔が漸く著しくなり、また物價騰貴その他の影響を受けて、下層階級の生活難は次第に濃厚になつて來たので、自然窃盜件数の増加を來したものと思はれる。即ち大正十年には窃盜罪總件數二萬七千二百六件であつたものが、その後年々増加して、大正十四年には四萬八千四百七十

一件といふ驚くべき激増を示して居る。強盗罪は、貧困に基く犯罪なるも、文化の程度低き時代には往々慘忍なる犯罪の發生を見ることがある。最近に至り、警備機關の整頓と文化の普及に伴ひて、この種の犯罪は漸次減少し、大正十年には二千八百五件を算したものが、大正十四年には二千八百三十三件となり、殊に不逞團の侵入を受くる平安北道を除けば、各道共その件数は多くないのである。横領罪は、窃盜罪に相伴つて増加する性質のもので、大正十年には六千九百九十七件であつたけれども、その後年々増加して、大正十四年には一萬二千四百六十一件といふ驚くべき激増を見るに至つたのである。恐喝罪は詐僞罪や横領罪などと共に消長を同うすべき性質のものであるが、朝鮮に於てはこの數年間著しき變化なく、大正十年の九百四十二件に對し、大正十四年には九百五十六件を示して居るに過ぎない。賭博罪は極貧者よりも、寧ろ貧困の程度低きものか稍資産あるものゝ間に於て比較的多く行はれるもので、大正十年には六千三百三十七件であつたものが、その後次第に増加して、大正十四年には約二倍の一萬二千七百五十三件に達して居る。

今試みに朝鮮に於ける主要犯罪中、その貧富に左右さるゝこと比較的大なりと認めらるゝ數種の犯罪に就き、最近五箇年間の道別發生件數を示し、以て社會環境としての貧富が、犯罪の消長に及ぼす影響の重大なる關係を明瞭にして見やうと思ふ。

竊 盜 罪

道 名	年 次				
	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年
京 畿 道	六七六〇	七,七五三	七,七九六	一三,〇四四	一三,〇五五
忠 清 北 道	七七一	八四七	九五四	一〇,四八	一,一〇一
忠 清 南 道	一,四三七	一,五三六	一,七七一	二,一三三	二,五五五
全 羅 北 道	二,五二七	二,六四二	三,〇六〇	三,九八一	四,八二九
全 羅 南 道	二,六八六	三,〇四九	三,〇五八	三,六二五	三,六八五
慶 尙 北 道	二,九六七	三,三八〇	四,〇六一	四,二九七	四,九八八
慶 尙 南 道	三,四三六	三,六八九	三,九八九	四,四四九	四,四二三
黃 海 道	一,二八五	一,四九四	一,六三九	二,一三二	二,四八二
平 安 南 道	二,二二六	二,六三九	三,〇三三	五,一七三	四,七八六
平 安 北 道	九一九	一,二二五	一,三〇八	二,〇一五	二,一九九
江 原 道	七四五	八七〇	一,〇七七	一,五七八	一,五三二
咸 鏡 南 道	一,一六八	一,〇三六	一,三九九	一,五八五	一,〇〇〇
咸 鏡 北 道	四〇八	五五四	五〇八	四七五	八四六
總 計	二七,二〇六	三〇,一五四	三三,六三四	四四,七七五	四八,四七一

朝鮮の犯罪と環境

強 盜 罪

道 名	年 次	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年
京畿道		二三四	一四三	一六四	一五七	一四八
忠清北道		七六	三七	三六	四五	四四
忠清南道		一一〇	八三	六三	六九	八二
全羅北道		三三八	一三九	八六	一五一	一八三
全羅南道		二五一	一〇二	五九	六六	六六
慶尙北道		一四二	一一六	一五九	一二七	一六
慶尙南道		二〇四	九五	七四	九三	八三
黄海道		四〇〇	二五六	二五五	二四六	二四四
平安南道		三三三	一六三	一六八	二二二	二四八
平安北道		五三〇	五四五	七七	一〇〇六	七六九
江原道		七二	六八	五〇	七二	七三
咸鏡南道		四七	九〇	五七	六八	六六
咸鏡北道		七七	二六	一一	九	三一
總 計		二八〇五	一八六三	一九〇九	一三三二	二二一八

横 領 罪

道 名	年 次				
	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年
京畿道	七八一	一、〇四五	一、五五五	一、四三六	一、七六一
忠清北道	二九九	二〇九	三三〇	三八七	二五七
忠清南道	四二三	四八二	六四四	五六八	五六六
全羅北道	六七七	七三三	七三三	七八八	九六六
全羅南道	八九六	八七五	九八七	九六五	一、〇二九
慶尙北道	九七七	九一一	一、一〇六	一、二〇〇	一、三八八
慶尙南道	一、二六六	一、三三三	一、〇六六	一、一七六	一、三三一
黄海道	二九八	四五一	五四四	五〇〇	七〇〇
平安南道	二七〇	四二六	八四〇	一、〇〇九	一、四二七
平安北道	三〇三	四七〇	六六三	五三三	五七八
江原道	四八一	五五〇	六三八	六三二	一、〇八七
咸鏡南道	二八一	三五五	三九八	四九八	六二七
咸鏡北道	二四五	二八五	三〇五	二九一	四四三
總 計	六、九九七	七、九九五	九、七五九	九、九七三	一三、四六一

恐喝罪

道名	年次				
	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年
京畿道	八四	五五	六六	六三	一〇四
忠清北道	二八	三三	二五	三三	四四
忠清南道	五六	五〇	七七	六三	六三
全羅北道	三五	八一	一三	八〇	九六
全羅南道	八八	七二	一〇八	七四	一〇二
慶尙北道	二四	一〇四	一三	一三三	一〇二
慶尙南道	二三	八四	九	五二	二七
黃海道	五五	五五	六二	五二	八四
平安南道	四三	三九	六二	四二	五五
平安北道	八八	九六	一三	一三	二二
江原道	八六	六三	六二	六七	三三
咸鏡南道	二七	四五	三	五	六一
咸鏡北道	二五	一六	一〇	八	二九
總計	九四二	八三	九五〇	八三	九六〇

賭博罪

道名	年次				
	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年
京畿道	六二	九三一	八〇九	一、二六五	一、五三三
忠清北道	四四三	八五	五一	八五	一一七
忠清南道	一〇〇	一〇一	八七	七七	八五
全羅北道	六〇	一一三	二九	九一	一六九
全羅南道	六六一	一、〇四〇	一、三九二	一、二七一	一、八六一
慶尙北道	一、三六六	一、七三三	二、〇九九	二、五六一	三、一六八
慶尙南道	二五八	三六一	三六〇	二五〇	三三二
黄海道	九二七	二、二六六	一、七〇四	一、九〇四	二、二二五
平安南道	一一〇	一六一	九一	一六一	一五五
平安北道	五七八	七三九	八六三	七六六	九三二
江原道	六二六	八四三	五五七	七三三	一、二九五
咸鏡南道	三三〇	四九九	六三四	五四四	五九五
咸鏡北道	二九七	二七六	二七六	二七七	四〇六
總計	六、三三七	九、二三八	九、〇五二	九、八〇〇	一、二、七五三

第一章 貧富の犯罪と關係

貧富に左右さるゝこと大なる犯罪の傾向に就いては前述したが、財界の不景氣は、直接に下層階級の生活を窮迫に陥れ、延いて犯罪の消長にも顯著なる影響を與ふるものである。試みに世界大戦勃發當時の大正四年と、戦亂の影響を蒙りて財界の好況を呈したる後を享けた大正九年、及び戦後の反動によりて不景氣のどん底に陥りたる大正十四年とを比較すると左表の如くなつて居る。

一、景氣不景氣に基く生活難の諸相——行旅病人、行旅死亡者、棄兒數比較——

年次	行旅病人	行旅死亡者	棄兒數
大正四年	六九七	一、七四〇	一〇二
同 九年	五二五	二、二四七	九六
同 十四年	一、四二一	三、四四一	一五五

二、景氣不景氣の犯罪に及ぼす影響——強盜、竊盜、詐欺取財、横領被害高比較——

年次	件數	金額	一件當金額
大正四年	四、二七四	一、五六〇、八三八	三、七三三
同 九年	四、九三七	七、八九八、四五六	一、六〇・三
同 十四年	六、六四八	八、三三三、五九九	九六・六

即ち財界の好況時代には行旅病人や棄兒の數は少いが、不景氣になるとこれが多くなり、また財物犯の被害件數は不景氣時代に著しく増加し、その被害高は却つて減少するといふ頗る微妙なる事實を示して居り、世の中の景氣不景氣は、他の一般犯罪にも亦影響を及ぼすのである。



## 第二章 文化と犯罪の關係

犯罪の發生が經濟現象に支配さるゝことの大きな所以は既に述べた通りであるが、また犯罪がその社會環境たる文化現象、即ち教育、宗教、交通等の力に支配さるゝことの尠からざるは、夙に刑事學者等の唱道して居る所である。人智の低い民族と高い民族、及び教育の普及したる地方と普及せざる地方、高尚なる趣味を有する者と有せざる者、宗教の信仰ある者と無き者、交通の發達したる所と發達せざる所、文化の幼稚なる時代と進歩したる時代との間には、それぞれ犯罪の種類、方法、件數等に著しき差違がある。犯罪は概して文化の程度低き程多いものであるが、或る種の犯罪は、文化の開發、人智の進歩により却つて増加し、また或る種の犯罪は、これと反對の傾向を現はすものである。されば朝鮮に於ける文化と犯罪の關係を考察せんとせば、先づその文化の程度を究める必要がある。

### 第一節 社會環境としての文化

文化と云つても、茲に説くところは、犯罪現象に最も關係ある、教育、知識、宗教、交通等の一小

範圍に止まり、廣い意味の文化、即ち文學、美術、工藝、音樂等に關しては、一切論及して居らぬことを斷つて置く。素より文化の内容を簡潔に闡明する如きは、到底私の能くする所でないから、こゝでは統計的にこれが概要を説述するに過ぎないのである。凡そ文化の高低遲速が地理的條件に支配されることは云ふ迄もないけれども、更に一面より見るときは、極めて大雜把な觀察ではあるが、一國一地方の文化の普及は、人口密度の粗密に依り、殊にその市街地の分布及び大小に比例するを通例として居ると思ふ。朝鮮に於ても勿論この原則に支配されて居る所が頗る多いから、文化の地理的考察を爲すに當りては、先づ第一に人口状態を觀察する必要がある。朝鮮の人口に關する文獻として纏まつたものは、甚だ不完全で恐縮の至りであるが、拙著「朝鮮の人口研究」(大正十四年九月、朝鮮印刷會社發行)、並に拙著「朝鮮の人口現象」及びその附圖(朝鮮總督府調査資料)があるから、それを參照されんことを希望する。

### 學 校 教 育

朝鮮に於ける舊時の教育は、成均館、明倫堂、四學、郷校、書堂によりて行はれ、學問は經學の研究を主とし、科擧に應じこれに及第して、官吏に登用せられるゝを目的として居たのである。それが日清戰爭當時、日本の忠言に従ひて庶政の革新を行ふに當り、教育の制度もまた改革さるゝことゝなり、爾來官制の改正、教育制度の確立、法規の發布を見たが、新學制は悉く日本の制度を模倣したも

ので、當時の朝鮮の國情に適せず、且つこれを運用すべき教師にその人を得ざりし等の爲め、未だ實績を擧ぐるに至らなかつた。明治三十七年八月、日韓協約締結の結果、顧問政治の開始となり、學部も亦日本人の學政參與官を置いて顧問とし、教育行政の樞機に參與せしめ、明治三十九年統監府の設置さるゝや、伊藤統監は韓國の開發に重きを置き、五十萬圓の臨時學事擴張費を支出して、教育機關の設備を完全にし、日本人參畫の下に教育に關する諸法令（普通學校令、高等學校令、師範學校令、外國語學校令等）を制定し、各官公立學校に日本人教員を招聘して學校の首腦と爲す等、實に朝鮮に於ける教育に一新紀元を劃し、明治四十一年には高等女學校を發布して女子教育機關を設けたのは、朝鮮に於ける破天荒の事業であるが、また同年には私立學校令を發布して、當時無數に存在せし私立學校の監督に着手し、翌四十二年には實業教育令を發布し、朝鮮に必要な實業教育特に農業教育を獎勵したのである。明治四十三年の韓國併合後は、教育制度に根本的改正が行はれ、同四十四年八月朝鮮教育令が發布せられ、その實施によりて教育機關の整頓、内容の充實大に見るべきものあり、爾來益々制度の改正、設備の完成に向つて努力し、大正十一年二月公布されたる現行の朝鮮教育令に於ては、普通教育を、國語を常用せざるもの、及び國語を常用するものゝ二つに分ち、前者は普通學校高等普通學校、女子高等普通學校を含み、後者は小學校、中學校、高等女學校を含み、この外に實業

教育師範教育、専門教育、大學教育、私立各學校等あり、教育機關は先づ完備に近きものとなつたのである。我國が朝鮮の教育に對して執り來つた誠意と努力は、他の諸外國がその植民地や新領土に對して行つたものとは、到底比較し難い程好成绩を收めて居る。尙ほこの上も一層教育機關の普及と、その内容充實の餘地はあるけれども、年々教育を受けたる者の増加して居るのは、朝鮮の將來に取りて欣ぶべきことである。今試みに大正十五年五月末現在の朝鮮の學校數地方別分布狀況を示せば左表の如くなつて居る。

道	種別		學校數				地方別			
	小學校	中學校	普通教育	中等教育	實業教育	專門教育	其他	各	種	
京畿道	四七	二	一六〇	八	二二	九	一	二	七五	
忠清北道	一四	一	六四	一	一	一	一	一	二	
忠清南道	三三	一	一〇三	一	二	一	一	一	九	
全羅北道	三六	一	一一	二	四	一	一	一	一六	
全羅南道	五六	一	一七〇	一	四	一	一	一	一五	
慶尙北道	五三	一	二二	一	一	一	一	一	二二	
慶尙南道	七九	一	一四二	二	六	一	一	一	二四	



種別	普通學校		高等普通及女子高等普通		各種學校		書堂					
	學校數	生徒數	學校數	生徒數	學校數	生徒數	學校數	生徒數				
京畿道	一六〇	四八、六四三、四九六	一五	五、三三三	一、六九六	六六	六、八二二	二、九六四	一、五七〇	一、七四二	八、四五	
忠清北道	六四	一六、六三二	二、一八七	一	二、五九	二	二、天	七九	八、三六	六、四九九	六、四	
忠清南道	一〇三	二八、七二〇	四、二八九	一	三、七六	九	四、六二	三、三〇	一、〇八二	八、三、四六	一、〇五	
全羅北道	一一一	二六、四〇〇	三、七五六	二	五、三九	一	一、六二〇	四、九	九、六	七、九五八	八、七	
全羅南道	一七〇	四〇、二四五	五、〇五八	一	三、九七	一	一、五二六	八、九	一、五七四	一、四〇四	三、七八	
慶尙北道	二二二	三五、四七一	七、二六四	二	三、九〇	二	二、一六七	四、三二	一、〇三二	一、〇、八一	二、九九	
慶尙南道	一四二	四〇、三三三	七、五二二	三	四、三五	二	二、一九五	七、三五	七、七七	八、三五三	四、二	
黃海道	一〇五	二五、二四四	五、四四七	一	三、六八	四	一、三三〇	八、六五	二、〇九〇	二、四七二	六、五〇	
平安南道	八二	二三、八九九	四、三七九	四	一、八六	二	一、三八七	二、六二二	二、六九二	一、三、三二	三、〇五	
平安北道	八二	二八、五五〇	四、二四七	二	二、三二	八	五、八三	一、四五六	一、八四九	三、三、七二	五、八五	
江原道	七三	一七、五九九	三、一六九	一	二、三五	二	二、二九八	五、四	一、九六一	一、九三二	七、七八	
咸鏡南道	七八	二四、八九九	四、七六九	二	四、七〇	一	一、〇五	一、三八二	二、六七五	一、七二九	一、五、五五	
咸鏡北道	四四	一四、三七八	二、九三二	一	三、三三	一	四、七	二、三三〇	六、八	二、九九	五、五、三	
總計	一、三三六	三、七〇、五九六	八、三九五	三六	一、〇九三	二、六三〇	六〇	三、四七、六二〇	二、三五九	二、六八七	三、三、五八〇	四、七、七〇

更に最下級の教育機關たる普通學校、及び書堂の分布を面積並に人口に就いて見ると、十方里に付

普通學校は、全羅北道の二・〇〇七、忠清南道の一・九四一、京畿道の一・九二六を多い方とし、咸鏡北道の〇・三三四、咸鏡南道の〇・三七六、江原道の〇・四二九を少い方として居り、書堂は忠清南道の二〇・五八五、黄海道の一・九二六六、京畿道の一・八八九八が能く分布せる方で、咸鏡北道の二・二六七咸鏡南道の五・七二五、慶尙北道の八・三三八が分布の粗なる方である。また朝鮮人一萬人に對する校數を見るに、普通學校は京畿道の〇、八七五が第一位を占め、慶尙北道の〇・五四九が最も少く、書堂は江原道の一五・〇八一を筆頭とし、慶尙南道の四・一二七が最下位に在る。今尙ほ不完全なる書堂の多く、普通學校數の分布の未だ充分ならざるは事實なるも、今日これを義務教育制にすべしなど、説くは、朝鮮の民度と地方の財政状態を解せず、現在の普通學校兒童就學率、並に授業料の滞納、缺席數、半途退學者の夥しき狀況等知らざる者の極端なる暴論である。

普通學校及書堂の分布 (大正十五年五月末)

區分	十方里に付き				朝鮮人一萬人に付き			
	普通學校	書堂	普通學校	書堂				
京畿道	一九二六校	七四八人	一八八九校	二二〇人				
忠清北道	一三三二校	三九一人	一七三八校	一三六人				
京畿道	一九二六校	七四八人	一八八九校	二二〇人				
忠清北道	一三三二校	三九一人	一七三八校	一三六人				

忠清南道	一・九四一	六八	二〇・五八五	一六一	〇・八四二	二七〇	八・八五七	六九
全羅北道	二・〇〇七	五四八	一六七四二	一四五	〇・八四六	二三二	七・〇六一	六二
全羅南道	一・八八八	五〇三	一七四八一	二〇五	〇・八一六	二二八	七・五五八	一七
慶尙北道	〇・九六一	三八七	八・三八二	八六	〇・五四九	一九二	四・六四二	四八
慶尙南道	一・八〇五	五九七	九七三九	一〇五	〇・七五四	二五三	四・二七	四五
黃海道	〇・九六八	二八三	一九二六六	一三四	〇・七五一	二二九	一四・九四五	一八一
平安南道	〇・八四七	二九二	一七四八五	二四二	〇・六七九	二三四	一四・〇〇四	一九四
平安北道	〇・四四五	一七六	一〇・〇二六	一七九	〇・六〇五	二〇〇	一三・六三八	二四四
江原道	〇・四二九	一二二	二・五二六	一一八	〇・五六一	一九九	一五・〇八一	一五五
咸鏡南道	〇・三七六	一四三	五七二五	七六	〇・五八九	二三四	八・九六〇	一一九
咸鏡北道	〇・三三四	一一二	二・二六七	四五	〇・七五〇	二九五	五・〇九三	一〇〇
總計	〇・九三三	三〇七	二・七八九	一四六	〇・七二〇	二三七	九・〇九九	一一二

儒教思想

日韓併合以來教育制度の確立によりて、朝鮮に於ける各種學校の施設は漸次完備し、殊に初等教育の普及は、實に急激なる勢ひを以て進展して居る。然しながら數千百年の久しきに亙りて培はれて來た、儒教教育の力もまた未だ全く衰滅したりとは稱し難く、地方によりては今尚ほ學校教育の恩恵に浴せず、書堂の經營を始め、人智の啓發と讀書修養に、儒生の感化教導を受けて居る所が尠くないので



ある。惟ふに朝鮮の社會組織は、日韓併合前までは、兩班、中人、常民、賤民の四階級より成つて居て、非常に門閥を尙ぶ風があつた。兩班とは文武の大官または學徳の高い學者を出した家柄の正しい一族で、名門及び身分の高い官吏となるべき資格やその特權を有し、中人は或る限定せられた官職にあつたものゝ一族で、門地や教育が常民よりは稍高いもの、常民は農工商を業とするもの、賤民は常民の班にも入り得ない最下層のもので、白丁、奴婢、倡優、僧侶の類はこれに屬する。尙ほ同一階級のうちでも、職業によつて高下があり、年齢の老若によつてもまた差別があつた。併合後右の如き區別は撤廢されたが、實際に於てはこの階級思想は今も尙ほ残つて居るのである。日韓併合前の調査に據ると、兩班の最も多い地方は忠清南道にして、その道内でも、木川郡、公州郡、定山郡、連山郡、洪州郡、大興郡、懷徳郡、燕岐郡、稷山郡、牙山郡等はその最も多い地方である。これに亞ぐは忠清北道で、その中でも多いのは、堤川郡、延豊郡、忠州郡である。この外、咸鏡南道では、咸興郡、洪原郡、定平郡、京畿道では、楊平郡、楊州郡、慶尙北道では、醴泉郡、大邱郡、慶尙南道では、河東郡、晋州郡、全羅北道の興徳郡、全羅南道の潭陽郡、黃海道道の平山郡、平安南道の平壤郡、平安北道の義州郡、江原道の通川郡、咸鏡北道の鍾城郡等はいづれも兩班の多く住んで居る郡であつた。今日と當時とは多少事情を異にして居るが、それでもこれ等の地方は兩班の數が多いことは事實である。而して

兩班中には、今尙ほ資産勢望隆々たるものあり、政府より優遇を受けて居る者も多いが、中には時勢の變遷に依りて、産を失ひ、または志を得ざる者も尠くない。兩班に次いで社會的地位の高い儒生は儒教の信者にして經世濟民を任として居る者である。儒生の前身には別に資格と謂ふべきものなく、士農工商を問はず郷校または成均館に入りて孔孟の學を奉ずるに至れば儒生たるを得るのであるが、多くは兩班または儒生の子孫が儒生となるのである。儒生中才學優秀なる者は山林と稱し、儒生の團體たる儒林より當路に推薦してその登用を促すを例とし、往々儒生より一躍して顯官に陞ることあり、一度拔擢さるゝや社會はこれを最高の兩班として待遇する。これ朝鮮人が争ふて儒生を志願する所以で、階級制度の嚴重なる時代の唯一の人材登用機關となつて居た。然しながら儒生中には後世自ら政争の渦中に投ずる如き者を生じ、その多數は全く生業に指を染めず、成均館及び郷校に附屬せる學田によりて糊口を凌ぎ、徒らに文廟、書院を祭るに過ぎず、無爲に時事を談じて居る者もまた尠くなかつたやうである。

李朝このかた朝鮮に於ける儒教は形式に陥り、所謂文字の學に墮し、従つて人心の統制力に何程の効果があるかは疑問であるが、嘗て碩學名儒を出した地方の如きは、著名なる祠宇、書院の存在し、今尙ほ先賢の徳を追慕し、儒教を奉ずる者が相當に多いのである。然らば朝鮮内でいづれの地方が最も

儒教が盛んであるかと云へば、先づ指を忠清南道と慶尙北道に届すべく、これに亞ぐは全羅南道である。而して儒教普及の程度を統計的に示すことは困難であるが、私は兩班と儒生の多い地方を以て、比較的儒教の進んで居るものと見て大なる誤りはないと信ずるものである。韓國併合の行はれた直前の明治四十三年五月十日の調査では、朝鮮人の職業別戸数は、官公吏一萬五千七百五十八戸、兩班五萬四千二百七十七戸、儒生二萬九千七十五戸、商業十七萬八千七百八十戸、農業二百四十三萬三千四百五十戸、漁業三萬三千六百四十六戸、工業二萬二千九百四十三戸、鑛業一千四百二十九戸、日稼六萬九千三百九十戸、其他三萬四千九百五十七戸、無職三萬一千二百二十三戸となつて居たが、今試みに各道別の兩班、儒生數と、總戸數を見ると左の如くなつて居る。而してその後には、兩班、儒生の數を知るに足るべき調査は、未だ行はれたことがないのである。

兩班、儒生道別分布調 (明治四十三年五月十日)

道名	兩班戸數	儒生戸數	總戸數
漢城府	一一八九	一八八	五六、〇一〇
京畿道	一八七九	一一九七	二四、〇六三
忠清北道	五、八五	一一五一	一一、五三六
忠清南道	二、三四一	一、八六二	二、八六一

全羅北道	二二三	一七五二	二二〇、四一九
全羅南道	一七三	三、四九八	三六六、四三二
慶尙北道	一三、三〇〇	三、五六〇	三、四四六、七一
慶尙南道	一、二九一	二、五七	二、九五、六八四
黃海道	七〇	一、三三九	二、二、六〇〇
平安南道	一七七	七三〇	一、八八、八七七
平安北道	三、五八	四、四九	一、八二、二五〇
江原道	一、七九〇	一、〇九七	一、六一、三五九
咸鏡南道	八六五	一、五六八	一九四、七六八
咸鏡北道	六七二	六七	八〇、七六七
合計	五四、二二七	一九〇、七五	二、八四、七七七

儒教の普及に伴ひ各地に於て、先賢の學徳を追慕し、且つその徳化を報謝する爲めに、享祀を行ふ目的を以て、設立された祠宇、または教育制度改革以前に於て子弟教育の機關となつて居た書院の著名なるものがある。書院は現在に於ては祠宇と同じく先賢の享祀を行ふ公認の齋場となつて居るが、全鮮に於ける祠宇または書院の數は、左の四十四箇所を算するのである。

### 祠院名稱及所在地

崧陽書院 京畿道 開城郡

第二章 文化と犯罪の 關係	筆	武	表	忠	彰	魯	遜	紀	顯	鷺	四	忠	德	江	坡	龍	深	牛
	巖	城				岡	巖			江	忠		峰		山	淵	谷	渚
	書	書	忠	烈	烈	書	書	功	節	書	書	烈	書	漢	書	書	書	書
	院	院	祠	祠	祠	院	院	祠	祠	院	院	祠	院	祠	院	院	院	院
	全	全	同	忠	同	同	忠	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	羅	羅		清			清											
	北	北		北			南											
	道	道		道			道											
	長	井	清	忠	扶	同	論	高	廣	同	始	江	安	驪	坡	抱	龍	金
	城	邑	州	州	餘		山	陽	州		興	華	城	州	州	川	仁	浦
	道	郡	郡	郡	郡		郡	郡	郡		郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡

文	太	清	褒	忠	彰	樂	藍	屏	陶	玉	興	金	紹	道	玉	西	褒
會						安	溪	山	山	洞	巖	烏	修	東	山	岳	
書	師	聖	忠	烈	烈	書	書	書	書	書	書	書	書	書	書	書	忠
院	祠	廟	祠	祠	祠	院	院	院	院	院	院	院	院	院	院	院	祠

朝鮮の犯罪と環境

同	同	黃	同	同	同	慶	同	同	同	同	同	同	同	同	同	慶	全
		海				尙										尙	羅
		道				南										北	北
						道										道	道

延	平	海	居	固	晉	東	咸	同	安	同	尙	善	榮	達	同	慶	光
白	山	州	昌	城	州	恭	陽		東		州	山	州	城		州	州
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡		郡		郡	郡	郡	郡		郡	郡

鳳陽書院	同	殷栗郡
忠愍祠	平安南道	安州郡
表節祠	平安北道	定州郡
彰節書院	江原道	寧越郡
忠烈書院	同	金化郡
褒忠祠	同	鐵原郡
老德書院	咸鏡南道	北青郡

社會知識

●●●●●●●●●●  
國語解得者の増加

學校教育の普及に伴ひて、國語を解する朝鮮人の數は年々著しく増加して居る。國語を解する朝鮮人の増加が、内鮮人の意志疏通に裨益する所は頗る大なるものである。從來動もすれば兩者の間に感情の融和を缺きたるの弊は、これに依りて次第に除去されつゝあり、延いて統治の上に齎らす便宜もまた尠くないのである。而して朝鮮人の側より見ると、國語を解せざれば、中等以上の教育を受くることは極めて困難であり、彼等の最も望むところの官公吏となることも叶はず、銀行會社員や商店員にも不向であり、商工業を營むにも、勞働に従事するにも、極めて不利益なるために、勢ひ國語を習

得する者は増加して行くが、殊に普通學校以上に於ては國語を教授し、または國語を併用するので、國語の普及力は一層迅速である。即ち大正二年の國語を解する朝鮮人は、男八萬六千七百九十八人、女五千四百七十一人であつたが、大正十四年には、男八十二萬三千五百七十八人、女十二萬三千五百七十六人に増加して居る。

いづれの國家も新領土や植民地を統治するに當りては、先づ國語の普及に依りて同化の目的を達せんとして居るが、幸ひにして我國は内鮮人共に漢字を使用し、殊にその言語の系統を同うせる爲め、朝鮮人に對する國語教育は極めて容易に行はれて居る。然しながら内地の新聞雜誌や書籍の朝鮮人に讀まるゝ數は尙ほ甚だ少いから、従つて内地事情を充分に理解させることの出來ない憾みがある。私は大正十三年の春、東京、横濱、大阪、神戸地方に於ける朝鮮人勞働者の状態を調査したが、その際當該地方の官憲や職業紹介所當事者より、内地に渡航する朝鮮人の爲め、豫め朝鮮人に於て、國語會話と内地事情の教育を、施すことの必要なる所以を屢々聽かされた。近時の如く朝鮮人の内地渡航者が増加した以上は、その渡航者の多い朝鮮地方に於ては、これに對する施設を考慮し、簡易に國語の會話を教へ、文字を解する者には日常用語の早わかりの如きものを印刷して與へるとか、または活動寫真などを利用して内地事情を了解せしめて置くことが肝要であると思ふ。



國語を解する朝鮮人數 (大正十四年末現在)

道名	普通會話に差支なき者		精解し得る者		合計		朝鮮人千人に付國語解得者
	男	女	男	女	男	女	
京畿道	五,九五一	九,二五七	六,三三九	五,八五〇	一一,四六〇	一九,〇四一	一三〇・五〇一
忠清北道	一一,五三二	六,七六	一一,一九八	二〇,三三二	二二,一一一	三二,八四四	二七・八七
忠清南道	二〇,三八六	二〇,三〇〇	二二,四二六	三四,九四五	四七,五五五	三九,七〇〇	五五・三三一
全羅北道	一八,二二四	一,五三八	一九,七五二	三三,二七一	三三,五八五	三六,八五六	五二・三三
全羅南道	三二,一〇四	二,八一	三三,九一五	六三,五二〇	九〇,〇〇二	七二,五三二	一一・八三
慶尙北道	二二,五三二	一,八八五	二四,四〇六	四九,九九四	六一,五五六	五六,一五〇	七二・五二五
慶尙南道	二八,一八〇	三,五三二	三二,七二二	六六,二九七	一八〇・八五	八四・三六二	九四・四七七
黃海道	一七,九五二	二,六六四	二〇,五六六	三二,三三三	五四・七二	三六,一九四	四九・二五五
平安南道	二二,六五〇	三,四〇二	二五,〇五二	三七,四九五	七二・八九	四四・七八四	五九・二四五
平安北道	二二,一九〇	二,六八一	二四,八七一	三八,八五七	五二・四〇	四四・一九七	六一・〇四七
江原道	一一,七六三	八,九三	一四,六五六	二四,八四四	三三・三四	二八・二六八	三八・六〇七
咸鏡南道	二二,九〇〇	三,八〇二	二六,七〇二	四九,三三四	八一・〇五	五七,四九	七二・三四
咸鏡北道	一一,六七七	一,九四一	一三,六一八	一九,八四九	三三・五二七	二二,三三六	三一,五三六
總計	二九六,〇二二	三七,〇九二	三三二,一一三	五八五,四八四	六六五,〇三三	八三三,五七〇	一一三,五七六

即ち國語解得者數の地方別現況を見るに、朝鮮人千人に付國語解得者は、京畿道の七一・四人が最



た新聞雑誌の經營者及び論調等より察して、その購讀者の思想傾向をも窺ひ得るものである。現に朝鮮内に於て新聞紙法に據りて發行する新聞雑誌の數は、これを經營別に見ると、内地人の發行に係るもの、新聞三〇、通信八、雜誌一一、朝鮮人の發行に係るもの、新聞八、雜誌四、外國人の發行に係るもの、新聞一あり、使用文字別に見ると、國語を用ふるもの、新聞二九、通信八、雜誌一一、諺文を用ふるもの、新聞九、雜誌四、英文を用ふるもの、新聞一となつて居る、尙ほこの外に内地、滿洲支那その他の外國等より來る新聞雑誌と、新聞紙法に據らずして朝鮮内で發行する學術雜誌、會報なども相當に多いがこれ等を除外した、朝鮮内發行の新聞雑誌の購讀者は、新聞紙二十八萬六千七十七人、雜誌十六萬七千八百五十四人、合計四十五萬三千九百三十一人に過ぎず、その普及の未だ甚だしく幼稚なることが認められる。

新聞雜誌購讀者數地方別 (昭和元年末)

道名	讀者數		一新聞紙雜誌に對する人口數	
	新聞紙	雜誌	新聞紙	雜誌
京畿道	七四八七一 <sup>人</sup>	五五八六一 <sup>人</sup>	一三〇七三 <sup>人</sup>	二六・九七 <sup>人</sup>
忠清北道	四五五六	二九四一	七五〇七	一八五・六一
忠清南道	二二三〇〇	七二六六	一九五〇六	一〇四・三三
				一七七・九一
				六五・七三

第二章 文化と犯罪の關係

全羅北道	一八一〇六	七九三五	二六〇四一	七五・六三	一七・五三	五二・五七
全羅南道	一八一三二	八四六〇	二六五九一	一一九〇四	二三八六九	六〇・二三
慶尙北道	二八二八〇	二六〇八二	五四三六一	八七・四八	八九・四三	四四・五九
慶尙南道	四五五七二	二〇・六四九	六六二二二	四四・三八	九七・九二	二〇・五三
黄海海道	二二八四一	六〇八八	一八九九	一一三・八四	二四〇・二二	七七・三三
平安南道	二二二二七	八五九三	二九七〇〇	五八・七八	一四四・五一	四二・七八
平安北道	一四二六三	八七八四	二三〇四七	九九・三五	一六一・三三	六一・四九
江原道	八二四六	四三二八	一一五七四	一六一・九八	三〇七・八四	一〇五・九六
咸鏡南道	一七七七〇	五二四〇	二二・九四〇	七九・八三	二六九・六六	六二・六〇
咸鏡北道	一〇〇七三	五六八七	一五七六〇	六二・二七	一一〇・二二	三九・七四
總計	二八六〇七七	一六七八五四	四五三・九二	六八・五	一一六・三	四二・〇一

即ち人口に對し新聞雜誌の購讀者數の最も多きは京畿道にして、慶尙南道これに亞ぎ、その最も普及せざるは忠清北道、及び江原道である。新聞雜誌の種類より見ても、鮮内在住の内地人と朝鮮人との間には、新聞雜誌の利用程度の甚だしき差違のあることが認められやう。これは勿論内地人に比して朝鮮人の購買力の低いことも一因を爲して居らうが、兩者の教育知識に著しき懸隔のあることを如實に示して居るものである。されば朝鮮人に對しては、學校教育の充實以外に、社會知識普及の必要

なる所以がわかる次第である。即ち通俗講演や活動寫真等によりて、内地事情の宣傳、衛生思想の養成、納稅道德の涵養、勤勉精神の鼓吹、農事改良及び副業の奨励等を行ふことも急務である。

### ●●●●●●●● 圖書館の分布

社會教育機關として圖書館の必要なることは云ふ迄もないが、朝鮮に於ける圖書館事業は未だ極めて幼稚にして、これを内地に比すると甚だしき遜色がある。今試みに朝鮮内に於ける圖書館の分布状況及びその利用程度を示すと即ち左表の如くなつて居る。現在に於ては京城府を有する京畿道に於て稍圖書館らしきものあり、これに亞ぐものは釜山府を有する慶尙南道のみで、その他には未だ圖書館として完備せるものは殆んど算へ難いのである。然しながら近時朝鮮に於ける向學心と知識慾は頗る増進して居るから、この際圖書館の充實普及を計ることは最も急務に屬して居る。

圖書館分布一覽表 (大正十五年三月末)

區別	道	館數	藏書冊數	開館延日數	閱覽延人員
京畿道	八	101,741冊	1,500冊	31,177人	
忠清北道	一	2,293冊	174冊	1,041人	
忠清南道	三	1,537冊	897冊	1,101人	

全羅北道	二	三八六二	七二二	四八六一
全羅南道	四	四、五九八	八九九	五、四〇七
慶尙北道	一	五、四三三	二八八	六、三八五
慶尙南道	六	二、九二五	一、九〇九	四、九七六
黄海道	一	六二〇	三三三	一、四二二
平安南道	一	一	一	一
平安北道	五	一、四〇八	一、五八五	五、二四七
江原道	一	六九四	三〇〇	二、〇九八
咸鏡南道	二	二、二八〇	一七〇	三、九〇一
咸鏡北道	一	六三七	三六五	四九〇
合計	三五	一、七、三八七	一〇、一二一	三、九、七五〇

### 宗教と信仰

朝鮮に於て内鮮外人の信仰する宗教は、神道、佛教、及び基督教と、その他の信仰團體にして、神道、佛教、及び基督教は布教規則に依りて公認されて居る宗教であるが、その他の信仰團體は公認されないものである。「日本人は數人集まれば先づ第一に神社を祭り櫻を植ゑ、西洋人は數人集まれば先づ第一に教會を建て俱樂部を作る」と言つた人があるが、朝鮮各地を旅行する者は必ずこの言の當つ

て居ることを感ずるであらう。神社を崇敬し櫻を愛好するは、實に日本人の國民性であるが、宗教の信仰に於ても、内地在住者よりは在鮮内地の方が、遠く故郷を離れて居る關係上熱心なやうに思はれる。朝鮮に於ける各宗教派の布教状況を見るに、神道に在りては、現に朝鮮に布教者を派出し各地に於て布教に従事して居るものは、天理教、金光教、神理教、大社教、實行教、扶桑教の諸派ありて布教所百五十三箇所、布教者四百七十七人、信者八萬三千七百八十八人ある。佛教には内地派の佛教と朝鮮派の佛教とありて、内地派の佛教は、眞宗四派、古義眞言宗、新義眞言宗二派、淨土宗、曹洞宗、法華宗、日蓮宗、本門法華宗、黃檗宗の諸宗派が朝鮮に於て布教に従事し、傍ら學校、幼稚園、慈惠救濟事業を行ふものもあり、既に信者二十萬六千餘人を有して居る。朝鮮派の佛教は、禪宗に屬する曹溪宗、總南宗、天臺宗、教宗に屬する華嚴宗、慈恩宗、中神宗、始興宗を算へ、信者十九萬八千餘人あるが、僧侶の社會的地位低く、李朝に於ては儒教を奉じて佛教を抑へたる爲め、佛教の勢力は失墜し、寺院は財政難に依り維持に窮して居る始末である。内鮮兩派を通じて佛教の寺院及び寺利は九百七十二、布教所四百七箇所、布教者五百二十一人、僧尼七千二人、信者四十萬四千三百二人に達して居る。基督教は、明治十六年中朝鮮政府と英國との通商條約に依りて、その禮拜堂を設け宣布するを許されて以來、各國はこれに倣つて布教に従事するに至つたもので、日本メソヂスト教會、日本基督教

會、日本組合基督教會、東洋宣教會、ホーリネス教會、朝鮮耶蘇教長老會、聖公會、救世軍、靈國正教派、天主教教、天主教朝鮮聖芬道會、南監理教會、美監理教會、第七安息日耶蘇再臨教、東洋宣教會あり、布教所二千八百九十六箇所、布教者二千百二十人、信者三十六萬一千四十一人に達し、その勢力隆々たるものあり、殊に知識階級の青年男女に多くの信者を有して居る。外國宣教師等は夙に布教の傍ら學校、病院、慈善事業等に向つて活動し、朝鮮人の教化救済に竭したる効績は尠少でない。今試みに各宗の道別分布狀況を示せば左の如くなつて居る。

宗 教 狀 況 地 方 別 (大正十四年末)

道 區 分	神 道		佛 教		基 督 教					
	布教所	布教者	信 徒	寺 院 及 僧 尼	布教所	布教者				
京 畿 道	四〇	一六九三、〇七六	一八七	六〇	一三三	一、三六六	二四、四六六	五四二	五八〇	五八、三五〇
忠 清 北 道	四	六	八四四	三五	一〇	一一	一五一	八二八	一一八	一〇、四二
忠 清 南 道	六	一四三、三三六	六二	三二	三三	五四二	二二、八四	一五五	九七	一七、一九四
全 羅 北 道	一〇	一八三、七四七	八二	二六	三三	一、五五	一五、九一八	二四七	八三	二六、二二二
全 羅 南 道	六	一四三、五九二	九六	四八	三八	九四八	三五、六七〇	二七二	一三三	二〇、一〇六
慶 尙 北 道	一三	二五、四一七八	一三三	四三	五	七三七	四〇、〇四二	四五六	一六九	三三、四九九
慶 尙 南 道	三九	八二、三三七六	一〇五	八九	一一〇	一、五二〇	二四、五六九	二八七	一〇六	二二、二九〇



黃海道	六	一一	七八三	三八	一七	一七	二六二	一〇、三九	四五六	一九一	三、三八七
平安南道	九	三四	四〇三八	三六	二二	三二	四七	一五、三九一	四三六	二六〇	五、三五五
平安北道	六	二二	二、五五四	三九	一七	一九	九八	九、四九九	三三四	一五三	四、九三八四
江原道	一	一	一五六	五一	二二	二二	七三	一〇、四六〇	三六三	一五〇	一、三三二八
咸鏡南道	九	一五	四、三二二	一〇八	一三	一三	四〇四	一三、三六二	一五〇	七〇	八、八三九
咸鏡北道	四	七	一、四九七	二	一九	一三	一	一三、八六四	九〇	五七	六、七八一
總計	一五三	四二二	二八、七〇八	九七二	四〇七	五二七	七、〇〇二	四〇、四三〇	三、八九六	二、二二〇	三、六二二

更に各宗教信徒を内鮮外人別にして見ると左表の通りにして、人口一千人に對する朝鮮人の宗教信者数は僅に三一・二人に過ぎず、内地人の六・三七・四人に比し甚だしく少いことが判るであらう。宗教の信者は大體に於て、文化の發達した朝鮮地方に多く、文化の普及充分ならざる西北鮮地方に少いことも、各道別比較によりて明かになつて居る。

各宗教信徒數内鮮外人別 (大正十四年末)

道名	神道		内地佛教		朝鮮佛教		基督教		人七千人に對する各種信徒		
	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	
京畿道	三六、八六七	四、一八五	四	四六、四七七	一	三〇、五三三	二、五七六	五、五六七	一六七	七、四六・五	四、六・九
忠清北道	七七一	六	一	三、八八三	一	四、三九	一四	一〇、三三七	一	六、三六・九	一、七・八
忠清南道	三、七三三	三七四	一	一〇、九六	一	四、六三七	八五	一七、〇九四	一五	七、〇六・〇	三、四・〇
											五・七

第二章 文化と犯罪の關係

朝鮮の犯罪と環境

一〇二

全羅北道	三、四七一	二七六	一〇、九五五	七九六	一五	四、八二二	三三四	二五、八八三	五	五四三・四	二〇・七
全羅南道	二、七九二	五〇二	一三、七〇七	一三六	九五	三、七四三	二九五	一九、八二二	一	五三三・三	二〇・七
慶尙北道	三、七三三	四五五	一四、〇三四	五八四	九	三、五四五	四四五	三三、〇三八	二六	四七〇・〇	二六・八
慶尙南道	三、八四四	二、五三三	一三、三五四	七四五	八三	八四四〇・一	七五九	二、四四九	二	七八六・九	五六・〇
黄海道	七、五六一	二七	一八、〇三七	二六	六	一、九七〇	二二	三、七五八	一一	六六・四	三〇・四
平安南道	三、八〇三	二五五	一四、三三二	三三五	一	七四五	五七六	五二、六四三	三	五四三・六	四三・八
平安北道	一、一五七	六九	六、五三九	三〇	一	三、九〇〇	一四六	四九、三三五	一三	四二・三	三六・五
江原道	一、六一	一	二、七三三	二七	三〇	七、五五二	二〇	二五、一九九	九	三四三・七	三三・七
咸鏡南道	四、〇〇八	三三三	一七、五七五	七三	一	一五、七三五	一七五	八、六六四	一	五八・一	一八・七
咸鏡北道	一、三九七	一〇〇	一〇、八三三	三〇一	一	二、八四一	一三	六、六四六	一	五〇・三	一六・七
總計	七四、五三三	九、一四三	三、一七〇、三六八	一五、七四七	三六	一、九七、九五二	五、六九五	三、五五、三六二	二六三	一、一	一
人口千人に 付信者數	一七五・五	〇・五	四八・三	〇・八	〇・五	二〇・七	一三・二	一九・三	五五	六三・四	三・三

以上は公認せられたる宗教に就いて述べたのであるが、それ以外にも朝鮮人間には各種の信仰團體あり、天道教はその中に在りて最も勢力を有し、これが歸依者十四五萬に及ぶべく、これに亞い有力なるものは侍天教にして三四萬人、普天教は約二萬人、青林教は約一萬三四千人の歸依者がある。尙ほこの外に太極教、人道教、太乙教、太極教、大宗教、檀君教、孔子教、箕子教、大華教、濟愚教

濟世教、<sup>フムナ</sup>呼嘯教、覺世教、龍華教、仙道教、白白教、人天教、崇神人組合、崇神教會等があり、いづれも多少の歸依者を有して居る。人智尙ほ未開の朝鮮人間には、迷信の力甚だ強く、所謂淫祠邪宗を信仰する者尠しとせず、愚民を惑はす巫女、その他各種の加持祈禱もまた盛んに行はれて居る、されば教育の普及と相俟つて宗教の感化により、朝鮮人を精神的に善導して行くことは最も大切である。

### 醫 療、 救 濟

#### ●●● 醫療機關

一國一地方に於ける文化の程度を觀察するには種々の方面に眼を注かねばならぬが、醫療及び救濟機關の普及の如きも、一面より見るときは、その國の文化の程度を測定するに足るものである。朝鮮に於ける醫療機關は左表に示すが如く未だ貧弱極まるものにして、市街地を除けば完全なる醫療の方法なく、幼稚なる醫生の治療投薬を受けることすら困難なる状態に在り、諺に曰ふ「酒屋へ三里、豆腐屋へ一里」ごころのことではなく、十方里に僅に醫師一人、醫生三人の分布に過ぎず、一萬人の人口を約三人の醫師醫生で治療する始末であるから、勢ひ各種の荒唐無稽なる迷信療法が行はれて居る。従つて朝鮮の衛生状態は頗る不良にして、各地に悪性なる地方病の流行あり、また傳染病の發生に際しては、その蔓延を容易ならしめて居る。

醫 療 機 關

(大正十四年末)

區 分	內 地 人		朝 鮮 人		外 國 人		合 計
	數	率	數	率	數	率	
官立醫院	1	100	1	100	1	100	3
公立醫院	1	100	1	100	1	100	3
醫師	391	100	68	100	36	100	1,365
齒科醫師	22	100	42	100	3	100	207
醫生	1	100	495	100	3	100	499
獸醫	26	100	1	100	1	100	28
限地醫業者	69	100	6	100	5	100	80
產婆	751	100	54	100	1	100	806
限地產婆	45	100	3	100	1	100	49
入商營業者	207	100	67	100	1	100	175
種痘認許員	28	100	156	100	1	100	185
看護婦	604	100	101	100	3	100	708
按摩業	49	100	149	100	1	100	199
鍼術業	295	100	374	100	1	100	670
灸術業	37	100	141	100	1	100	179

醫療機關分布表 (大正十四年末)

道名	種別	種別										人口一萬人に付	
		公醫	醫師	醫生	齒科醫師	入齋醫業者	產婆	看護婦	鍼灸按摩營業者	醫師	醫生		醫師
京畿道	道	一八	三六三	五七七	六四	二八	二六〇	三〇七	五四	四三六九	六三三	一八六九	二六六一
忠清北道	道	二三	三三	一六八	四	四	二〇	一六	一四	〇六四四	三九三	〇三七四	二〇三六
忠清南道	道	一八	六〇	三三五	四	一四	四六	二六	六二	一三四二	四八二	〇四八二	一八〇九
全羅北道	道	一九	六九	二四七	八	一一	四七	二〇	七六	一三四八	四四六六	〇五一五	一八四二
全羅南道	道	二五	一〇二	三〇八	一九	二二	九四	三三	八七	一三三三	三四二	〇四八二	一四五五
慶尙北道	道	三〇	一一二	四七一	一四	二〇	八六	七二	九七	〇九一〇	三八七	〇四九四	二〇七八
慶尙南道	道	二七	一三三	五八〇	三七	一八	一〇七	八三	四四	二二九四	七二七〇	〇五三二	二九五六
黃海道	道	二八	九九	二四四	八	一一	四五	八	五九	〇九二三	二四九	〇六九九	一七四
平安南道	道	二〇	一三二	三九七	二二	八	五八	六三	九四	一三六四	四一〇三	一〇九九	三二八四
平安北道	道	二六	一〇一	四五五	六	一〇	四六	三〇	六九	〇五四八	二四六七	〇七三〇	三二八九
江原道	道	二七	六二	二七〇	二	一三	二五	一七	二二	〇三六四	一五八六	〇四七三	二〇六一
咸鏡南道	道	二五	八七	七〇九	九	一四	四七	四〇	九六	〇四二〇	三四一九	〇六四六	五三六六
咸鏡北道	道	一九	六七	二五六	一〇	一一	五〇	三五	八九	〇五〇八	一五四一	一〇九四	四二八一
總計		二九五	一四六八	四八四七	二〇七	一七四	九三一	七三九	一七〇四	一〇〇六	三三八七	〇七七二	二五四九

備考 醫學中には公醫、醫師、醫生のみを含む

第二章 文化と犯罪の關係

●●●●●  
救濟機關

社會事業たる救濟機關の發達如何は、醫療機關の普及と共に、文化の高低を測定する一標準となるものであるが、朝鮮に於ける救濟機關は、その社會狀態と對照して未だ尙ほ發達の不充分なる感がある。大正十四年末現在の救濟事業數は、出獄人保護二十七、盲啞教育二、孤兒又は貧兒教養二十、貧民救助十一、行旅病人救護十五、貧民施療五十五、癩患者救療四、勞働者宿泊五、合計百三十九にして、その經營者は、内地人百一、朝鮮人十四、外國人二十四となつて居るが、その一箇年の經費は僅に九十三萬餘圓に過ぎないのである。さればその數の増加、または設備の充實は極めて大切なことと信ずる。

救濟事業一覽表 (大正十四年末現在)

年次別	經營者種別										一箇年經費					
	出獄人保護	盲啞教育	孤兒又は貧兒教養	行旅病人救護	貧民施療	癩患者救療	勞働者宿泊	合計	内地人	朝鮮人	外國人	合計	入	出		
大正四年末	一	一	六	九	一	一八	二	三	一	六一	三四	六	二	六二	二八九八八	一〇六七五
同五年末	一	一	九	二	一	一九	二	一	一	六五	三三	五	二	六五	一八二九四	一七〇三〇
同六年末	一	一	九	一〇	三	二〇	三	一	一	六六	三五	五	二	六六	二四一六三	一九九六五
同七年末	一	一	一三	一三	七	二〇	三	一	一	七七	四三	七	二	七七	二七二八五	二四〇五四



	咸鏡南道	咸鏡北道	合計
末	二	一	三
咸鏡南道	一一一	一一一	二二二
咸鏡北道	一一一	一一一	二二二
合計	二二二	二二二	四四四
	五三九	一〇一	六四〇
	二四	二九	五三
	九三〇	三三七	一二六七
	九三〇	三三七	一二六七

## 娯樂遊興

凡そ如何なる社會に於ても、高尚なる趣味を涵養し娯樂を興ふべき機關に乏しいときは、自然酒色に親み遊興に耽るものを生ずるのは免れ難いことである。而して遊興機關と犯罪とは極めて密接なる關係を有し、遊興の爲めに産を失ひて詐欺、横領、文書偽造等の罪を犯し、遊興の資を得んが爲めに強窃盜を働き、痴情または酒亂の結果遊興場に於て殺人、傷害の罪を敢てする如きことは枚擧に遑がない。今試みに朝鮮に於ける娯樂、遊興機關分布の状態を見ると左表の如くなつて居り、大體に於て市街地の多い、經濟狀態の發達して居る地方に、その數が多いのである。米國のニューヨーク、シカゴ、ボストン、フィラデルフィアあたりの大都市に於ては、犯罪の中心になつて居るものは秘密の酒場であるさうである。わが内地や朝鮮に在りても、市街地の遊廓や魔窟と稱せらるゝ所に於ては、常に各種の犯罪が行はれ易く、往々にして犯人の隠匿場となる傾向がある。殊に朝鮮に於ては多數の酒幕が市街地、部落、市場所在地などに散在し、朝鮮人は概して文化の程度も低く、且つ刺戟性に富む酒類及び食物を用ふる結果、亢奮して喧嘩を爲し、遂ひには傷害沙汰に及ぶ如き例も珍らしくない



のである。また遊興機關は時として不穩分子の秘密の集会所となることあり、彼の大正八年の獨立騷擾事件に際して、京城鍾路の料亭明月館が、宣言發表の場所として撰ばれたことは有名な話である。「犯罪の陰には女あり」といふ諺の如く、藝妓(妓生)、娼妓(カルボウ)、酌婦(酒幕女)、私娼などが、直接間接に犯罪に係り、或は事件の發生に就いて誘因となる場合も尠くないのである。

娛樂機關分布表 (大正十四年末)

道名	寄席		劇場		活動寫眞館		遊戯場		遊船業	
	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人
京畿道	三	一	三	八	八	一	四七	九	一五	二三
忠清北道	一	一	一	一	一	一	五	一	一	一
忠清南道	一	一	三	一	一	一	一七	一	三	一
全羅北道	一	一	四	一	一	一	二六	六	一	一
全羅南道	一	一	三	一	一	一	三三	七	一	一
慶尙北道	一	一	二	一	三	一	二	一	一	一
慶尙南道	一	一	一〇	一	四	一	五三	五	二	一
黄海道	一	一	四	一	一	一	六	七	一	一
平安南道	一	一	一	一	二	一	五	四	二	二

第二章 文化と犯罪の關係

朝鮮の犯罪と環境

一一〇

遊興機關分布表

(大正十四年末)

道名	料屋			飲食店			貸座敷			藝妓置屋		
	内地人	朝鮮人	外國人	内地人	朝鮮人	外國人	内地人	朝鮮人	外國人	内地人	朝鮮人	外國人
平安北道	1	1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1
江原道	1	1	1	1	1	1	4	1	1	1	3	1
咸鏡南道	1	1	1	4	1	1	2	1	1	1	1	1
咸鏡北道	1	1	1	5	1	1	3	5	1	1	1	1
總計	5	1	5	19	3	2	25	6	3	3	2	6
京畿道	108	57	46	221	530	780	171	848	91	135	27	92
忠清北道	26	8	2	38	22	249	23	253	1	1	1	1
忠清南道	49	4	9	102	50	358	50	368	1	1	1	1
全羅北道	5	1	6	12	80	296	43	308	20	6	2	2
全羅南道	8	3	2	13	77	439	1	439	9	4	3	2
慶尙北道	7	2	7	16	16	80	18	83	2	5	1	1
慶尙南道	15	4	2	21	29	56	39	60	26	18	14	7
黄海道	3	1	3	7	37	64	65	83	2	4	1	1
平安南道	1	1	1	3	37	64	1	83	2	5	1	1

平安北道	六	一五二	三	二三〇	二五	四三七	八四	四四六	一	一	一	一	
江原道	三	二七	八	六七	二〇	三三二	二五	三七八	一	一	一	一	
咸鏡南道	五八	四三	七	一〇八	四八	三五六	九六	三七〇	八	一四	七	二二	
咸鏡北道	七九	三〇	一	一一〇	一〇一	一七九	二五四	二〇九	三八	五	四三	六	
總計	八一〇	五八三	一五四	一五四七	一四九	一五五五	一四五六	一四六五	三五九	二三四	五九四	二九二	一五〇

備考 貸座敷中△印は外國人なり

藝妓、娼妓及酌婦分布表 (大正十四年末)

道名	藝妓				娼妓				酌婦				合計
	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	
京畿道	四〇五	二三一	四五三	三五二	三	二七	二一	八八五	五九三	三	一四八一	二二	
忠清北道	四九	一七	一	一	一	三九	一六	八八	三三	一	一二	一	
忠清南道	七五	三九	三三	六	一	三八	二五	一四四	七〇	一	二二四	一	
全羅北道	六四	六	一一二	四三	一	二五	二四	二〇一	七三	一	二七四	一	
全羅南道	一三〇	五	七三	三六	一	六九	一三四	二七二	一七五	一	四四七	一	
慶尙北道	二七	四	九三	三四	一	七〇	三九	二三四	二四	一	三三八	一	
慶尙南道	二五八	九三	六四六	二五八	一	三	三三	九三五	三六二	一	一三三七	一	
黄海道	四六	五八	二八	一八	一	二三	一二	九六	一九七	一	二九三	一	

平安南道	七三	二〇九	二二二	一四七	一	一八	三元	三二二	三九五	一	七〇七
平安北道	一三八	七五	一	一	一	一〇五	二五七	二二二	三三二	一	五六五
江原道	四三	三七	一	一	一	四〇	一〇	八三	四七	一	一三〇
咸鏡南道	三元	四	二九	四〇	一	六三	二二	二二	一七五	一	三九六
咸鏡北道	二八	一一	二五八	八四	五	九五	二四	三八一	二二九	七	六〇七
總計	一四〇九	八六	二,〇三四	一,〇二七	八	六四二	九六二	四,〇八五	二,八〇五	一〇	六九〇

備考 朝鮮人酌婦中へ印は外國人なり

交通、通信

交通及び通信の發達は、警務機關の活動に便利を來すと共に、一方これを利用する犯罪の増加を來し、また犯人の逃走を容易ならしめ、犯罪を移動的ならしむる傾向あるは止むを得ないことである。今試みに最近に於ける朝鮮の交通の一斑を窺ふに足るべき資料として、陸上運搬具、及び道路延長、鐵道線路哩程、通信事業の地方別狀況を示せば左の如くなつて居る。この種交通機關の普及が、略ぼ各地方に於ける人口の分布と、經濟及び文化の發達に伴つて進展して居ることは、その各道別の比較によりて見當がつくことと思ふ。

陸上運搬具數 (大正十四年末)

第二章 文化と犯罪の關係

種別	人力車			馬車			自動車			自轉車	自動自轉車 (同附せざるもの) 計
	營業用	家用	計	營業用	家用	計	乗合用	貨物用	家用		
内地	一、四七一	一、四四	一、六九五	一	六	四八	五七二	一五二	二〇三	九八	一、〇二五
朝鮮	一、三八四	二四〇	二、六二四	一	一	三三	四一八	三三	七	六	四六四
外國	七	二	九	一	一	一	二	九	八四	一	九五
合計	三、八六一	三六六	四、四八	三	八	一〇	九九二	一九四	二九四	一〇四	一、五八四
内地	三、〇四七	一、二六六	四、八三	一	六	一	五七二	一五二	二〇三	九八	一、〇二五
朝鮮	一、四七一	一、四四	二、六二四	一	一	三三	四一八	三三	七	六	四六四
外國	七	二	九	一	一	一	二	九	八四	一	九五
合計	三、八六一	三六六	四、四八	三	八	一〇	九九二	一九四	二九四	一〇四	一、五八四

朝鮮の犯罪と環境

道名	荷牛車		荷馬車		荷車	
	自家用	營業用	自家用	營業用	自家用	營業用
京畿道	六三二五	五、九二二	二六五三	三九、九六四	二二	一〇、九七四
忠清北道	二六五三	五二	八、九六八	四二、六六九	二六	一〇、九七四
忠清南道	二六五三	五二	八、九六八	四二、六六九	二六	一〇、九七四
全羅北道	二六五三	五二	八、九六八	四二、六六九	二六	一〇、九七四
全羅南道	二六五三	五二	八、九六八	四二、六六九	二六	一〇、九七四
合計	二二、三五七	一七、五七〇	七、四四五	一〇、二二五	一八四	三〇、一一一

道路延長地方別表 (大正十四年三月末)

道名	道路延長			合計	百万里に付 道路延長	人口十萬人に付 道路延長
	一等道路	二等道路	三等道路			
京畿道	九一里	六四里	二〇八里	三六三	四三七	一九三
忠清北道	二二	四八	一〇九	一七八	三七〇	一三八
忠清南道	二元	七二	二四〇	三三一	六四八	一九一
全羅北道	三六	六〇	一七九	二七五	四九七	二二五
全羅南道	三三	一四五	一九八	三三四	四一六	一八五

慶尙北道	五四	一四二	一四	三〇	一五二	一四三
慶尙南道	六	一三八	一五八	三四	四〇六	一七四
黃海道	三七	一六六	一三八	四四一	四〇六	三三八
平安南道	七三	一五	一七	三〇五	三三五	二七五
平安北道	三三	一九六	八三	三〇二	一六四	一三一
江原道	二六	二六三	一四	四三二	二五四	二五四
咸鏡南道	八〇	八七	一八	二八五	一七一	二三四
咸鏡北道	一〇一	六	三	一九三	一四六	三三七
總計	六三二	一、五五七	一、九三四	四、二三三	二、八八	二、三八

鐵道線路哩程地方別表 (大正十五年末)

道名	線路里程			合計	線路延長 百方里に付	人口十萬人に付 線路延長
	國有鐵道	私設鐵道	里			
京畿道	一七八・二	五五	一八三七	二〇二	九・五	
忠清北道	四九五	二四二	七三七	一五三	八・九	
忠清南道	九一二	六三・八	一五五〇	二九五	一三五	
全羅北道	六五・二	一五・五	八〇七	一四六	六・〇	
全羅南道	七二・七	二二・七	九五四	一〇六	四・五	
總計	一、七八二	二四二	二、〇二四	一、〇一五	一、〇一五	

第二章 文化と犯罪の關係

朝鮮の犯罪と環境

慶尙北道	八六〇	一八二二	一〇四七	一六六	九〇
慶尙南道	八三七	六〇三	一四四〇	一八一	七三
黄海道	九六四	四九七	一四二一	一三一	一〇〇
平安南道	一一二二	二三〇	一三五二	一四〇	一〇八
平安北道	一〇三九	—	一〇三九	五六	七五
江原道	四七五	三七〇	八四五	五〇	六一
咸鏡南道	二〇〇三	三五三	一三五六	一〇〇	一七五
咸鏡北道	一五五五	三六一	一九一六	一一八	三二三
合計	一三四二三	四八七三	一八二九六	一一八	九六

通信事業地方別狀況

(大正十四年)

區名	郵便電 局所數	通常郵便物		小包郵便物		郵便爲替		郵便貯金		振替貯金		電報		加入 者數	電 話 通 話 數
		引受	配達	引受	配達	振出	拂渡	人員	金額	拂込	振出	發信	着信		
京畿道	一七	六、〇三七	四、九四七	九五一	五五	一七、〇五	四、三〇八	三、八、九、五、八、四、三〇六	一、六、九、九	七、四、七〇	一、三、九、一	二、七〇	八、五、九六	四、九、九	一、三、九
忠清北道	三	三、八四四	四、八四七	二四	七五	二、九三三	二、二六	五、五、九、四、五	三、三	五、六、九	一、八、八	七	七	三九	一、三、九
忠清南道	五	八、七四八	一、二四七	六	一四〇	四、五、六	四、〇、四	八、三、〇、三	七、四	一、一、七、六	三、四、六	一、七、四	一、七、四	一、〇、六、五	四、〇、五
全羅北道	四	九、七六二	一、三、〇、九	五	一五〇	五、七、三	三、六、二	九、三、四、七〇	八、五〇	八、一、五	二、八、五、六	二、五〇	二、四、七、一	二、七、五、七	六、七、七
全羅南道	六	一三、一、五三	一、六、二、七、四	一四	二二七	九、八、三	八、二、三、三	一、七、四、五、九、一、七、六、九	一、三、三、五、四	六、七、四	三、九、八	三、九、一	一、六、〇、三	五、八、三、四	五、八、三、四



慶尙北道	六九	一三、八四	一七、八四	一三	三三	二、五〇	一〇、八九	二四、九五	一、四三	二、五九	三、七	三、五二	〇、三	一〇、六五
慶尙南道	八八	二〇、四八	三、四三	二九	三二	一五、六一	一四、六四	一六、四六	二、九三	三、七五	六、七七	八、六六	八、五三	一七、六〇
黃海道	五	七、四三	一〇、六七	四	四	五、六七	四、五八	八四、六四	八三	八、五九	二、七七	一四〇	一四	三、六七
平安南道	五	一三、七七	三、四〇	二〇	一七	六、五三	六、二八	一七、七九	一、四一	七、〇六	三、〇	三、〇	一、七〇	八、三三
平安北道	五	九、二五	二、四〇	六	三	九、七三	七、一九	二〇、七〇	一、三二	七、〇九	四、〇九	二、七	三、六二	四、五九
江原道	四	五、八一	七、五四	四	一四	四、八八	五、〇七	七六、九七	六三〇	九、五九	三、八三	一、三	四三	一、二九
咸鏡南道	四	九、九一	二、六八	七	一三	九、三五	七、八三	二七、六五	一、三六	八、三五	三、六七	三、五	三、九二	五、三九
咸鏡北道	四	八、〇四	九、五七	五	一七	七、三三	五、九九	八六、七七	一、三二	四、六一	四、八	四、〇	四、五二	六、六三
總計	七七一	二六、八七	一九、二六	二、五〇	二、九九	一〇、八五	九、三三	二六、二六	一、三三	二六、四三	一、三三	五、二二	五、〇七	二六、六五

### 警 務 機 關

治安の維持と人民の保護に任ずる警務機關の配置如何は、犯罪の防止、檢舉に直接の關係あるを以て、朝鮮に於ける犯罪の考察を爲すに當りては、その警務機關分布の狀態を一瞥して置くことが必要である。警務機關は人口に比例し、または地方の事情に應じて配置さるゝものであるが、由來朝鮮はその地勢が比較的平野に乏しく、到る所に山岳重疊し、一團の茅屋各地に點在して小部落を形成し、隣邑互に十數里を距るものも珍らしくない。従つて交通不通なる地頗る多く、殊に降雪、出水の爲めにその杜絶を來すこと屢々あり、加ふるに西北鮮地方即ち江原、黃海、平安南北、咸鏡南北の諸道は、

高山峻嶺相聳え、冬期酷寒甚だしく、常に大陸的氣候の影響を受け、且つ地味礪确不毛の地多く、民情また素朴剽悍なるものあり、就中、國境地方にては、不穩分子及び不逞輩の侵入する危険がある。さればこの間に處する警察官の勞苦は想像以上に於ける、試みに現在に於ける朝鮮の巡査一人當の負擔面積〇・八三方里、人口一千百六人を、内地に於ける巡査一人當の負擔標準面積〇・四六方里、人口一千百十四人、臺灣の面積〇・二四方里、人口四百四人、關東州の面積〇・〇九方里、人口三百十五人、東京府の面積〇・〇一方里、人口三百九十二人に對比するときは、面積に於て内地の二倍、臺灣の三倍半、關東州の八倍、東京府の八十三倍、人口に於ては内地と略ぼ等しきも、臺灣の三倍弱、關東州の三倍、東京府の三倍弱に當り、朝鮮警察官の負擔の過重なることを示して居る。尙ほ各道別の警務機關配置表、及び警務機關負擔表を示せば次の通りである。

警務機關配置表 (大正十四年末)

道名	警察官署數				警察職員數				
	警察署	警察官	派出所	駐在所	事務官	警視	警部	警部補	巡査
京畿道	二五	六三	一六六	三	一	一一	六四	九七	二〇五八
忠清北道	一〇	一	九五	三	一	一	一九	三五	五三七
忠清南道	一四	五	一五八	五	一	一	二四	四三	八三六

全羅北道	一四	九	一五四	八	一	四	二四	九三一
全羅南道	二二	七	二三〇	一	一	三	三三	一、二八六
慶尙北道	二二	一一	二四一	一	一	三	三四	一、三九六
慶尙南道	二二	二二	二三七	一三	一	三	三五	一、三九二
黃海道	一八	四	二二四	一	一	二	二九	一、八七九
平安南道	一六	二二	一三八	三	一	四	三〇	一、二二四
平安北道	二四	八	一九五	八七	一	四	四一	二、七五八
江原道	二二	二	一六七	二	一	二	三三	九九六
咸鏡南道	二〇	六	一八二	二	一	五	三二	一、四四七
咸鏡北道	一九	五	一三四	二七	一	五	三〇	一、三九八
合計	二五〇	一六二	二、三〇一	一五五	一三	四八	四八	一七、一八八

警務機關負擔表 (大正十四年末)

道/區 名/分	一警察署當りの管轄		巡查一人當りの管轄	
	面積 方里	人口	面積 方里	人口
京畿道	三三・四〇	七、七七一	〇・四〇四	九四四
忠清北道	四八・〇〇	八、九三三	〇・八九六	一、五四四
忠清南道	三七・五七一	八、八四四	〇・六元	一、四八八
全羅北道	三九・五〇〇	九、五七七	〇・九九四	一、四四〇

第二章

文化と犯罪の關係

全羅南道	四〇・九〇九	九六・一九九	〇七・〇〇〇	一・四六六
慶尙北道	五三・五三二	九八・五四五	〇八・八一	一・六四
慶尙南道	三四・六九六	八五・三〇一	〇・五七三	一・四〇九
黄海道	六〇・二七八	七八・六四八	一・〇〇六	一・三二二
平安南道	六〇・五〇〇	七七・九二七	〇・八六九	一・二一九
平安北道	七六・八三三	五七・三三九	〇・六六九	五〇・二
江原道	七七・四〇九	五九・五四三	一・七二〇	一・三三五
咸鏡南道	一〇三・六五〇	六七・三三二	一・四三三	九三二
咸鏡北道	六九・四二二	三二・三三六	〇・九七二	四五二
合計	五七二・四八	七六〇・六一	〇・八三三	一・二〇六

## 第二節 文化に支配さるゝ犯罪

朝鮮に於ける文化の程度に就いては略ぼ説明したが、數多き犯罪中、文化に支配さるゝこと最も多き犯罪としては、文書偽造罪、詐欺罪、殺人罪、傷害罪、猥褻姦淫及重婚罪等を數へることが出来ると思ふ。而して文書偽造罪、詐欺罪などは、文化の進歩し、人智の發達するに伴ひ、他の社會環境の變化、主として生活難と相俟ち、漸次その發生件數を増加して行く傾向がある。その犯罪件數としては大なるものでないが、民心に影響することの著しき思想犯の如きは、文化の進歩、世態の變遷に伴

ひて漸次増加するものである。人心の殺伐・風儀の頽廢に基因する殺人罪、傷害罪、猥褻姦淫及重婚罪の如きは、社會文化の普及と、個人理性の發達に伴つて、當然減少すべき性質のものである。然しながら文化の犯罪に及ぼす影響は、時に他の社會現象に妨げられて、その傾向を明白に示し得ないやうなこともあり、多くの場合、文化の進歩の爲めに、五年や十年で、犯罪現象に著しく直接影響するやうなことは稀れである。犯罪は主として經濟的原因その他の社會環境の力によりて支配さるゝことが大であるから、文化と犯罪の關係は、例へば内地と朝鮮、若くは内地人と朝鮮人、或は朝鮮内の市街地と村落、山地帯と沿海、または併合前と今日といふやうな、相當の距離を隔てた比較に於て觀察せねば、恐らくその根本原因を明かにすることは困難であらう。

文書偽造罪は、文化の發達と人智の進歩によりて次第に増加するもので、大正十年には一千八百五十件であつたものが、爾來年と共に増加の一方で、大正十四年には二千九百六十二件を算するに至つた。詐欺罪も、また文書偽造罪と同じ理由の下に近年著しく激増を來し、大正十年には一萬一千百十五件であつたものが、漸次累進して、大正十四年には實に二萬一千十三件となり、窃盜罪に亞いで件數の多いものである。殺人罪は、概して文化の程度低き地方、若くは人心の殺伐なる地方に多きを例とする。殊に朝鮮に於ては女子の本夫殺の犯罪が多いが、その原因は、主として幼年の男子が年長の

女子を娶る早婚の慣習に基く弊害と認められる。最近の殺人犯罪件数を見るに、大正十年には四百九十八件であつたものが、其後増加して、大正十四年には五百七十四件となつて居る、これを地方的に見ると、大體に於て不逞團の襲來を受くる平安北道に最も多く、遙かに降つて平安南道、黃海道、咸鏡北道といふ順序になつて居り、その最も少きは忠清南道及び京畿道である。傷害罪は、一面より見るときは、人心の粗暴なる地方に多い性質のものであるが、また市街地の遊興機關の多い所にその發生件数の多きを認め、大正十年には九千百十四件であつたものが、その後漸増して、大正十四年には一萬三千三百二十四件に及んで居る。猥褻姦淫及重婚罪は、比較的經濟狀態の發達した地方に多い犯罪であるが、文化の進歩に伴つて漸次その件数を減少しつゝある。尤も最近に於ける趨勢としては大正十年に一千五百三十九件を示して居たものが、同十一年には一千七百七十件、同十二年には一千九百三十七件に漸増したけれども、同十三年には九百十三件に激減し、更に同十四年には九百五十四件となり、一進一退しつゝあるも大體に於て減少の傾向を辿つて居る。

今試みに最近五箇年間に於ける朝鮮の主要犯罪中その文化に左右さるゝこと多き數種の犯罪に就いて年次別及び地方別發生件数を示せば、その消長は即ち左の如くなつて居る。これを見るときは、社會環境としての文化の進歩が、犯罪に及ぼす影響の一斑は略ぼ窺ふことが出來やう。

文書偽造罪

道名	年次				
	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年
京畿道	一九四	一三六	三〇九	三三〇	四六五
忠清北道	六二	四三	七二	七〇	五四
忠清南道	九一	一三三	一三二	一七七	一三九
全羅北道	一六三	一五二	一九〇	二三二	二七五
全羅南道	三三二	一七九	三三一	三九	三三三
慶尙北道	二三八	二四一	二八三	三〇五	三七三
慶尙南道	二七一	三四一	三三四	二八三	三三六
黃海道	一一三	一一一	一一一	一二七	二〇一
平安南道	五九	二二	一一	二六三	一五〇
平安北道	一〇一	一一三	一一二	一五七	一六九
江原道	一一七	一三七	一六九	一七九	二〇九
咸鏡南道	六六	七四	二三九	一四六	一七二
咸鏡北道	五二	六	七一	六八	九五
總計	一八五〇	一九九	二三七六	二六〇六	二九六一

第二章 文化と犯罪の關係

詐 欺 罪

道 名	年 次	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年
京 畿 道		一、二二六	一、六五八	二、三二七	二、七九九	三、〇八一
忠 清 北 道		三、五四	五、三四	四、三一	五、九八	五、四四
忠 清 南 道		七、九	八、二七	九、七〇	一、〇〇九	一、〇九八
全 羅 北 道		一、〇五七	一、三三四	一、三二九	一、四五五	一、七二八
全 羅 南 道		一、五七一	一、五九三	一、八九九	一、八七〇	二、〇五七
慶 尙 北 道		一、五四三	一、七七一	二、〇八八	二、二七三	二、六〇九
慶 尙 南 道		一、九二二	二、〇五八	二、一四九	二、一五五	二、六二七
黃 海 道		五、四	六、九〇	七、〇四	一、〇五九	一、〇五〇
平 安 南 道		七、九	六、三	一、一五二	一、三八四	二、六七八
平 安 北 道		三、四五	五、三〇	七、八五	七、九九	九、五五
江 原 道		五、一八	七、七五	九、三五	一、〇六七	一、二〇一
咸 鏡 南 道		三、八一	四、〇三	五、八四	九、一七	九、二七
咸 鏡 北 道		二、四六	三、〇七	三、一八	四、〇二	五、二六
總 計		一、二、一、二五	一、三、八、六三	一、五、五、五一	一、七、七、八七	二、〇、〇、二三



殺人罪

道名	年次		大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年
	年	次					
京畿道	三	三	三三	四七	四二	三三	二五
忠清北道	三〇	二〇	三〇	二〇	二五	二二	二六
忠清南道	二四	一九	二四	一九	二四	一六	二〇
全羅北道	一八	一七	一八	一七	二八	三三	二七
全羅南道	三八	四二	三六	四二	三六	二八	二五
慶尙北道	四二	四一	四二	四一	一三	六四	七四
慶尙南道	四三	四八	四三	四八	四一	四六	四五
黄海道	六四	四四	六四	四四	四〇	五三	四六
平安南道	三四	三五	三四	三五	五〇	五八	五七
平安北道	八一	九八	八一	九八	一七	一三三	一四一
江原道	三三	三六	三三	三六	三三	二六	二六
咸鏡南道	一六	四七	一六	四七	二九	二四	四〇
咸鏡北道	四三	一七	四三	一七	六	一〇	二〇
總計	四九八	五三三	四九八	五三三	五八〇	五七一	五七四

第二章 文化と犯罪の關係

傷害罪

道名	年				
	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年
京畿道	七八九	八六七	八五五	七九〇	七四九
忠清北道	三三三	三五五	二九七	三二六	二九〇
忠清南道	五九九	六六一	六八九	六〇二	六五三
全羅北道	六四四	六八三	九六八	七六八	九九五
全羅南道	一、二二七	一、二八二	一、四五四	一、三五八	一、六六〇
慶尙北道	一、二二八	一、二四〇	一、四五九	一、五八八	一、六六二
慶尙南道	一、四二四	一、六八〇	一、七七〇	一、九〇九	二、二八八
黄海道	七八八	九六八	九六九	九六四	一、〇九三
平安南道	五三三	六四二	八三四	九二四	一、二〇五
平安北道	四六九	六五五	五八八	六九九	八〇九
江原道	五〇八	五二〇	六八五	六四五	八三三
咸鏡南道	四八〇	五〇九	五五〇	六五二	七五三
咸鏡北道	二八四	二九二	二八九	二八〇	三四四
總計	九、一四	一〇、一五	一、一三	一、一四	一、三三

猥褻、姦淫及重婚の罪

道 次	年				
	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年
京畿道	一六四	一六八	一五一	七八	七〇
忠清北道	八七	七〇	八九	三三	二八
忠清南道	一〇八	一六〇	一七四	五九	五四
全羅北道	一五〇	一八一	二四一	八八	九八
全羅南道	二二三	三三六	一六五	一三九	一四二
慶尙北道	一八八	二〇五	二五五	一〇五	二二七
慶尙南道	二二五	二四六	二四七	一九	一五二
黃海道	八八	一一三	九八	五四	六五
平安南道	一〇四	一四三	一五五	六九	六四
平安北道	六一	八一	八八	五八	六〇
江原道	一一二	一二四	一三三	四六	三五
咸鏡南道	七七	九六	一一一	五三	三八
咸鏡北道	五二	四七	三〇	三三	二二
總計	一五五九	一七七〇	一、九三七	九三三	九五四

第二章

文化と犯罪の關係

一二七

# 여 백

### 第三章 犯罪の年次的消長

犯罪が社會環境に支配さるゝ以上、世相の變化に伴つて犯罪の發生件數に消長あるは當然である。韓國併合以來、朝鮮の社會狀態は、産業、教育、交通等の發達の影響を蒙りて年と共に甚だしき變化を來して居る。殊に最近數年間に於ては、世界大戰後の經濟的波動を受けて物價は騰貴する、慾望は増進する、しかも収入はこれに伴はず、従つて下層階級の生活難は一層加はり、また一方に於ては貧富の懸隔が漸く著しくなりたる等の爲めに、これ等の社會環境の支配を受けて、年々の犯罪發生件數は各地方共にそれぞれ多少の變化を示して居る。今試みに各道の調査に係る、主要犯罪の最近五箇年間に於ける消長を見る爲め、各警察署管内別比較を示せば左の如くなつて居る。

犯罪發生件數五箇年對照表

—各道調査—

大正十年

京畿道

犯罪種別	文書	賭博	強姦	殺人	傷害	強盜	窃盜	詐欺	恐喝	横領
署別	偽造	賭博	淫重婚	殺人	傷害	強盜	窃盜	詐欺	恐喝	横領
昌德宮	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

水	平	安	龍	利	驪	楊	加	抱	漣	楊	廣	仁	龍	西	東	鍾	本
原	澤	城	仁	川	州	平	平	川	川	州	州	川	山	門	門	路	町
四	三	三	二	七	四	二	一	二	六	四	二	九	一	九	九	七七	二三
三	三	二	四	二	七	四	四	五	五	三	三	一	三	四	五	五	三
一	八	四	三	五	五	八	三	二	七	九	三	三	二	六	一	一	六
二	一	二	二	一	二	一	一	一	一	三	一	二	二	一	一	二	二
四	三	三	八	一	四	一	〇	六	二	七	五	七	五	四	三	一	八
一	四	六	六	一	六	五	三	七	二	〇	六	六	一	四	八	五	八
二	六	八	四	三	五	二	一	二	三	七	二	七	五	二	五	一	三
六	三	一	二	三	一	六	三	一	三	九	一	五	七	三	六	三	七
一	一	二	三	二	三	二	一	二	四	三	二	三	一	一	三	四	六
四	三	二	八	一	三	三	五	三	二	四	一	六	三	一	二	一	七

大正十一年

署別	昌德宮	本町	鐘路	東大門	西大門	龍山	仁川	廣州	計	開城	長湍	坡州	江華	金浦	永登浦
犯罪種別															
偽文造書	1	3	3	6	3	4	4	3	194	6	2	5	5	5	4
賭博	1	9	6	5	4	3	3	3	22	3	4	1	3	8	4
淫褻重婚	1	3	1	4	1	8	2	6	24	1	4	3	4	6	5
殺人	1	4	2	3	1	3	1	1	31	2	2	1	1	1	1
傷害	1	9	5	7	5	5	5	1	79	5	3	3	2	1	3
強盜	1	2	1	8	2	9	2	3	24	1	3	7	3	6	5
竊盜	1	2,251	1,670	435	1,481	774	590	19	6,600	2,100	53	38	33	36	1,04
詐欺	1	35	402	15	65	146	131	10	1,236	4	3	4	1	20	20
恐喝	1	7	3	4	1	1	1	1	8	20	1	1	1	1	1
橫領	1	157	168	7	7	9	13	8	78	3	1	6	9	20	7

第三章

犯罪の年次の消長

一三一

計	開城	長湍	坡州	江華	金浦	永浦	水原	平安	龍仁	利川	驪州	楊平	加平	抱川	漣川	楊州	
二二六	二〇	五	四	一	二	五	七	一	六	五	四	一	一	一	六	一〇	二
九三	四九	五四	二八	六二	二六	一八	八二	一八	三三	三四	一四	五	二四	二	一六	四五	三三
一六八	一三	三	四	二	二	二	一〇	四	三	六	三	三	四	三	八	三	四
四七	三	二	一	四	一	一	三	六	一	三	一	二	一	一	五	一	二
八六七	四六	二〇	一五	一四	三三	三〇	五四	一六	七	二	三	二七	二七	二	一五	三三	四二
一四三	七	三	一	一	七	三	一四	一	二	一	六	一	一	一	二	二	七
七五三	二五二	四六	三八	五三	三三	一四五	二六四	六二	五六	六八	一六	五二	三九	一八	五八	二八	一三九
一六八	七二	二六	一四	二	一六	三五	七一	二二	一五	二	一八	二七	二	五	三	三四	七二
六五	七	二	一	二	二	一	一	一	四	一	五	二	一	四	三	五	五
一〇五	三七	七	三	三	七	三	四七	九	八	三	八	三	四	三	二	一六	一九



大正十二年

第三章	驪州	楊平	加平	抱川	漣川	楊州	廣州	仁川	龍山	西大門	東大門	鍾路	本町	昌德宮	署別	犯罪種別
															昌德宮	昌德宮
犯罪の年次的消長	六	五	一	二	一〇	七	一	二	一九	一五	一五	七八	六	一	偽文造書	
	一	三九	三	六	五二	二六	一七	四	三七	二六	七五	一三七	一三七	一	賭博	
	七	三	三	一〇	七	一一	一	八	七	五	七	二二	一七	一	淫猥重婚姦	
	一	一	二	一	三	三	一	二	一	一	四	四	三	一	殺人	
	三	二	九	三	一四	三〇	七	五	二九	三六	五五	九六	九	一	傷害	
	八	六	一	五	四	一〇	八	一六	二	九	三	一四	三	一	強盜	
	九	四〇	二〇	三〇	三六	二二	三〇	八九	九三	一七一	四八七	一五〇	二二二	一	竊盜	
	一三五	一八	二四	二二	三八	六四	一六	三三	一七	八七	一七七	四三	五九〇	一	詐欺	
	二	四	一	二	五	一	二	六	二	三	三	三	一三	一	恐喝	
	一四	三	二〇	六	一四	四四	七	二七	一〇	一四	九	二八	四七	一	橫領	

朝鮮の犯罪と環境

大正十三年

鐘路	本町	昌德宮	署別 犯罪種別	計	開城	長湍	坡州	江華	金浦	永登浦	水原	平澤	安城	龍仁	利川
六四	六四		偽文 造書	三〇九	九	五	七	三	三	七	八	三		二	五
一六二	一六二		賭博	八〇九	二五	四三	七	四九	七	三	三三	二七	一七	二六	二三
八	八		淫褻 重婚 姦	一五一	二	五		二	三	三		八	一	三	七
一	一		殺人	四二		一	二	三			四	三	三	一	二
九三	九三		傷害	八五五	五四	一六	二	九	二八	二九	五	二七	一五	一〇	一〇
一五	一六		強盜	一六四	二二	九	二	二	三	二	四	三	四	七	
二二四六	四一〇九		竊盜	七七九六	二八二	四二	五九	一九	四九	一五五	三七二	七八	六九	九六	九三
五八七	一〇七一		詐欺	二二三七	四六	三三	一〇	二二	一九	三三	六九	三三	五	三三	三三
五	五		恐喝	六	六	三	一	一		一	二		一		五
一七七	四九		橫領	一五五	三七	二	二	一六	一七	三	三三	二五	二	一五	三

一三四

	金	永	水	平	安	龍	利	驪	楊	加	抱	鏈	楊	廣	仁	龍	西	東
		登															大	大
第三章	浦	浦	原	澤	城	仁	川	州	平	平	川	川	州	州	川	山	門	門
犯罪の年次の消長	九	三	七	三	三	六	三	四	六	四	七	二	一六	三	三〇	二	二二	二八
	一	一	三	二八	六九	二八	一六	二	二五	一〇	七	八六	四三	四九	五	一三三	二四	一〇五
	二	四	二	二	二	三	一	一	一	二	六	二	一	二	八	九	一	五
	一	一	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四	二	五	一	一
	一八	三五	三六	一四	一四	一九	六	三七	二七	二七	二六	二	一六	一〇	六	九七	三	三九
	一	二	五	二	七	八	五	二	四	一	九	六	五	一	一六	一四	七	二
	九三	一八五	三五二	一四二	一三三	八九	七二	八八	四二	四七	四三	四〇	一四九	三五	一三五八	一、二五四	四九七	七七
一三五	三四	三八	六四	二五	二七	二二	二四	一四	二二	二〇	二二	二八	一〇六	一五	一五七	二〇九	四七	九七
	二	六	一	一	一	一	一	三	一	六	一	一	一	一	四	八	三	八
	二〇	二八	三六	一四	一四	二〇	二四	二	二二	一七	一〇	一五	三三	四〇	一三三	一六四	七二	七二

朝鮮の犯罪と環境

大正十四年

署別	犯罪種別	偽文 造書	賭博	淫褻 重婚 姦姦	殺人	傷害	強盜	竊盜	詐欺	恐喝	橫領	計	開城	長湍	坡州	江華
本町		九	三三	一九	一	一〇五	五	三八九	六六九	二	五五〇	三三〇	一四	三	二	五
昌德宮		一	一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一
鍾路		九	三三	一四	一	一〇七	三	二五七〇	五五六	三	三三七	二二五	一四	三	二	五
東大門		三九	一九三	三	一	六二	五	八三二	二三八	三	一四一	二二〇	三	三	二	五
西大門		四〇	二六	二	一	三五	一〇	一七八	一六五	五	一一五	二二〇	三	三	二	五
龍山		三三	二四	三	二	四二	九	八九二	三三二	六	二二二	二二〇	三	三	二	五
仁川		三三	二五	二	一	六九	五	一四八六	三七〇	八	二〇五	二二〇	三	三	二	五
廣州		一	四	一	二	一〇	四	三九	七三	一	七〇	二二〇	三	三	二	五
楊州		五〇	六二	一	二	四	一	一六四	一六四	四	二〇	二二〇	三	三	二	五
漣川		二九	九六	一	一	三	二	六七	三九	三	二〇	二二〇	三	三	二	五

一三六

一四六

第三章 犯罪の年次の消長

二、本表中窃盗罪は森林令による窃盗も算入せり。

備考 一、本表中には併合罪も算入せり。

計	開城	長湍	坡州	江華	金浦	永浦	水原	平澤	安城	龍仁	利川	驪州	楊平	加平	抱川
四六五	一〇	一	三	一	七	一	二七	四	四	一	七	一	二	一	四
一、五三三	七	六三	二〇	四一	一	六	一〇	六六	六九	四七	一九	一	二九	一	七
七〇	一	一	一	一	二	三	三	一	一	一	二	二	一	一	七
二五	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一	一	四	一	一	二
七四九	五三	六	四	八	一〇	三	三九	八	三	二	二五	二七	五	五	一八
二四八	九	一	四	五	一	六	七	二	五	九	七	一	四	一	四
一三〇五五	四九一	五五	二五	四三	八二	二四八	二九七	二五	一三二	五四	二二	一〇八	四四	二四	二五
三〇三	九四	二七	八	一九	三五	二四	六四	三	一五	一六	三三	三三	二〇	八	二九
一〇四	三	四	二	三	二	五	二	二	一	一	一	二	一	一	四
二、一六二	五六	一〇	五	六四	七五	三	四二	二	二七	三	二	九	一三	二	三

大正十年

忠清北道

一三八

署別 / 犯罪種別	清州	報恩	沃川	永同	鎮川	槐山	陰城	忠州	堤川	丹陽	計
偽文造書	一四	二	七	八	二	四	五	二	六	二	六二
賭博	二二	二	一四	二六	二	九	五	二	五〇	一四	四三
淫猥姦重婚	一七	六	二	九	五	一	三	五	七	五	八七
殺人	六	二	三	二	二	四	二	五	四	一	三〇
傷害	七一	二	五	三	三	四	三	二	三	八	三三
強盜	七	二	三	一	四	九	一	六	三	一	七
竊盜	二四五	二四	一九	九六	五〇	四九	五九	七九	八	三	七二
詐欺	六四	二〇	四	五八	四	三	一〇	四	三〇	一五	三九
恐喝	五	二	五	二	四	一	一	六	一	二	二八
横領	六一	八	二五	二四	二	二	二	三	二	五	九二

大正十一年

大正十二年

第三章

犯罪の年次の消長

署別	犯罪種別															
	鎮	永	沃	報	濟	計	丹	堤	忠	陰	槐	鎮	永	沃	報	
	川	同	川	恩	州	計	陽	川	州	城	山	川	同	川	恩	
偽文造書	二	〇	五	八	一四	四三	四	一	五	〇	九	一	二	一	五	一
賭博	一	二	一	五	二	八五	二	八	二	三	五	四	四	三	三	
淫猥姦 重婚	五	三	一	四	二	七〇	一	九	七	四	五	四	八	三	二	
殺人	一	五	一	一	四	二〇	二	四	二	一	二	一	一	一	一	
傷害	九	四六	一六	二六	七〇	三五	四	三	四〇	二七	三九	八	四	三	二	
強盜	三	三	五	一	七	三七	三	六	二	三	八	五	一	五	一	
竊盜	七〇	八九	四〇	四五	三六〇	八四七	二四	六	一〇〇	五	七	三	八	七	七〇	五九
詐欺	二六	四八	二〇	二	一五	五三四	八	七	五	六	一七	三	二	三	三	二四
恐喝	一	一	三	一	二	三	四	五	三	三	一	一	一	九	二	
横領	一五	一八	三	七	九七	二〇九	七	一	六	二	一	二	二	九	一	〇





大正十四年

計	七〇	八五	三三	三	三六	四五	一〇四	五九	三	三八七
丹陽	二	三	一	二	九	二	二八	四	二	一五

署別  
犯罪種別

偽文造書  
賭博  
淫褻姦  
殺人  
傷害  
強盜  
竊盜  
詐欺  
恐喝  
橫領

計	五四	二七	二八	二六	二九〇	四四	一一〇	五四四	四四	二五七
丹陽	五	五	四	二	八	二	六一	六五	二	二七
堤川	三	八	三	三	二六	八	五六	五三	一	二〇
忠州	七	九	四	四	四五	四	一〇九	四四	四	三三
陰城	三	二	二	二	一七	四	八一	三四	四	二〇
槐山	四	二	三	一	四	三	五六	三三	二	一七
鎮川	一	三	三	一	一八	三	六四	四三	二	一〇
永同	六	八	三	三	四	七	一四	六三	三	二二
沃川	七	七	一	二	三	三	七三	三〇	一	一七
報恩	一	六	一	二	二	一	五五	四〇	四	九
清州	一〇	三九	五	六	六〇	九	四三	三九	三	八三

大正十年

忠清南道

第三章 犯罪の年次の消長



大正十一年

計	署名														犯罪種別
	天安	溫陽	唐津	瑞山	禮山	洪城	青陽	保寧	舒川	扶餘	江景	大田	鳥致院	公州	
一三	二	八	二	七	一	三	八	一〇	二	五	一〇	一八	四	五	偽文造書
一〇一	一	三	六	四	八	六	五	一	七	三	〇	一四	三	一	賭博
一六〇	四	二	五	一六	七	九	七	八	八	一五	三	二	三	二四	淫猥重婚姦姦
一九	二	二	二	二	一	一	二	一	一	一	二	三	一	一	殺人
六九	四	六	三	四	五	四	四	一	四	四	一三	七	五〇	四	傷害
八三	二	四	七	三	一〇	五	二〇	一	一	三	一	五	七	一四	強盜
一五三六	八	一	五九	四	五四	九七	一〇三	三〇	四九	九八	一九三	三八三	一二四	一六四	竊盜
一四三	八	七	二〇	三三	三八	五一	三八	五八	三三	二二	七四	一〇八	一六六	八三	詐欺
五〇	二	四	七	五	一	四	三	二	二	六	一	二	七	四	恐喝
四八二	二	二〇	二五	二七	四五	四九	一九	二七	二六	四〇	三三	七	三五	三七	橫領

第三章 犯罪の年次的消長

大正十二年

計	署名														犯罪種別
	天安	溫陽	唐津	瑞山	禮山	洪城	青陽	保寧	舒川	扶餘	江景	大田	鳥致院	公州	
一三二	六	二	四	一	八	六	七	三	二	一	五	二	二	九	偽文造書
八七	二	四	一	九	一〇	四	三	十	八	一〇	二	一〇	四	一	賭博
一七四	一	九	五	二	九	一〇	八	七	一〇	二〇	一五	九	二	三	淫猥重婚姦盜
二四	一	一	二	六	一	一	二	一	三	二	一	二	二	四	殺人
六八九	五	三	三	三	五	五	五	三	四	四	九	六	四	五	傷害
六三	三	五	四	四	五	二	五	一	二	六	五	四	三	五	強盜
一七七一	一	六	四	八	八	一〇	九	五	七	二	二	三	二	一	竊盜
九七〇	八	三	二	四	四	三	四	四	一	一	一	一	八	七	詐欺
七	三	四	五	三	六	六	三	一	一	九	三	七	七	九	恐喝
六四四	九	三	二	四	五	二	三	二	七	三	六	一	四	六	横領

大正十三年

計	署名													犯罪種別	
	天 安	溫 陽	唐 津	瑞 山	禮 山	洪 城	青 陽	保 寧	舒 川	扶 餘	江 景	大 田	鳥 致		公 州
二七	一	三	二	〇	四	七	二	〇	二	三	一九	三	三	三	偽文 造書
七	六	二	一	三	三	一	四	三	五	一四	一	一七	一	八	賭博
五九	三	七	四	一	三	六	四	二	一	六	六	四	一	二	淫褻 重婚 姦姦
一六	一	一	一	一	一	一	三	一	三	一	一	一	四	一	殺人
六〇一	四	二六	二六	二九	五	三九	二七	三五	三六	五八	八二	六九	三八	四	傷害
六九	五	八	一	五	一	一	五	一	二	三	二	九	三	一五	強盜
二二三	一八	八七	二八	七二	一〇五	九三	一〇一	三七	九九	二五	三四五	四四三	一五〇	二七〇	竊盜
一〇〇九	八一	四七	二五	六九	五一	四五	四〇	四九	四一	九五	二二	一四七	七〇	二八	詐欺
六三	一	四	一	四	三	五	四	六	三	三	七	五	二	六	恐喝
五六八	五五	二八	一四	三九	三六	二二	三〇	二四	二二	四五	六七	六七	三〇	九〇	橫領

第三章 犯罪の年次の消長

大正十四年

署名	犯罪種別	偽文 造書	賭博	淫猥 重婚 姦姦	殺人	傷害	強盜	竊盜	詐欺	恐喝	横領
公州	鳥致院	二〇	二	六	二	六〇	二	三三二	三三	一〇	八三
大田	田	一	二	八	二	五	三	二〇四	七九	四	三
江景	景	二五	七	三	二	三	三	五九	一四八	六	三
扶餘	餘	一五	七	〇	二	七	三	三七	一五六	一〇	七
舒川	川	二八	〇	二	一	六	九	一四	一〇五	四	五〇
保寧	寧	二一	四	二	一	六	四	九	五三	四	二九
青陽	陽	七	〇	六	一	二五	三	七	四五	三	三
洪城	城	一五	三	五	四	元	二	二四	五二	四	三
禮山	山	一	一	一	一	三	二	九	五九	八	二七
瑞山	山	二	四	二	一	三	二	二五	九四	三	四
唐津	津	七	四	一	四	五	五	二二	五四	四	三
溫陽	陽	二	二	三	一	二七	二	四七	三	一	三
天安	安	七	六	三	一	三	八	一〇四	三四	一	一
天		三九	八五	五四	二〇	六五三	八二	二五五五	一〇九八	三三	五六六

大正十年

全羅北道

署名	犯罪種別		計
	偽文 造書	賭博	
群山	八	一	一六三
全州	二	九	一五〇
鎮安	五	五	一〇
錦山	七	三	一〇
茂朱	五	四	九
長水	八	六	一四
任實	九	七	一六
南原	一〇	一	一一
淳昌	三	一	二六
井邑	一九	三	二二
高敞	二〇	二	二二
苗浦	二	二	二二
金堤	一三	四	一七
裡里	二	三	一〇
計	一六三	六〇	二二三

第三章 犯罪の年次の消長

一四七

大正十一年

朝鮮の犯罪と環境

計	署名															犯罪種別
	里	堤	浦	敏	邑	昌	原	實	水	朱	山	安	州	山	群	
一五二	七	五	二	一	二	三	九	三	九	五	九	三	三〇	一四	偽文造書	
一三三	二	六	一	五	一	三	三	三	五	一	九	七	四二	七	賭博	
一八一	七	〇	九	七	一	〇	三	八	八	九	二	二	三〇	一〇	淫猥重婚姦	
一七	一	一	四	二	五	二	三	一	一	二	一	一	三	三	殺人	
六三	三	三	三	三	三	二	四	一	二	二	五	二	二五	七	傷害	
一三九	〇	六	七	七	一	六	一	二	二	一	五	五	二〇	一	強盜	
二六四	七	七	七	七	二	九	一	六	四	六	七	七	六九	四六	竊盜	
一一四	二	二	六	六	一	六	一	二	二	五	四	三	三〇	九	詐欺	
八	〇	七	五	四	三	七	二	一	五	三	一	七	三	三	恐喝	
七三	九	九	四	四	九	六	四	三	一	三	三	二	一六	九〇	橫領	



大正十二年

署名	犯罪種別		計
	偽文 造書	賭博	
群山	二六	四	三〇
全州	四三	七四	一一七
鎮安	五	一	六
錦山	一〇	六	一六
茂朱	一	六	七
長水	二	一	三
任實	八	一	九
南原	七	七	一四
淳昌	五	一	六
井邑	二四	四	二八
高敞	一七	九	二六
富浦	二〇	六	二六
金堤	一八	一	一九
裡里	五	九	一四
計	一九〇	二九	二一九

淫猥姦  
重婚  
殺人  
傷害  
強盜  
竊盜  
詐欺  
恐喝  
橫領

第三章 犯罪の年次の消長

大正十三年

朝鮮の犯罪と環境

計	署名														犯罪種別
	裡	金	苗	高	井	淳	南	任	長	茂	錦	鎮	全	群	
	里	堤	浦	敏	邑	昌	原	實	水	朱	山	安	州	山	
二二二	三三	一七	二六	一七	三〇	八	五	二二	八	一	四	二	三〇	一九	偽文 造書
九	三	一	七	五	九	二	三	四	三	四	七	二	三四	七	賭博
八八	一四	七	八	三	三	五	二	四	二	一	二	六	一五	一六	淫猥 重婚 姦姦
三	一	一	二	一	四	一	一	一	一	五	一	五	五	七	殺人
七六八	九二	六一	四八	三三	六六	三四	三三	一四	一九	二五	四〇	三三	二六	一五六	傷害
一五二	一〇	一五	七	八	二四	一	一八	一八	五	五	三	四	二六	七	強盜
三九八一	四〇一	三三四	一七三	二三三	四〇七	一四七	一五九	九八	二八	四	一〇六	九一	八二四	九九九	竊盜
一四五五	二六	九八	一〇〇	一〇七	一八一	五九	六四	四七	三六	四	五二	四八	三〇一	一九三	詐欺
八〇	二	四	五	四	二〇	一	三	一	五	二	六	一四	六	九	恐喝
七八八	六六	六五	五〇	五一	九二	三九	二〇	二六	二六	一五	四二	二四	一五〇	一三〇	横領



大正十年

全羅南道

署名	犯罪種別	偽文 造書	賭博	猥褻 重婚	殺人	傷害	強盜	竊盜	詐欺	恐喝	橫領
木浦	州	四九	三五	二三	二	一四二	二八	四五二	一八〇	八	一三九
光州	州	八	五四	一五	二	一〇一	三三	三四六	一五五	三	五
潭陽	州	四三	三〇	三	三	三九	五	一〇八	八五	七	四六
谷城	州	四	一五	五	四	一八	五	四二	三九	五	二五
求禮	州	三	一一	四	一	三	五	五五	三六	五	二〇
光陽	州	一	一五	四	一	三	七	五七	八一	四	二八
麗水	州	三	二	五	三	四	三	八七	七七	一	三六
順天	州	七	四	六	一	三七	二	二四	九〇	三	三六
高興	州	一	三	七	一	二九	二	七	七	二	一四
高城	州	一五	四	五	一	四九	二	七〇	五八	一	四
和順	州	一五	四	三	二	六	一〇	一三七	一六	一	四
長興	州	一四	七	四	一	四九	一四	一〇三	四九	二	四
康津	州	一九	二八	四	一	六五	三	六五	七四	二	四八
海南	州	一五	三七	四	一	四	二	七八	七七	二	三
靈岩	州	一	一九	二	一	二五	三	六四	一七	一	九

大正十一年

署名	犯罪種別	偽文造書	賭博	淫猥姦姦重婚	殺人	傷害	強盜	竊盜	詐欺	恐嚇	橫領
麗水		五	三三	一〇	五	五一	四	二七	一九	二	四〇
光陽		二	四〇	四	二	三六	一	六二	四九	一	二〇
求禮		一	一七	三	一	二五	一	五	三	一	二八
谷城		一	二七	二	一	三三	五	七八	四八	二	四二
潭陽		二	四五	六	二	三八	一	九	七〇	八	三八
光州		二	四二	三	二	一九	三	四九	二五七	三	一〇七
木浦		八	一〇八	一六	八	一七六	七	五四	二二〇	二	一三二
計		三三	六六一	二三	三八	二二七	二五二	二六八六	一五七一	八八	八九六
濟州島		一三	九八	二	一	一三	一	一七	六	九	三六
珍島		一四	三〇	一	一	二	一	五九	三	一	一九
莞島		三	一七	二	一	三	一	二九	七	一	二五
長城		三九	三九	七	二	三六	六	二七	八六	七	四七
靈光		一四	一九	五	三	三九	三	一〇	七一	五	五五
咸平		一三	五五	四	三	四二	六	一九	五三	二	三七
羅州		二八	一七	八	三	八	六	一六	一四	八	五七

第三章

犯罪の年次の消長

一五三

朝鮮の犯罪と環境

計	濟州	珍島	莞島	長城	靈光	咸平	羅州	靈岩	海南	康津	長興	和順	寶城	高興	順天
一七九	五	一六	五	一九	一五	二二	二三	九	三三	九	六	一	二	二	三
一〇四〇	九〇	三六	二六	四六	四	八二	五五	五七	二六	四二	七三	八〇	二	二〇	六〇
三三	九	三	五	三	三	四	二	五	四	三	四	八	五	五	九
四	一	一	三	一	三	二	四	一	一	一	一	一	二	二	三
一、二八二	一五四	二七	一五	四八	三九	五五	八四	二八	二四	四二	三九	五七	四〇	二五	四七
一〇二	一	二	一	八	四	二	一七	六	一	一	一	五	九	四	三
三〇四九	一九四	六三	四七	二五	一〇六	九九	二四	六九	七三	一〇九	六五	一〇八	八一	六八	一六四
一、五九三	五五	三四	二七	八一	五一	九三	一四〇	一七	二九	七〇	二八	八一	五三	二〇	七五
七二	七	七	一	五	一	七	二	三	二	五	一	六	一	一	六
八五	二八	一八	二二	五九	三九	四	六〇	五	三三	三八	一四	五五	一七	八	四七

一五四

大正十二年

署名	犯罪種別	偽文 造書	賭博	淫猥 重婚 姦姦	殺人	傷害	強盜	竊盜	詐欺	恐嚇	橫領
木浦		二八	一八六	一五	五	二〇	四	五六二	二二二	九	一四三
光州		四七	六五	一八	四	一七	一七	五八	三五六	八	一四八
潭陽		二〇	八〇	五	一	三	四	一七	六九	三	四五
谷城		五	五八	五	一	二九	四	五八	六〇	七	四二
求禮		二	五〇	三	一	一七	一	六九	二〇	一	二二
光陽		一四	五〇	六	一	三三	四	六五	四六	二	三三
麗水		二〇	五〇	四	一	三	二	一六	八九	四	三五
順天		二	三六	一	三	四	三	九	四	一三	四三
高興		八	三四	六	一	三	一	三	五七	三	一八
寶城		二六	三八	八	二	三九	一	七	六	二	三三
和順		一八	九	四	二	四	三	一五	七	五	三八
長興		五	四五	五	一	四	一	九三	五〇	五	三
康津		九	四二	七	一	七	一	一五	七	四	四八
海南		一七	五三	八	一	三	一	五	六〇	一	一七
靈岩		一六	七九	九	一	三	一	四	三八	二	三五

第三章 犯罪の年次の消長

一五五

朝鮮の犯罪と環境

一五六

大正十三年

署名	犯罪種別	偽文 造書	賭博	淫猥 姦姦 重婚	殺人	傷害	強盜	竊盜	詐欺	恐喝	橫領	計
羅州		二五	六	一五	五	九九	三	一九〇	一七一	八	四八	
咸平		一〇	七七	九	三	三九	二	一〇九	六	二	三	
靈光		一八	六九	三	二	四〇	四	一三五	七五	三	四八	
長城		一五	四二	二	一	四九	一	一三二	八七	三	六〇	
莞島		三	二	五	一	二七	三	三九	二	一	三	
珍島		二	六八	四	一	二六	一	七二	三八	二	一五	
濟州島		三	九八	三	一	二四八	一	一九	八五	二	五三	
計		三三二	一三九二	一六五	三四	一四五四	五九	三〇五八	一八九九	一〇八	九八七	
木浦		二七	六	一七	一	一八九	六	八〇三	二五二	四	一四五	
光州		四五	七四	一九	二	一四九	九	六九三	三〇三	八	一四〇	
潭陽		三〇	五七	五	一	三六	五	一八一	八九	五	五三	
谷城		六	四九	五	一	三三	二	一四三	五四	一	二五	
求禮		二	五四	六	一	二二	三	五二	二二	三	二〇	
光陽		三	二八	四	二	二七	一	三六	一六	三	二二	



第三章 犯罪の年次の消長

計	濟州	珍島	莞島	長城	靈光	咸平	羅州	靈岩	海南	康津	長興	和順	寶城	高興	順天	麗水
三五	二二	八	七	二六	八	一六	三三	二〇	一	二	六	二	三	八	七	二〇
一二七	七〇	二〇	七	五九	五六	三三	五八	二二	八九	四	三	七	五	四	四	四
二九	一〇	一	二	五	五	五	八	三	三	三	四	八	五	四	三	四
二八	一	一	二	二	一	二	二	一	一	一	一	四	一	一	一	四
一三五八	一四二	二八	二五	四〇	五五	三三	九五	四	三八	五七	三四	四〇	四	六九	六八	一〇一
六六	一	一	二	八	一	二	八	二	二	一	一	三	五	二	二	一
三六五	九八	三	五	一五	一六	七五	二八	六	九七	一四	一〇六	一三	七	七	二	二五
一八七〇	九	二六	三六	一〇四	八八	三九	一四八	五	四	九	九	六	九	七	九	七
七四	五	三	一	六	三	四	四	三	一	三	九	三	六	一	一	一
九六五	四八	一五	三七	四三	五	一四	六	三	三八	三	一九	四	三	三	四	二八

大正十四年

署名	犯罪種別	偽文 造書	賭博	淫猥 重婚 姦姦	殺人	傷害	強盜	竊盜	詐欺	恐喝	横領
海康	南津	四	八四	二	一	六九	三	五九	五二	二	二八
長興	興順	六	二二	八	一	六三	四	二七	六	四	二八
和順	順城	二〇	一四	四	二	五八	二	八三	六	一	三三
寶興	興城	三	二二	七	二	五五	七	八五	七	六	二六
高天	天興	一	一〇	三	一	六四	一	九六	七	八	四一
麗水	水天	七	七	五	一	五三	三	八四	五	二	三六
光陽	陽水	二	九	六	二	一九	一	二四	九	九	三七
求禮	禮陽	五	五	二	一	三三	二	五二	七	三	五八
谷城	城禮	八	二	三	一	一九	一	五八	九	二	二六
潭陽	陽城	一九	八	三	二	三三	二	七八	一	一	二四
光州	州陽	二八	一八	五	一	四	四	一七五	八	四	四二
木浦	浦州	四	二七	一九	一	二五	八	七七	二八〇	一〇	一九
		一七	二五	二	二	二七三	五	八四	三〇七	七	一五

# 大正十年

## 慶尚北道

署別	犯罪種別		計	濟州	珍島	莞島	長城	靈光	咸平	羅州	靈岩
	盈浦	慶州									
盈浦	德項	慶州	三三三	一三	五	六	三三	三三	二二	三五	一四
慶州	永川	慶山	一八六二	六五	三三	二二	七六	一〇一	三四	二二	三八
大邱	大邱	大邱	一四二	七	四	四	〇	五	四	二	四
署別	盈浦	慶州	二五	三	一	二	一	一	一	一	一
犯罪種別	盈浦	慶州	一六六〇	一三	二八	三〇	四	七	四	二八	八七
偽文造書	盈浦	慶州	六	一	一	一	二	三	三	三	一
賭博	盈浦	慶州	三六八五	一四	二〇	七	三三	二九	七	二五	八〇
淫褻姦淫重婚	盈浦	慶州	二〇五七	九	三五	三三	一一	二九	六	一七〇	六二
殺人	盈浦	慶州	一〇二	二	二	一	七	三	一	六	二〇
傷害	盈浦	慶州	一六〇	七〇	二六	三六	五	三五	八	四	二八
強盜	盈浦	慶州	一五九	一八	一〇八	一三	三四	三九	三	三	三
竊盜	盈浦	慶州	一五九	一八	一〇八	一三	三四	三九	三	三	三
詐欺	盈浦	慶州	一五九	一八	一〇八	一三	三四	三九	三	三	三
恐喝	盈浦	慶州	一五九	一八	一〇八	一三	三四	三九	三	三	三
橫領	盈浦	慶州	一五九	一八	一〇八	一三	三四	三九	三	三	三

### 第三章

#### 犯罪の年次の消長

一五九

朝鮮の犯罪と環境

計	鬱陵	善島	清道	高靈	星州	開慶	奉化	榮州	醴泉	尙州	金泉	倭館	軍威	義城	安東	青松	英陽	
三八	一	四	一	八	七	二	四	七	二	八	六	一	五	一	二	三	一	六
一三六	八	三	三	二	七	二	四	五	二	二	四	三	二	三	九	七	一	七
一八	一	一	四	七	九	八	一	三	三	二	六	七	三	八	一	七	三	一
四	一	一	五	一	二	一	一	二	三	一	三	二	一	二	二	二	一	一
一三	二	二	五	三	二	二	三	二	三	一	四	二	二	四	五	一	二	二
一四	一	一	八	一	六	七	七	五	一	四	二	一	一	五	九	一	一	四
二九	八	一	五	三	三	四	六	五	三	二	二	二	三	五	一	三	二	三
一五	二	一	五	四	三	七	九	七	三	二	一	四	九	四	七	四	一	六
二	一	一	二	六	五	三	二	五	二	五	八	一	一	四	三	三	一	一
九	二	四	一	二	八	二	二	九	九	九	八	三	九	三	四	七	二	四

大正十一年

署別	犯罪種別										
	偽文 造書	賭博	淫猥 姦姦 重婚	殺人	傷害	強盜	竊盜	詐欺	恐嚇	橫領	
大邱	四六	一七	三〇	三	三九	一〇	一五六	三九〇	二	二七	
慶山	一	五八	五	二	四七	二	一〇三	三六	一	一〇	
永川	三	八五	八	一	三	五	一〇〇	三八	五	二六	
慶州	七	八九	一〇	一	九七	二	二〇九	一四七	一〇	四五	
浦項	九	一五二	一四	五	二二	四	一七九	二〇	四	四八	
盈德	三	三四	七	二	一五	四	三四	四〇	二	三三	
英陽	一	二三	一	一	七	二	三四	一八	二	二	
青松	九	九三	四	一	一九	五	四六	三九	三	八	
安東	一三	九八	九	四	五	一〇	一四七	八九	八	四	
義城	四	四七	九	一	三	三	七五	四	九	三	
軍威	四	四〇	六	一	三	一	一九	三三	一	六	
倭館	九	六六	四	一	四	二	二〇	四	一	三	
金泉	二	六九	二〇	二	七	二	二四三	二七	一	七	

第三章

犯罪の年次の消長

一六一

朝鮮の犯罪と環境

一六一

大正十二年

署別	犯罪種別	計	鬱陵島	善山	清道	高靈	星州	開慶	奉化	榮州	醴泉	尙州
慶山	偽文造書	二四二	四	一五	五	七	九	二四	二	二七	三	五
大邱	賭博	一七三	二	五九	六	二七	五	八〇	四	四九	一	一五
慶山	淫褻姦重婚	二〇五	一	九	九	二	二	四	六	二	八	一七
大邱	殺人	四二	一	二	六	二	一	二	一	二	三	一
慶山	傷害	二四〇	一	四	五	三〇	三	二七	三九	一八	三	七
大邱	強盜	二六	一	五	一	一	一	〇	七	三	七	〇
慶山	竊盜	三三〇	三	三	六	一七	二六	四	五	七	三	一六
大邱	詐欺	一七七一	六	三	五	二	二七	一四	五	四	二	一四〇
慶山	恐喝	一〇四	一	九	四	三	三	三	六	一六	二	〇
大邱	横領	九二	四	三	二	三	一	三	〇	二	一	一〇

	高	星	開	奉	榮	醴	尙	金	倭	軍	義	安	青	英	盈	浦	慶	永
第三章	靈	州	慶	化	州	泉	州	泉	館	威	城	東	松	陽	德	項	州	川
犯罪の年次の消長	五	九	二二	七	二	二	六	三四	七	三	二	一五	一五	三	二	一〇	一五	六
	三五	五五	一〇七	三五	八〇	四七	一八九	七六	六七	八三	九五	一六七	七七	二八	七〇	一七三	一四六	一五〇
	五	六	五	八	三	〇	二	〇	二	三	三	二〇	二	〇	一	三	八	二
	一	一	三	一	一	一	八	一	四	一	七	四	二	二	一	五	三	一
	二五	二七	二八	二五	三五	三三	一二三	一五	五七	四〇	五一	七	二四	二六	三八	一三四	二六	四九
	一	三	四〇	一	一〇	三	三	八	一	一	三	二	一	三	六	〇	三	
	一三	二五	一〇四	五一	九四	三三	八九	三六	一五	二五	五七	一六〇	三四	四一	一〇〇	一〇一	二二六	一三三
一六三	二七	三三	八九	四〇	三五	六〇	一四七	二六三	五二	三三	五八	一四四	八〇	三四	一五	一八	一八九	三三
	一	二	四	一	六	一	七	三	二	二	六	一七	五	三	一	一	一八	七
	六	一五	三二	一五	一三	三五	一〇七	一三四	三一	一四	四四	七七	一九	三三	一九	七四	九四	二四

朝鮮の犯罪と環境

大正十三年

署別	犯罪種別	偽文 造書	賭博	淫褻 重婚 姦姦	殺人	傷害	強盜	窃盜	詐欺	恐喝	横領	計
蔚山	道	三	五〇	五	六	六〇	三	八七	六四	三	一六	一六四
善山	山	八	五七	七	二	四七	二	二八	三一	三	二	一〇
鬱陵島	島	一	一〇	一	一	二	一	五	五	一	四	四
計		二八三	二〇九	二五五	一二二	一四九	一九九	四〇一	二〇八	一二二	二〇六	
大邱	邱	二二	二八三	二二	五	二八三	二四	一九九	四六	一四	二四	
慶山	山	五	五六	三	三	五一	三	一〇五	四二	一	二	
永川	川	九	一七六	六	三	五〇	五	九七	七七	九	三	
慶州	州	一五	一七八	九	四	一四一	一九	一三二	一七五	五	九	
浦項	項	二六	二七四	一〇	四	一〇六	一〇	一七一	一九	八	六	
盈德	德	三	二二	一	七	六五	一	七四	二九	四	三	
英陽	陽	四	三五	一	一	一六	一	七三	五二	一	四	
青松	松	六	七	一	四	二二	一	五二	八七	三	二	
安東	東	一四	一八四	一	一	九六	一	二九	二〇	九	八	
義城	城	一七	八三	六	三	六七	一	六一	六三	八	三	
軍威	威	二三	七五	二	一	三五	二	三四	二三	二	三	





高	星	開	奉	榮	醴	尙	金	倭	軍	義	安	青	英	盈	浦	慶	永
靈	州	慶	化	州	泉	州	泉	館	威	城	東	松	陽	德	項	州	川
九	二	一	六	九	二	一	一	四	一	八	二	一	六	三	二	九	
六	一	七	一	一	二	二	一	九	八	九	一	二	一	一	一	一	
七	三	四	五	一	二	二	五	二	二	一	一	三	四	一	九	八	
一	二	二	二	一	七	五	九	二	四	三	一	三	二	一	一	三	
三	三	六	八	四	六	七	一	一	一	九	三	七	三	二	二	五	
四	九	三	三	二	四	一	七	二	一	一	一	二	一	三	二	三	
三	八	一	五	一	二	二	三	一	四	五	二	二	一	二	一	一	
四	一	五	一	七	一	一	五	四	三	六	二	二	四	一	一	一	
三	九	五	一	二	六	六	三	四	二	一	一	一	一	六	三	一	
七	三	三	五	四	七	六	九	四	八	三	八	五	四	一	八	三	

大正十年

慶尚南道

署別	犯罪種別	大正十年									
		偽文造書	賭博	猥褻姦淫重婚	殺人	傷害	強盜	竊盜	詐欺	恐嚇	橫領
計		三七三	三六八	二七	七四	一六六二	二六	四九八八	二六〇九	二七	一三八八
清道		三	八九	四	二	三六	三	六五	四三	三	二
善山		三三	六四	三	四	三四	三	五	三三	四	二七
鬱陵島		一	六	一	一	二	一	九	八	二	四
釜山		一四	三三	一三	五	一九三	九	一三九	一三三	一五	二五
釜山水上		九	一	一	一	九	一	三五	三	一	三
馬山		二三	一〇	一三	一	一〇七	五	二八〇	一三二	三	四二
晉州		二八	一六	一五	一	一五	一三	二三八	一五二	八	六八
宜寧		九	一	六	一	四〇	一	一三	七	二	三六
咸安		六	六	六	二	三三	六	三	四	二	一五
昌寧		三三	一三	一〇	二	三七	八	八〇	八九	八	四三
密陽		三	一六	二	二	一〇六	一三	一六〇	八四	八	四
梁山		二	二	九	三	二七	二	七四	二七	一	一五
蔚山		二三	六	一五	五	七	二	一九〇	一六三	三	一七三
東萊		二	一六	二	二	八五	八	一五六	一六〇	三	六一

第三章 犯罪の年次の消長

一六七



山 河 南 泗 巨 統 固 鎮 金 東 蔚 梁 密 昌 咸 宜 晉 馬

清 東 海 川 濟 營 城 海 海 萊 山 山 陽 寧 安 寧 州 山

第三章

犯罪の年次の消長

九	一五	四	二	三	三	九	六	〇	一四	二五	三	二二	二七	二	三	三	四
二〇	二四	三	二	四	二〇	八	五	一	一七	二二	九	三〇	一〇	四	一	二五	四
八	一六	二〇	二	八	九	五	七	七	九	一五	一	九	七	三	三	二	一五
四	二	一	一	一	二	一	一	三	一	四	一	四	一	一	一	五	一
四五	七五	六二	五八	五九	七三	五六	七四	八四	六三	七	二五	二二	三八	三三	四九	九五	一三
三	三	一	一	一	六	一	一	四	五	三	四	五	一	五	一	三	三
六六	九六	五二	七〇	六五	一〇七	九四	七〇	一二	九五	一八一	五二	二九	七二	三五	一二	二〇七	二〇
一六九	五八	八七	二六	五九	五五	五七	七五	三七	六〇	一七	一九	一〇	五一	三九	六九	二三五	一一
二	八	三	七	四	一	四	一	一	二	四	一	五	五	二	三	一〇	五
四〇	三八	三二	二〇	一六	三五	四〇	二五	三三	三七	四九	一七	六五	五四	二二	六〇	八〇	五二

朝鮮の犯罪と環境

一七〇

大正十二年

署別	犯罪種別	計	陝川	居昌	咸陽
釜山	偽文造書	三三一	一三	二〇	一三
釜山水上	賭博	二八	九	一五	五
馬山	淫褻姦及重婚	四	六	二	六
晉州	殺人	一	二	一	五
宜寧	傷害	一六	一六〇	三四	三四
咸安	強盜	一	九	三	二
昌寧	竊盜	一	三	三	二
密陽	詐欺	一	三六九	二〇五	一七〇
樂山	恐喝	一	八	四	六
蔚山	橫領	一	八	四	五
東萊		一〇	二	七	六
計		三三一	三六一	二四六	一七〇



山 河 南 泗 巨 統 固 鎮 金 東 蔚 梁 密 昌 咸 宜 晋 馬

清 東 海 川 濟 營 城 海 海 萊 山 山 陽 寧 安 寧 州 山

九 六 七 一〇 一四 二 一四 二 一三 四 一九 二 一五 一五 一 六 一七 二四

一七 二七 一七 一〇 四 二 二 三 六 一〇 二 七 一六 三 五 六 一三 八

四 九 六 六 三 一 二 三 五 三 一四 二 八 一 二 二 八 六

三 三 三 一 一 一 四 一 一 一 一 三 一 三 一 三 二

六 八 二六 八 五 七 四〇 七 一三 八 三三 二九 一〇 五四 三三 五二 一三七 一五二

四 九 二 三 一 三 一 五 五 四 一 一 三 一 二 四 八 三

一〇三 一三三 三四 八〇 五四 一四二 六四 七二 一三六 一〇五 一七一 六二 一八四 六八 四二 四三 四三二 四〇七

八 八 三 三 五 七 三 二 六 八 一三九 三三 一五 五七 四三 四〇 二八 六

二 二 二 七 一 一 三 一 二 一 三 一 二 三 一 三 二 一

三〇 六二 三三 三五 二四 三五 二五 三三 二四 六九 七一 二九 三四 三三 二二 三三 六六 六



大正十四年

第三章 犯罪の年次の消長	署別 / 犯罪種別											計	陝川	居昌	咸陽						
	東萊	蔚山	梁山	密陽	昌寧	咸安	宜寧	晉州	馬山	釜山水上	釜山					偽文造書	賭博	淫猥姦重婚	殺人	傷害	強盜
	一四	四	六	二七	六	四	八	二	三〇	一	五	二八三	一〇	三	一四						
	六	三	九	二二	二	二〇	二	二四	四	四	七	二五〇	九	五	八						
	八	六	二	一〇	四	一	四	一〇	五	一	二	二九	五	八	二						
	一	二	二	一	四	四	一	二	一	一	四	四	一	四	一	四					
	八五	二〇	三九	一五	五	三	五	一六	一九	一〇	五	一九〇	九	四	三	三六					
	五	一六	三	三	一	三	一	二	一	一〇	一〇	九	二	四	二						
	二〇	一九	八〇	一三九	六〇	二八	三四	三六	二九	八九	一七五	四四	九	八	八						
一七三	二九	二五	四七	二六	四七	三	四	一四	九	三	九六	二一五	五	六〇	七						
	二	六	一	三	二	一	二	八	二	一	七	五	五	四	一						
	四〇	五四	一五	五二	二六	二五	一六	七	六	四	二	二七	六	三	二						

大正十年

黄海道

延 海 署 別	白 州 犯 罪 種 別	計	陝 川	居 昌	咸 陽	山 清	河 東	南 海	泗 川	巨 濟	統 營	固 城	鎮 海	金 海
二	二六	三六	三三	二二	一四	一四	一八	一	六	七	一五	五	三	二
九	二八	三二	三三	八	三	二〇	二	八	二	二	八	一	三	三
九	一〇	一五	五	四	四	一五	八	六	五	四	七	三	七	六
一	三	四	三	一	一	二	二	一	二	一	二	四	一	五
二四	九	二三八	八七	三〇	四八	六二	八二	四〇	二六	三	二四	五四	一〇三	三二
二四	四三	八三	三	二	一	一	七	一	一	一	一	四	二	七
四八	一九二	四四三	二二	八五	二七	九	二三	二五	二二	六	一六九	七二	九二	一八二
三〇	八六	二六七	九五	七五	四七	五八	八七	三二	五八	五	一〇四	五五	六	一三八
三	一〇	八	八	八	四	七	四	六	一	一	一	三	六	四
二四	二九	二三一	三三	三三	四	三六	五八	一〇	二六	三	七〇	一九	三一	五

第三章 犯罪の年次の消長

計	谷山	逢安	瑞興	沙院	兼浦	黄州	載寧	信川	安岳	長連	松禾	長淵	瓮津	新溪	南川	金川
一三	一	四	八	八	四	一	三	二	五	九	六	五	三	一	六	三
九七	五	七	七	五	二	三	六	八	九	五	二	四	七	一	五	四
八	一	四	五	三	四	三	三	五	七	三	三	三	二	一	四	一
六四	四	一	三	七	九	一	四	四	二	四	二	四	一	二	一	四
七八	三	一	五	八	五	四	四	九	五	三	二	五	一	五	三	一
四〇	一	五	七	三	一	三	七	五	四	七	三	三	一	四	三	二
一三五	七	二	八	五	七	三	八	九	四	三	五	四	四	二	三	四
一七五	五	六	二	四	八	二	六	三	三	二	一	七	一	四	五	四
五五	一	一	六	三	一	二	八	五	三	三	二	三	一	一	二	三
一九八	一	一	四	六	六	六	七	一	三	七	一	二	八	六	八	三

大正十一年

署別	犯罪種別	偽文 造書	賭博	淫褻 重婚	殺人	傷害	強盜	竊盜	詐欺	恐喝	横領
海州		一九	一九〇	八	五	八〇	二六	一四	八二	三	三七
延白		四	二四三	四	三	二七	一〇	三八	三	三	二〇
金川		四	五	四	一	八	八	四	三	一	八
南川		二	七四	四	二	四八	二七	七四	二五	四	三
新溪		一	一〇〇	三	三	三	一	二〇	二	三	七
瓮津		一四	二七	四	一	三	一五	三	二	一	七
長淵		三	一三四	九	二	四	八	三	二	五	四
松禾		三	一三八	二	一	七	二	二	三	六	三
長連		三	一七	六	一	三	二	二	三	二	二
安岳		三	一七	二	一	三	二	一	三	二	二
信川		三	二九	七	二	四	三	九	五	五	二
載寧		五	八	八	二	五〇	三	一五	三	五	二
黄州		一〇	一八	八	二	九	二〇	一〇	一三	六	五
兼浦		四	五	八	二	五	一〇	八	一	一	六
兼二		六	三	八	二	八	一〇	一〇	五	一	三
沙里院		八	九	一	三	二〇	三〇	一六	七	五	四

大正十二年

署別	信川	安岳	長連	松禾	長淵	瓮津	新溪	南川	金川	延白	海州	計	谷山	遂安	瑞興
犯罪種別															
偽文造書	九	七	四	四	五	九	三	三	二	九	一九	一一	二	四	七
賭博	一〇六	六六	五一	一〇八	一四二	九二	二〇	一四	三〇	一四九	一一	二二六	六四	八八	一三三
淫猥重婚	一	五	二	五	四	七	一	一	一	八	一〇	一三	六	九	八
殺人	二	三	三	三	二	一	一	二	一	一	四	四	四	五	四
傷害	六	三〇	二	一五	四二	三九	三〇	三八	九	五八	一三	九六	四	七	六
強盜	二	四九	一	五	五	九	六	二四	四	九	三	二五六	四	五	二
竊盜	一四三	七四	二	三九	五九	三	三三	四八	一九	九二	二七	一四九四	一九	五五	八三
詐欺	六四	一七	三	一九	三三	三	一〇	三三	一四	四三	一九	六九〇	一五	二六	四二
恐喝	二	五	四	三	四	一	二	二	二	一	八	七五	一	四	三
橫領	四〇	四五	九	二七	二六	一七	二	一四	八	四	五八	四五	一〇	二九	三五

第三章

犯罪の年次の消長

朝鮮の犯罪と環境

一七八

大正十三年

署別	犯罪種別	偽文 造書	賭博	淫猥 重婚 姦姦	殺人	傷害	強盜	竊盜	詐欺	恐喝	橫領	計
長淵	兇津	二	一三四	三	二	三六	八	七九	二元	二	二元	二二
新溪	南川	四	二八六	一	三	三三	三	四六	四一	四	二四	一七〇
金川	延白	四	二九二	二	四	四四	五	三七	二四	一	二〇	一七〇
海州	署別	三	一五七	八	四	二八	五二	二八七	二〇	五	六五	一七〇
戴寧	州寧	五	一四八	一〇	一	六六	一九	一九八	五	七	五	一七〇
黄州	兼二浦	七	五四	五	三	七	三	九五	五	三	二四	一七〇
沙里院	瑞興	一	七六	八	二	七	一	一六四	九	一	五三	一七〇
遂安	谷山	三	八五	二六	四	六	二五	一八四	九	二	三三	一七〇
計		一二	一七〇四	九	四〇	九五	一五五	一六三九	七四	六	五四	一七〇

大正十四年

署別	犯罪種別	計	谷山	逢安	瑞興	沙里院	兼二浦	黃州	載寧	信川	安岳	長連	松禾
金川	偽文造書	二七	八	五	九	三	一六	七	九	四	五	二	六
延白	賭博	二九〇四	五七	八〇	二八	一五九	六七	六三	一八〇	二七	七三	五三	一一
海州	淫猥姦姦	五四	二	一	二	三	四	八	七	六	二	一	一
	殺人	五三	一	一	二	四	六	五	一	五	一	四	三
	傷害	九六四	四〇	四二	三五	六九	八四	九七	一〇七	八五	四八	二	二六
	強盜	二四六	七	八	三	二	一	三	七	一九	三三	一	五
	竊盜	二二三二	四	七	一〇七	二六	二〇四	一五八	三〇四	一七四	二六	三五	五七
	詐欺	一〇五九	二五	一九	六四	五〇	二六	四二	八九	七二	一六六	一九	三九
	恐喝	五二	二	一	五	四	一	二	五	五	三	四	四
	橫領	五〇〇	一一	一六	三三	二七	五〇	四〇	四七	三三	一六	一一	二四

第三章 犯罪の年次の消長

大正十年

計	谷山	途安	瑞興	沙里院	兼浦	黄州	載寧	信川	安岳	長連	松禾	長淵	瓮津	新溪	南川	朝鮮の犯罪と環境
二〇二	八	七	九	二二	二二	五	一九	二九	二	一	八	九	六	四	四	
二二五	八一	三八	二七	二二	二二	二二	二七	二五	九	五	八〇	二二	二二	七	四七	
六五	五	三	一	六	八	〇	五	六	七	一	一	一	一	二	四	
四六	二	三	二	六	二	四	二	五	二	一	二	三	一	二	二	
一〇五	四九	二二	六	八	九	一〇	二二	九	六	二	三	四	四	二	五	
二四四	八	九	一六	三	一	五	一六	二九	一七	四	九	七	九	二	二〇	
二四八	二	六	四	一〇	二	一	二	二〇	一	三	四	七	四	四	二	
一〇五〇	三〇	一六	三〇	九〇	二七	五	七	二二	一〇	七	八	二	三	五	五	一八〇
七五	四	四	三	三	五	八	四	一〇	四	一	三	三	五	一	三	
七〇〇	三	〇	二	七	二	四	五	八	九	二	〇	五	八	九	九	

平安南道



第三章	遠	川	川	州	原	西	岡	和	東	川	德	山	順	大	鎮	平	署別 / 犯罪種別		
																	南	壤	
犯罪の年次の消長	三	一	六	九	五	五	一	一	一	一	三	一	三	一	八	一四	偽文 造書		
	一〇	六	八	五	七	三	二	一九	三	〇	五	五	一	二	四	一〇	賭博		
	一	二	五	一	二	七	五	二	五	五	四	六	六	六	六	四一	淫猥 重婚 姦		
	一	三	一	一	二	二	二	四	二	二	一	一	四	一	三	八	殺人		
	一四	一六	一五	二六	三四	四二	一八	二七	二五	三三	三	九	二四	三〇	四七	一六八	傷害		
	五	一八	三六	二	二九	九	三	二九	三四	四〇	一	二	二七	三	一八	六〇	強盜		
	六	二〇	五四	四二	四五	四五	三三	三〇	二四	一一	二〇	一五	二六	三三	二五	一五九	竊盜		
	一八一	五	一	三	一九	一八	三三	二〇	八	一五	五	九	三	三	二	五八	詐欺		
		一	四	二	三	四	三	三	五	三	一	一	二	二	一	三	六	恐喝	
		一	二	〇	一四	一六	一一	三	二	五	二	五	三	六	二	一九	一五九	横領	

朝鮮の犯罪と環境

計

大正十一年

署別	犯罪種別	偽文	賭博	淫猥重婚姦	殺人	傷害	強盜	窃盜	詐欺	恐喝	横領
平壤	一八	一八	一九	四六	三三	二八	三〇	一八七	三〇九	八	一六五
鎮南浦	二〇	二〇	四	五	三	四	一	二九	六二	一	四九
大同	三	三	三	三	二	五	三	二七	一六	五	一九
大川	一〇	一〇	三	一五	五	四	一	三七	一八	八	一九
順山	五	二	二	一	一	一七	二	一七	七	一	八
孟德	四	四	四	三	一	三	一	一六	五	二	三
陽川	四	四	四	三	一	三	一	一六	五	二	三
成川	三	一五	一五	七	六	三	一	四〇	九	三	一六
江東	一	三	三	八	二	二九	一五	二九	六	二	八
中和	二	三	三	二	一	四	四	二	九	一	一六
龍岡	五	二	二	七	三	〇	二	五	七	二	七
江西	七	二	二	九	三	三	二	八	七	一	五
平原	四	二	二	五	二	四	三	五	三	一	三
安州	六	三	三	一	一	六	九	九	六	三	三
价川	八	四	三	三	一	五	四	三	九	二	一八

五九

一一〇

一〇四

三四

五三

三三

二二六

一七九

四一

一七〇

一八二

大正十二年

署別	犯罪種別		計	德川	寧遠
	文書	賭博			
平壤	二〇	八	二八	二	五
鎮南浦	三三	一一	四四	一〇	二
大同	二	四	六	一	二
順川	二二	一七	三九	二	二
孟山	七	七	一四	一	二
陽德	五	一	六	一	二
成川	二	九	一一	一	二
江東	一	六	七	一	二
中和	一	一	二	一	二
龍岡	三	七	一〇	一	二
江西	八	一	九	一	二
平原	四	五	九	一	二
計	二一三	一六一	三七九	一〇	二

第三章

犯罪の年次の消長

一八三

朝鮮の犯罪と環境

一八四

大正十三年

龍岡	中和	江東	成川	陽徳	孟山	順川	大同	鎮南浦	平壤	署別 犯罪種別	計	寧遠	徳川	价川	安州
六	六	四	一六	一	二	二二	一〇	二二	三七	偽文造書	二二	二	一	三	二
二	五	五	三六	七	五	一〇	一	一〇	二七	賭博	九	八	四	三	一
三	四	二	五	一	一	五	五	一	一三	淫猥重婚姦	一五五	四	二	三	一五
六	三	二	五	二	一	一	七	一	六	殺人	五〇	一	一	一	六
四七	五七	六二	五一	一八	三三	五五	六〇	四二	一三〇	傷害	八四	一五	一五	一六	八八
九	一三	七	六	二	一	八	一六	一六	六六	強盜	一六八	八	七	一六	一六
九三	九五	五七	六三	五〇	三三	六〇	一七二	二九四	三六七	竊盜	三〇六三	三九	三七	六八	九九
二六	四五	一八	三三	三三	二四	三八	三七	二六	五六六	詐欺	一二五二	七	一〇	二六	一〇一
一	一	五	五	五	一	二	九	一	五	恐喝	五四	四	一	一	六
二八	二七	一四	三〇	一一	七	三	八一	九二	四七二	横領	八四〇	二二	一八	一九	九

大正十四年

署別	犯罪種別		江 西	平 原	安 州	价 川	德 川	寧 遠	計
	江 東	成 川							
偽文 造書	1	5	7	3	20	2	20	38	253
賭博	2	23	2	7	11	3	7	24	162
淫猥 重婚 姦姦	4	2	1	7	3	4	2	23	69
殺人	3	2	2	3	5	3	3	2	58
傷害	33	46	16	27	64	89	60	368	924
強盜	4	10	1	8	15	2	4	60	232
竊盜	7	57	7	34	65	28	36	294	523
詐欺	185	26	60	81	32	39	81	267	1384
恐喝	1	3	1	1	5	2	1	3	42
橫領	14	29	33	35	36	60	175	252	609

朝鮮の犯罪と環境

一八六

大正十年

平安北道

署別	義州	新義州	龍岩浦	鐵山	宣川	定州	計
犯罪種別							
偽文造書	八	一〇	四	一	一	〇	一五〇
賭博	六九	六	一五	六	四〇	四	一五九
淫猥姦淫重婚姦	六	六	五	三	五	八	六四
殺人	二	六	三	四	一	五	五七
傷害	二五	四	四	八	七	〇	二〇五
強盜	五六	八七	六九	二五	一七	三九	二四八
竊盜	九	三三	二二	三	三四	二九	四七六
詐欺	二〇	五九	四	七	一五	四	二六八
恐喝	一〇	六	三	三	六	一六	三三
橫領	五二	五	二	七	九	二五	一四七
中和	二	一〇	八	七	三	八	一五〇
龍岡	二〇	二	四	二	一	二	二九
江西	八	二	一	七	〇	八	二八
平原	七	六	七	九	一	一	二四
安州	三	七	一〇	九	一	一	二七
价川	一	八	三	六	〇	〇	一六
德川	六	三	二	五	四	二	二〇
寧遠	八	一〇	二	二	三	一	二八
計	一五〇	一五九	六四	五七	二〇五	二四八	四七六

湖 昌 碧 楚 渭 滿 慈 中 東 厚 江 前 縣 北 寧 泰 博 龜  
江

第三章

犯罪の年次の消長

州	城	潼	山	原	浦	城	鎮	興	昌	界	川	川	鎮	邊	川	川	城
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五	三	一	六	五	九	一	九	八	五	三	九	六	六	三	八	三	五
二	二	一	四	一	三	一	一	一	一	一	一	二	一	六	一	二	一
三	五	五	八	一	一	一	二	二	三	三	一	五	一	二	三	一	四
七	八	六	一	二	四	三	四	一	二	四	三	一	三	七	八	二	〇
〇	三	四	六	七	二	三	五	五	八	七	二	三	二	六	四	四	二
三	五	七	三	一	九	三	二	五	五	二	五	二	三	六	七	三	〇
一	七	一	三	一	一	六	六	二	六	七	三	四	六	三	〇	四	六
三	一	一	二	一	二	一	三	一	五	八	一	二	一	六	六	三	一
六	三	四	七	六	三	五	九	二	八	一	五	一	九	五	一	二	〇

計

大正十一年

署別	犯罪種別	偽文 造書	賭博	淫猥 褻姦 重婚	殺人	傷害	強盜	窃盜	詐欺	恐喝	横領
義州	八	八	六〇	五	二	三五	九二	二四	二七	二七	四三
新義州	七	七	一六	一〇	九	七〇	二四	三四	九	七	九七
龍岩浦	六	六	四	二	一	三三	一五	七	三	二	五七
鐵山	三	三	六	四	一	二六	二	三	一	一	一〇
宜川	二	二	五	三	一	三七	三	六	七	六	三三
定州	二	二	二	九	五	一〇	九	二	七	九	六五
龜城	五	五	三	三	一	二〇	二	二〇	九	一	四
博川	二	二	三	一	四	五	二	四	三	三	三
泰川	一	一	五	一	六	八	一〇	一	六	一	七
寧邊	六	六	五	三	一	三	六	四	三	五	二
北鎮	三	三	一	二	一	三	二	一	七	八	二
熙川	四	四	二	二	二	二	一	七	一	二	二
前川	三	三	二	一	一	二	一	六	八	一	三
江界	八	八	四	一	五	五	五	六	七	二	一

一〇二

五七八

六二

八二

四六九

五三〇

九九

三四五

八八

三〇三

一八八



# 大正十二年

第三章 犯罪の年次の消長	署別 / 犯罪種別		計	朔	昌	碧	楚	渭	滿	慈	中	東	厚	
	鐵山	龍岩浦		新義州	義州	州	城	山	原	浦	城	鎮	興	昌
			偽文造書	一三	四	一	五	二	三	三	二	一	一	四
			賭博	七九	二九	四八	七	六	八	三	三	六	二	三
			淫褻姦淫重婚	八	四	一	四	三	一	三	六	二	一	三
			殺人	九八	三	七	九	一	七	三	一	六	三	一
			傷害	六五五	一八	六	一五	二九	六	二	一五	四	二	一五
			強盜	五四五	二〇	一七	三	一五六	一七	一四	六	七	三	二
			竊盜	一二五	三	七	一五	二七	一七	一八	三	二五	五	二
			詐欺	五〇	一六	七	三	三七	八	四	四	一	二	一八
			恐喝	九六	二	二	二	二	二	一	一	七	一	三
			横領	四七〇	六	八	四	一五	六	四	九	七	一	二

一八九

碧 楚 渭 滿 慈 中 東 厚 江 前 熙 北 寧 泰 博 龜 定 宜  
江

鐘	山	原	浦	城	鎮	興	昌	界	川	川	鎮	邊	川	川	城	州	川
六	三	一	四	三	一	一	二	四	三	四	五	四	二	三	三	二〇	一
九	五	二	一六	二四	七	八	一八	五	二〇	一	一四	二〇七	五四	五	一〇三	三〇	一六
五	二	一	二	二	二	一	三	一	一	八	一	八	六	一	三	二	四
七	三	九	五	二	一	三	三	七	一	九	一	三	一	七	二	九	三
一六	二	五	一〇	二	一	二	八	五九	五	六	三	三八	四	三	五	六	三
四〇	一五七	四二	一七	二	六	一	八	四五	一六	五	三	六	一五	一〇	四五	九	七
一八	三九	二	一八	三	九	三	一四	五〇	二〇	三〇	四	五	二	五	三	一四八	七
一四	三六	五	四	二	九	三	一五	四六	一六	三〇	一九	四九	二	七〇	六八	八	三
一	四	一	一	一	一	一	二	四	一	五	二	七	四	七	五	一四	一〇
二	一六	五	九	三	二	二	一四	三	九	二	七	二九	二	四	三	六	三〇

朝鮮の犯罪と環境

大正十三年

第三章 犯罪の年次の消長

署別	犯罪種別	偽文 造書	賭博	淫猥 姦姦 重婚	殺人	傷害	強盜	竊盜	詐欺	恐喝	横領	計
義州		二二	七八	五五	一三	三三	五五	一六七	三三	六	二〇	三三
新義州		二四	二六	五五	三	一〇八	五五	六七	一三七	一〇	一三	二四
龍岩浦		九	八	五	四	五	七	一七八	六〇	七	三九	九
鐵山		六	六〇	一	一	五	三	四四	二八	四	二〇	六
宜川		一	三	三	三	四	二	二七	二	六	一五	一
定州		一六	四	九	一六	八	二〇	二五	一六	七	九	一六
龜城		三	二〇	三	一〇	二六	三〇	三四	一四	二	二	三
博川		三	七	一	一	二	一〇	一六	四	一	三	三
泰川		三	七五	一	七	一八	三	三	一六	四	八	三
寧邊		三	一四〇	六	四	三九	四	六九	七	五	二八	三
北鎭		六	二	三	四	四二	六	五	二七	四	一九	六
熙川		二	一	二	五	一五	六	四	五	六	一八	二

昌城	六	二四	二	五	二	一	三	七	一	一	二	
朔州	四	二	一	二	二	一六	三	一四	八	三	八	
計	三三	八三	八	二七	五八	七	一三〇	七五	二二	六	六	三三

朝鮮の犯罪と環境

大正十四年

署別	犯罪種別	計	朔州	昌城	碧潼	楚山	渭原	滿浦	慈城	中江鎮	東興	厚昌	江界	川
	偽文造書	一五七	二	三	五	三	七	一	五	一	一	五	五	五
	賭博	七九六	一九	三四	一七	五	五	二	八	四〇	七	二	五	二
	淫猥姦姦	一五八	二	五	一	二	一	一	一	一	一	二	二	一
	殺人	一六三	四	四	八	三	八	二	六	一	二	二	八	二
	傷害	六九九	一八	一〇	一〇	三七	一八	五	四	三	三	一〇	三八	三
	強盜	一〇〇五	三	二	四	二	四	二	七	五	三	一〇	五	三
	竊盜	二〇一五	八	一〇	二	四	六	一	九	四	六	二	七	三〇
	詐欺	七九九	一	二	三	三	六	五	五	七	五	九	二	三
	恐喝	一三三	三	一	一	三	一	一	一	一	一	二	八	一
	橫領	五三	四	五	六	八	七	一	九	三	七	三	七	八
新義州		一五八												
義州		一七												
新義州		八												
義州		二												
新義州		七												
義州		八												
新義州		一〇二												
義州		一〇九												
新義州		八九九												
義州		一五八												
新義州		七												
義州		四												
新義州		一三												
義州		四												

一九二

第三章

犯罪の年次の消長

渭原	滿浦	慈城	中江鎮	東興	厚昌	江界	前川	熙川	北鎮	寧邊	泰川	博川	龜城	定州	宜川	鐵山	龍岩
一五三	一一八	一六二	一三〇	一二三	一三三	一七五	二二九	二二二	二〇九	二〇九	二四四	二二二	二八七	二七三	二二九	二四八	二七三
一九三	一六三	一七四	一四四	一四四	一三三	一七三	二二七	二二七	二〇九	二二九	二五〇	二四〇	二八六	二八四	二二九	二〇〇	二一九
二	一	一	一	一	四	一	三	六	一	七	三	二	九	五	二	二	六
五	八	四	三	五	二	四	四	三	二	四	二	九	六	七	五	二	七



大正十一年

麟	春	署別 / 犯罪 種別	計	伊	平	鐵	金	金	華	洪	橫	原	平	寧	旌
				川	康	原	城	化	川	川	城	州	昌	越	善
		偽文 造書	二七	三	一	〇	六	九	五	一四	三	三	四	三	五
		賭博	六六	五	二	七	五	二	二	一五	四	六	七	二	七
		淫猥 重婚 姦姦	一三	六	三	八	七	二	三	九	七	二	二	五	八
		殺人	三三	二	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二
		傷害	五〇	八	二	三	三	一	二	二	二	六	三	二	二
		強盜	七二	四	二	二	七	一	二	二	四	四	四	二	三
		竊盜	七四	五	三	五	一	二	二	一	三	五	三	二	三
		詐欺	五八	三	二	五	三	一	三	二	四	〇	一	二	六
		恐喝	六六	一	七	四	一	一	五	二	五	九	一	四	三
		橫領	四八	一	二	五	九	〇	一	二	二	一	六	九	四
一九五	七														

第三章

犯罪の年次の消長

鐵 金 金 華 洪 橫 原 平 寧 旌 蔚 三 江 襄 高 通 淮 楊

原 城 化 川 川 城 州 昌 越 善 珍 陟 陵 陽 城 川 陽 口

朝鮮の犯罪と環境

三 七 二 三 九 二 七 七 二 四 六 二 三 四 三 五 六 三

二 四 八 二 五 五 三 五 五 〇 五 七 三 四 五 七 二 八 七 七 一 六 〇 七 二

七 一 一 三 〇 〇 九 四 八 四 八 四 四 三 一 六 〇 七 二

一 六 一 二 四 二 一 一 一 一 二 一 一 二 五 一 一

四 七 三 六 三 五 三 三 九 八 二 三 三 七 七 二 六 三 六 三 三

四 五 二 一 三 二 五 三 四 一 一 一 四 一 一 五 五 一

八 三 三 五 四 四 五 八 五 〇 五 四 四 九 三 三 三 三 二

九 二 五 四 二 八 五 九 三 八 五 五 二 五 七 四 〇 三 七 二 八 六 二

一九六

三 一 一 一 八 二 三 一 六 五 六 三 四 二 三 三 六 二

五 五 六 九 八 三 三 二 七 七 二 五 九 三 三 七 二 四 二 五



大正十二年

第三章 犯罪の年次の消長	署別 / 犯罪種別											計	伊平川	平康			
	寧越	旌善	蔚珍	三陟	江陵	襄陽	高城	通川	淮陽	楊口	麟蹄				春川		
	五	七	八	二	三	二	三	六	四	一	四	二	四	二	三	六	二
	三五	二一	三〇	二七	二三	一八	三四	一九	三六	二六	二〇	一九	二四	八	四三	五四	一八
	三	七	三	九	二	一	五	五	七	一	三	二	二	二	二	八	三
	一	一	一	二	四	三	一	二	一	三	一	一	一	一	三	一	一
	三	二	三	六	三	二	三	一	四	八	八	八	八	五	〇	二	四
	六	二	一	一	三	五	三	三	二	一	一	二	六	二	二	二	二
	四	三	二	三	二	五	五	四	二	一	一	一	八	七	〇	四	三
一九七	六	三	二	四	九	二	三	二	一	二	二	一	七	五	五	九	九
	五	七	二	三	一	一	二	二	一	一	三	四	三	二	三	二	二
	五	八	七	四	九	一	三	九	一	八	〇	七	五	〇	二	四	二

一九七

大正十三年

署別	春川	麟蹄	楊口	淮陽	計	伊川	平康	鐵原	金城	金化	華川	洪川	橫城	原州	平昌
偽文造書	二	七	一	一	一六九	〇	七	二	五	一	五	二	六	一〇	六
賭博	一〇四	二五	三七	四	五五七	四	一	五	一	二	二	五	六	五〇	三
淫褻姦淫重婚	五	一	三	四	一三三	六	五	五	五	一	一	二	六	二	七
殺人	三	一	一	十	三三	二	一	一	二	一	二	三	一	二	一
傷害	五〇	二〇	七	二	六八五	四	三	五	二	四	六	五	四	四	三
強盜	四	二	一	三	五〇	一	三	四	三	三	一	四	四	一	一
竊盜	二六	二六	一九	六	一〇七七	五八	四	六〇	三	三	五	五	四	七	二
詐欺	一三八	三三	四	一九	九五	五	九	七	二	三	九	八	三	四	三
恐喝	一	三	一	二	六	四	三	二	三	四	三	七	一	三	一
橫領	八二	五	一五	七	六八	五〇	一七	三	一六	七	二	四	一〇	四〇	三

	伊	平	鐵	金	金	華	洪	橫	原	平	寧	旌	蔚	三	江	襄	高	通
第三章	川	康	原	城	化	川	川	城	州	昌	越	善	珍	陟	陵	陽	城	川
犯罪の年次の消長	一	七	二〇	三	四	六	七	二	一八	〇	四	一五	七	一九	九	四	一五	八
	三四	一	三三	三三	四	三三	三三	二七	四七	三三	五二	二七	四四	三三	一八	一八	三三	三三
	三	四	四	一	一	一	二	二	一	四	一	一	二	一	六	一	二	一
	三	二	二	二	一	二	三	一	一	三	二	一	一	一	一	一	一	一
	一四	三三	五二	二七	三三	二七	三四	四	三六	三三	一六	一八	七三	一九	六五	二六	二五	三〇
	四	五	四	六	四	一	五	一	四	五	四	一	〇	一	一	五	一	二
	五八	一〇九	二三八	三三	八四	五二	五三	三三	一四七	三七	四九	三三	四四	四四	一八六	八七	五八	五五
一九九	五一	五九	七二	四	三	六二	六二	四	七〇	八	二五	二三	五五	五六	一五一	四	三九	四九
	五	二	三	四	一	二	四	一	九	二	四	二	一	三	三	一	二	二
	三三	二七	四〇	二二	三	一五	四一	七	四五	三	三五	一八	二七	四三	六	三四	三三	三三

朝鮮の犯罪と環境

二〇〇

大正十四年

署別	犯罪種別	偽文 造書	賭博	淫猥 重婚 姦姦	殺人	傷害	強盜	窃盜	詐欺	恐喝	横領	計
春川	三二	一四三	一	三	八四	一八〇	一五〇	二	二	二八	一七九	七三
麟蹄	一	三四	一	一	一	三三	一	三三	三	一	一〇	四六
楊口	五	三四	一	一	一	二四	一	二四	九	一	二六	二六
淮陽	三	一九	一	一	一	一六	三	一六	三	一	二二	六五
通川	九	三三	三	一	一	二九	五	二九	三	一	七二	一五七八
高城	九	三三	三	一	一	二九	三	二九	三	一	七二	一〇六七
襄陽	三	二九	二	二	三	七五	二	七五	二	三	七二	六七
江陵	二	三六	四	二	一	一五二	二	一五二	一	三	一六	六三
三陟	五	七四	三	二	二	九四	一	九四	四	一	八三	六三
蔚珍	八	四九	二	三	四	七〇	一	七〇	二	四	八三	六三
旌善	二	五四	三	一	一	六〇	一	六〇	二	四	八三	六三
寧越	八	六七	一	一	一	三七	一	三七	三	四	一〇三	六三
平昌	六	八八	二	二	二	五七	一	五七	三	三	一〇三	六三
原州	三七	一〇六	一	四	五八	二〇	一四	三	一	一六	一四	六三

第三章 犯罪の年次の消長

二〇一

署別	文川	高原	永興	定平	咸興	元山
犯罪種別						
偽文造書	三	五	四	二	五	三
賭博	三五	二九	二四	二七	一四	二二
淫猥重婚姦	六	一	九	四	一四	五
殺人	一	一	一	一	二	一
傷害	一六	一四	三五	三八	九八	一〇六
強盜	一	一	二	一	二	八
竊盜	二九	一四	二七	四三	四三	四二
詐欺	一五	八	一九	二	八九	八五
恐喝	三	二	一	一	二	五
横領	七	五	二三	一四	八五	四三

大正十年

咸鏡南道

署別	伊川	平康	鐵原	金城	金化	華川	洪川	橫城
一計	二〇九	二一九	二〇〇	二〇〇	二〇三	二〇九	二〇二	二〇一
偽文造書	七	九	〇	〇	三	九	二	一
賭博	九七	二二	六〇	六二	六六	三三	六五	五六
淫猥重婚姦	三	一	一	二	一	一	二	一
殺人	一	二	一	一	二	二	二	一
傷害	八三	三七	二七	五五	二七	三七	四七	三三
強盜	十三	六	四	五	二	七	一	四
竊盜	四一	六八	八五	六二	四七	三三	四八	五二
詐欺	二三	五五	四九	四五	二六	三八	四九	三〇
恐喝	三	五	二	二	四	四	五	一
横領	二〇	三八	六七	二二	二〇	一五	三五	三一

朝鮮の犯罪と環境

安	洪	北	利	端	新	長	豊	三	甲	惠	新	好	下	計
邊	原	青	原	川	興	津	山	水	山	山	恕	仁	碓	
三	三	二	一	四	一	一	四	一	一	二	五	一	一	六
一七	一四	九	二	一六	一四	三	九	三七	一〇	一七	三	一	九	三〇
一	二	一六	四	四	三	二	二	一	一	四	一	一	一	七
一	一	四	二	一	二	一	二	一	一	一	一	一	一	六
一六	三一	二四	七	二五	二	三	一〇	一	三	一七	二	一	三	四八〇
一	一	九	三	一	二	一	四	一	一	二	一	一	一	四七
一四	一七	五四	二	一七	六	二	七	七	八	二五	一〇	一	三	二二六八
一九	一五	二七	七	一七	八	三	七	六	三	二〇	三	一	九	三八一
二	一	三	一	三	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一七
〇	〇	三	七	〇	二	一	三	一	一	九	九	一	五	二八一

二〇二

備考 好仁警察署は大正十二年新に設置せるものにして大正十年及同十一年には該當事實なし

大正十一年

署別	犯罪種別																
	元山	咸興	定平	永興	高原	高川	文川	安邊	洪原	北青	利原	端川	新興	長津	豐山	三水	甲山
偽文造書	四	九	九	六	二	四	八	六	四	六	五	一	一	一	三	一	一
賭博	三	六	五	四	〇	四	九	九	四	二	四	三	七	一	三	五	一
淫猥重婚姦	三	一	四	一	二	二	二	二	三	七	四	六	七	一	四	三	三
殺人	二	一	一	一	一	一	一	二	一	一	一	三	一	一	一	一	一
傷害	九	一〇	四	四	七	七	二	八	三	三	〇	二	四	六	五	三	二
強盜	二	一	八	三	三	三	四	一	二	二	九	二	二	一	三	三	一
竊盜	四	二	五	四	一	一	八	三	二	三	三	九	四	七	五	九	九
詐欺	八	七	九	五	〇	二	七	四	五	三	七	三	二	四	〇	八	五
恐喝	二	二	三	五	一	一	二	一	一	一	一	三	一	一	三	二	四
橫領	九	三	八	六	二	二	四	八	七	四	二	二	三	二	九	九	三

第三章

犯罪の年次の消長

朝鮮の犯罪と環境

大正十二年

署別	犯罪種別	計	下	好	新	惠								
原	青	原	邊	川	原	興	平	興	山					
二	二八	五	六	二	二	五	二	二七	二六	七四	二	一	一	四
六	三六	三〇	一	九	七	三	三	一七〇	八七	四九九	一八	一	五	三
二	一六	五	五	二	一	四	八	三	一七	九六	三	一	一	五
一	一	二	四	一	一	一	四	二	二	四七	一	一	一	一
八	五三	三〇	二	七	二	三	二〇	二四	九九	五〇九	一七	一	三	六
一	五	一	一	一	一	二	二	二六	三	九〇	一	一	二	二
二	一八	二〇	四七	一七	二五	三	四	五〇	四七	一〇三六	二	一	六	八
二	四九	八	三四	二六	三	四	三	一〇	一九九	四〇三	四	一	三	二
一	二	一	四	一	一	二	二	一	三	四五	四	一	一	一
一五	三九	九	二八	一八	九	三	〇	五六	二九	三五	八	一	二	〇

二〇四





計	下	好	新	惠	甲	三	豊	長	新	端	利	北	洪	安	文	高	永	
	禍	仁	坡	山	山	水	山	津	興	川	原	青	原	邊	川	原	興	
一四六	一	一	一	一	九	一	四	一	二	二	五	一	七	八	一〇	六	三	九
五四四	一六	一	七	二四	五	二九	二	一	七	五四	二五	三	三四	一四	一七	三	二	
五三	一	一	一	一	一	二	一	七	一	一	六	一	五	一	一	五		
二四	一	一	一	一	一	一	一	一	二	一	一	二	二	二	二	一		
六五二	一三	七	三	五	二〇	〇	一六	一	一八	二四	九	四	三〇	三	一四	三	五	
六八	一	一	一	一	二	一	一	一	四	五	一	二	二	二	一	一	三	
一五八五	一三	八	二〇	一四	五	六	一六	三	二五	二九	二九	二	三〇	一〇九	三	二四	二	
九七	九	四	一五	五	二九	九	三	二	一四	三九	一八	九九	三〇	五	六	三	六	
五五	二	一	一	一	三	一	二	一	三	五	一	四	三	二	一	一	四	
四九八	二	一	〇	一	九	一	八	九	〇	三	八	二七	三	六	九	五	二	七

大正十四年

第三章	水	豐山	長津	新興	端川	利原	北青	洪原	安邊	文川	高原	永興	定平	咸興	元山	署別 / 犯罪種別	
																偽文 造書	賭博
犯罪の年次的消長	1	2	1	6	16	5	20	13	18	2	4	7	9	33	23	2	殺人
	26	33	4	3	7	8	25	4	2	20	5	4	18	7	4	2	傷害
	1	1	1	1	2	6	2	2	1	1	1	2	5	3	2	1	強盜
	3	1	1	2	2	1	3	1	1	2	1	4	3	1	3	1	竊盜
	7	24	1	5	3	2	6	5	2	4	3	4	4	19	14	1	詐欺
	1	3	1	2	6	1	8	4	3	8	2	3	5	7	6	6	恐嚇
	10	24	3	3	4	2	7	4	8	5	3	6	3	4	8	5	橫領
	5	5	4	1	4	4	2	1	1	4	1	5	2	7	6	1	
	4	2	1	4	4	2	1	1	4	1	1	5	2	7	6	1	
	5	3	7	7	2	2	5	2	5	3	6	2	2	9	3	1	

朝鮮の犯罪と環境

大正十年

署別	延	三	茂	富	城	吉	明	羅	清	計	下	好	新	惠	甲
犯罪種別	社	長	山	寧	津	州	川	南	津		碓	仁	坡	山	山
偽文造書	一	三	五	一	八	二	一	五	六	一七二	一	一	二	五	七
賭博	三	五	一	一	三	四	一	八	四	五九五	六	三	九	五	五
淫猥姦淫重婚	二	一	一	一	五	六	七	五	九	三八	一	一	一	二	一
殺人	二	一	二	一	一	三	三	二	二	四〇	二	二	一	五	四
傷害	六	四	八	二	二	六	二〇	四	二	七五三	九	一	五	一四	二四
強盜	一	一	二	一	一	二	一	一	一	九六	二	一	一	一	一
竊盜	八	三	八	六	四	二	三	八	六	二〇〇〇	三	四	〇	三	四
詐欺	七	三	二	二	二	一	二	三	三	九一七	一	二	六	一	一
恐喝	一	一	一	一	九	四	一	一	一	六二	一	一	一	一	一
横領	一	七	五	二	六	七	三	三	三	六七	一	一	八	七	七

咸鏡北道

二〇八

大正十一年

第三章 犯罪の年次の消長	署別				犯罪種別	計	漁	雄	西	慶	新	慶	訓	穩	鍾	會
	吉州	明川	羅南	清津			津	大津	基	羅	興	山	源	戎	城	城
					偽文造書	五	六	一	一	一	二	一	一	三	二	六
					賭博	二九	七	〇	二	五	一	八	一	一	〇	三
					淫褻姦淫重婚	五	一	二	三	一	一	七	一	一	三	二
					殺人	四	一	一	一	一	一	二	一	一	二	三
					傷害	二八	七	二	元	三	四	一	八	一	二	一九
					強盜	七	二	二	一	一	一	一	一	一	一	六
					竊盜	四〇	八	六	一九	五	七	八	一	四	二	三
					詐欺	二四	六	二	五	〇	三	一	二	五	四	五〇
					恐喝	一	五	一	一	二	一	一	一	一	一	七
					橫領	三	七	二	四	一	一	八	二	四	一	五
二〇九	三	二	三	四		二〇	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一

大正十二年

計	漁大津	雄基	西水羅	慶興	新阿山	慶源	訓戎	穩城	鍾城	會寧	延社	三長	茂山	富寧	城津
共	三	一	一	一	二	一	一	四	二	一	一	八	五	一五	
二共	四	八	三	一	二	〇	一	一	一四	五	一	二	八	二六	
四七	一	六	一	一	一	一	一	一	三	四	一	二	二	四	
七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三	一	一	一	一	
二五二	七	五〇	三	六	三	三	三	一	三	二六	九	三	三	六	二三
二六	一	二	一	一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	四	
五四	二八	三	二	八	三	七	六	三	八	九	三	五	二五	七	七四
三〇七	七	一九	四	四	五	一	二	三	三	四五	四	四	一三	一〇	五〇
一六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四	一	一	一	一	四
二五	一五	一九	六	九	七	二	二	〇	九	三六	九	一	八	二	五二

朝鮮の犯罪と環境

二一〇

第三章 犯罪の年次の消長	署別 / 犯罪種別																
	慶興	新山	慶源	訓戎	穉城	鍾城	會寧	延社	三長	茂山	富寧	城津	吉州	明川	羅南	清津	署別 / 犯罪種別
	一	一	二	一	一	三	三	一	一	一	三	三	四	五	〇	二	僞文 造書
	九	四	三	二	一	七	二七	九	二	三	一	二五	三七	六	七	四	賭博
	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	五	三	三	六	二	淫猥 重婚 姦姦
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	一	二	殺人
	五	二	五	三	二	三	三	七	五	四	二	三五	二五	一九	四〇	六七	傷害
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三	一	一	二	一	強盜
	五	八	五	二	三	二	八	二	三	一	三	五	六	三	一四	八五	竊盜
二二	三	一	二	六	二	六	六	四	一	一	一	四	九	二七	六	七	詐欺
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	一	三	二	恐喝
	二	三	一	三	七	〇	四	五	三	六	三	四	九	二	一五	三八	横領





# 大正十四年

## 第三章

### 犯罪の年次の消長

富津	城津	吉州	明川	羅南	清津	署別 犯罪種別	計	漁大津	雄基	西水羅	慶興	新阿山	慶源	訓戎	穩城
						偽文 造書	六	四	五	一	一	三	二	一	一
						賭博	二七	五	一	二	六	二	七	一	三
						淫猥 重婚 姦姦	三	一	一	一	一	一	一	一	一
						殺人	〇	一	一	一	一	一	一	一	一
						傷害	二八〇	九	八	二	一	一	一	二	四
						強盜	九	一	一	一	一	一	一	一	一
						竊盜	四七五	六	三九	九	七	九	三	七	二
二一三						詐欺	四〇二	七	三	二	五	一	四	六	五
						恐喝	八	一	一	一	一	一	一	一	一
						横領	二九一	三	九	六	三	四	一	六	五

計	漁大津	雄基	西水羅	慶興	新阿山	慶源	訓戎	穩城	鍾城	會寧	延社	三長	茂山
九五	三	一三	一	二	二	三	二	一	三	一四	二	一	一
四〇六	一九	一三	四	二七	一	九	三	一九	六	三三	二〇	八	六
二二	一	一	二	一	一	一	一	一	一	三	一	一	一
二〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	一	一	一
三四四	一四	二八	一	一	二	四	一	二	二六	四三	八	二	六
三二	三	一	一	二	二	一	一	一	一	一	四	一	一
八四六	二六	五二	四	六	八	三	四	五	三三	二八	一三	二	六
五八	三七	二五	六	四	八	五	三	一	二	四九	六	三	五
一九	一	二	一	一	一	一	一	一	一	三	一	一	一
四四三	二七	三三	六	二	九	五	三	八	二	五九	五	五	一

以上によりて、各地方に於ける主要犯罪發生件數の年次的消長は明かになつたが、更に市街地に於ける景氣不景氣、漁場、鑛山、工業地に於ける盛衰、農業地に於ける豊凶等、地方特有の事情と、各種犯罪發生件數の多少とを比較對照して見ると、必ずや興味ある關係を發見することが出來やう。而

して犯罪の發生件數は、大體に於て人口數に比例するものであるから、參考の爲め、大正十四年十月一日現在、簡易國勢調査の結果に據る、各警察署管内別人口數を左に掲げて置く。

各警察署管内別人口表 (大正十四年十月一日現在)

京 畿 道

警察署名	府・郡・島名	人口數
昌德宮、本町、鍾路	京城府、高陽郡	五〇二、一五九
東大門、西大門、龍山	仁川府、富川郡	一三二、四六七
江 華	江 華 郡	七三、三六四
金 浦	金 浦 郡	五一、六六九
安 城	安 城 郡	七六、〇八七
水 原	水 原 郡	一五三、二二七
永 登 浦	始 興 郡	六六、六五六
開 城	開 城 郡	一二八、八一
平 澤	振 威 郡	六九、四二四
加 平	加 平 郡	三五、〇七五
龍 仁	龍 仁 郡	七五、九一〇
廣 州	廣 州 郡	八五、〇六五

忠清北道

永報清槐堤陰鎮  
同恩州山川

永報清槐堤陰鎮  
同恩州山川郡

八四、〇八九  
六七、九〇一  
一六四、〇九七  
一〇六、七四七  
八〇、三四一  
六九、三〇四  
四八、三九八

驪楊抱利楊漣坡長  
計  
州平川川州州州

驪楊抱利楊漣坡長  
州平川川州州州郡

二一六  
六三、〇三四  
七五、七八八  
六五、八〇五  
五八、五四四  
一〇七、二一九  
七五、六一六  
五五、三六三  
六七、八二五  
二、〇一九、一〇八

忠清南道

計	沃川郡	丹陽郡	忠州郡
	七二、三八九	四三、三四八	一〇五、八六二
			八四七、四七六

公州郡	大田郡	江景郡	舒川郡	保寧郡	洪城郡	瑞山郡	唐津郡	天安郡	鳥致院郡	禮山郡	溫陽郡
一一八、四三四	九七、四〇九	一二一、九八四	八四、一五六	七四、九四〇	八二、〇五三	一三八、四五二	七七、四七八	八九、七二六	五八、七九八	九三、〇二九	七七、二〇三

第三章 犯罪の年次的消長

全羅北道

全 群 金 高 鎮 苗 任 裡 井 南 淳 長 錦  
 州 山 堤 敵 安 浦 實 里 邑 原 昌 水 山

全 群 金 高 鎮 扶 任 益 井 南 淳 長 錦  
 州 山 堤 敵 安 安 實 山 邑 原 昌 水 山  
 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡

扶 餘 郡  
 青 陽 郡  
 計

朝鮮の犯罪と環境

扶 餘 郡  
 青 陽 郡

一六六、一三五  
 一〇九、一〇九  
 一二二、三一五  
 一〇九、六六四  
 六八、九一四  
 七八、五五四  
 七六、五三一  
 一三五、五〇三  
 一四九、八七三  
 一〇八、八八二  
 七〇、四六五  
 五二、三五七  
 七〇、一七三

二一八  
 一〇三、四八八  
 六四、八八八  
 一、二八二、〇三八

全羅南道

茂朱郡 計 茂朱郡

一、三六九、〇一〇 五〇、五三五

木浦郡 木浦府、務安郡 一九六、三一五  
 珍島郡 五四、四七四  
 谷城郡 七四、二四二  
 麗水郡 九四、〇一五  
 濟州島 二〇五、一九四  
 靈光郡 八三、八六六  
 光州郡 一一五、三七一  
 康津郡 六七、一九九  
 靈巖郡 七九、五五四  
 海南郡 一〇七、三三九  
 莞島郡 六九、二一三  
 咸平郡 七五、九五七  
 長城郡 八八、五八七  
 潭陽郡 八三、八七一

第三章 犯罪の年次の消長

二一九

慶尚北道

大邱 慶山 永川 慶州 盈徳 青松 安東

羅州 長興 寶城 高興 順天 光陽 求禮 和順 計

大邱府、達城郡 慶山郡 永川郡 慶州郡 盈徳郡 青松郡 安東郡

羅州郡 長興郡 寶城郡 高興郡 順天郡 光陽郡 求禮郡 和順郡 計

二二五、〇四一  
八六、三四四  
一一八、五四七  
一七二、二五七  
七四、六〇四  
六〇、〇〇七  
一五二、五七〇

一五〇、二〇七  
八〇、一四三  
九一、六一一  
一一、八三六  
一一〇、一二二  
五五、四四八  
五〇、九九六  
一〇二、九五三  
二、一五八、五一三



浦 英 奉 榮 醴 開 尙 金 軍 倭 鬱 善 清 高 星 義  
計

項 陽 化 州 泉 慶 州 泉 威 館 陵 山 道 靈 州 城

迎 英 奉 榮 醴 開 尙 金 軍 漆 鬱 善 清 高 星 義  
日 陽 化 州 泉 慶 州 泉 威 谷 陵 山 道 靈 州 城  
郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 島 郡 郡 郡 郡 郡

一三四、二〇六  
八一、七一二  
五四、七〇五  
八九、七九三  
七三、六八七  
九、九九二  
七二、二五一  
六〇、一四七  
一三九、七二八  
一六七、四五四  
九一、九〇八  
一〇二、〇七八  
七六、七〇三  
七四、三九四  
四六、七七八  
一六七、六六六  
二、三三二、五七二

慶尙南道

密	咸	山	居	固	泗	宜	晋	咸	陝	統	河	昌	蔚	馬	釜山、釜山水上、東萊
陽	陽	淸	昌	城	川	寧	州	安	川	營、巨濟	東	寧	山	海	

密	咸	山	居	固	泗	宜	晋	咸	陝	統	河	昌	蔚	馬	釜山府、東萊郡
陽	陽	淸	昌	城	川	寧	州	安	川	營	東	寧	山	原	郡
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡

															二〇一、二八二
															一六六、六八一
															一三九、四八〇
															九五、五八三
															八八、五五二
															一四八、一二七
															一二七、七〇七
															八四、七九三
															一二八、四三六
															七八、六〇四
															七四、六九二
															八四、八三四
															八六、五九八
															八〇、〇三一
															七八、〇三七
															一二七、七八二



平安南道

平壤、大同	鎮南浦、龍岡	中和	江西	成川	江東	陽德	寧遠	徳川	孟山
金川	載寧	安岳	信川	松禾	計				

平壤府、大同郡	鎮南浦府、龍岡郡	中和郡	江西郡	成川郡	江東郡	陽德郡	寧遠郡	徳川郡	孟山郡
金川郡	載寧郡	安岳郡	信川郡	松禾郡					

六七、一六〇	九〇、六〇三	七五、八六九	一〇一、八〇七	六五、三八一	一、四六一、八七九
--------	--------	--------	---------	--------	-----------

二五五、三一〇	一二七、七五九	九一、四四七	九九、七一〇	八五、三一五	五六、三九六	四一、七八九	四一、〇九六	五五、四九七	四六、七八〇
---------	---------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

平安北道

安州 順川 价川 平原 計

安州郡 順川郡 价川郡 平原郡

八四、〇五六  
 九四、二三七  
 五二、四六五  
 一〇九、九二〇  
 一、二四一、七七七

新義州、義州 龍巖浦、鐵山 宣川 博川 泰川 寧邊 北鎮 昌城 朔州 碧潼 楚山

新義州府、義州郡 龍川郡、鐵山郡 宣川郡 博川郡 泰川郡 寧邊郡 雲山郡 昌城郡 朔州郡 碧潼郡 楚山郡

一七九、五〇六  
 一七四、五一九  
 七八、三七八  
 七三、八五〇  
 五二、五五八  
 一二七、〇四三  
 四五、五九六  
 四八、九四〇  
 四〇、四四七  
 四四、九二二  
 六四、六八八

第三章 犯罪の年次の消長

二二五

定	龜	熙	渭	江界、 前川、 滿浦	厚昌、 東興	中江、 慈城	計
州	城	川	原				

定	龜	熙	渭	江	厚昌	慈城
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡

一二五、一四七	六四、六二三	六二、八五六	三〇、四五四	一一九、八三三	二九、〇二〇	四四、七一	一、四一七、〇九一
---------	--------	--------	--------	---------	--------	-------	-----------

江原道

春	平	江	襄	通	平	洪	華
川	昌	陵	陽	川	康	川	川

春	平	江	襄	通	平	洪	華
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡

七九、八〇一	六六、六三七	八〇、九〇五	五九、七五六	四五、八八八	五一、七四九	七三、五四一	三四、五九一
--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

第三章 犯罪の年次の消長

咸鏡南道

咸元

興山

咸元  
興山  
郡 元山府、  
德源郡

計  
伊川 鐵原 金化、  
金城 淮陽 高城 楊口 麟蹄 三陟 蔚珍 旌善 寧越 橫城 原州

伊川 鐵原 金化、  
金城 淮陽 高城 楊口 麟蹄 三陟 蔚珍 旌善 寧越 橫城 原州  
郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡

二二七

九〇、八二一  
一七六、九六七

一、三三二、三五二  
六六、一七〇  
六九、八二五  
八一、一八三  
七〇、二三四  
四六、五二九  
四八、九七五  
六六、二五九  
七八、二八八  
六三、〇四〇  
五三、二六一  
六二、七四九  
六三、四五八  
六九、五一三

計	長津、下碓	三水、好仁、新架坡	端川	豊山	甲山、惠山	利原	北青	文川	高原	安邊	新興	永興	洪原
---	-------	-----------	----	----	-------	----	----	----	----	----	----	----	----

咸鏡北道

明川	雄基、慶興、西水羅
----	-----------

明川郡	慶興郡	洪原郡	永興郡	新興郡	安邊郡	高原郡	文川郡	北青郡	利原郡	甲山郡	豊山郡	端川郡	三水郡	長津郡
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

一一五、四九七	三七、六五五	九〇、九七四	一二九、七八九	七五、三八一	六九、二二二	四一、三五三	三五、九四六	一七三、七三四	四三、一一一	七七、九四九	七五、五九九	一四四、二二四	五七、四五八	四六、一二二	一、四一二、九九六
---------	--------	--------	---------	--------	--------	--------	--------	---------	--------	--------	--------	---------	--------	--------	-----------



第三章 犯罪の年次の消長

計	茂山、 延社、 三長 城	鍾 城	會 寧	稔 城、 訓 戎	慶 源、 新 阿 山	吉 州	羅 南、 漁 大 津	城 津	清 津、 富 寧
---	-----------------------	--------	--------	-------------------	------------------------	--------	------------------------	--------	-------------------

	茂 山 郡	鍾 城 郡	會 寧 郡	稔 城 郡	慶 源 郡	吉 州 郡	鏡 城 郡	城 津 郡	清 津府、 富 寧 郡
--	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------------------

	六二六、二四六	三九、一七一	二七、四三七	三八、一四八	一八、二六三	二六、三五二	七九、九七〇	一〇七、五四二	八〇、四一二	五五、七九九
--	---------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------	--------	--------

# 여 백

## 第四章 犯罪の地理的考察

### 第一節 主要犯罪の道別比較

犯罪が社會環境に支配さるゝものである以上、その發生が年によりて消長あると共に、また地方によりて多少あるは勿論である。最近五箇年間に於ける各道の犯罪件数を人口一萬人に就いて見るに、**文書偽造罪**は慶尙南道の七・六四人が最も多く、忠清北道の三・五五人が最も低く、文化の進んだ南鮮の六・五一人に對し、文化の劣つた北鮮は四・八六人である。**賭博罪**は黃海道の一・六七人が第一位を占め、忠清南道の三・五一人が最下位に在り、慶尙北道を除けば南部は一帶に少く、中部に多いのである。**猥褻姦淫及重婚罪**は全羅北道の五・五三人が筆頭を占め、平安北道の二・四六人が殿に位し、南鮮の三・九四人に對し、北鮮は三・〇〇人である。**殺人罪**は平安北道の四・二三人が最も多いが、これは不逞團の侵入に基くものであるから例外とせば、平安南道の一・八八人が多い方で、全羅南道の〇・七七人が最も少く、南鮮の一・〇二人に對し、北鮮は二・一六人で約二倍餘に當つて居る。**傷害罪**は慶尙南道の四四・八一人が第一位を占め、忠清北道の一八・二人が最も少く、海岸線の多い南鮮は二九・

二二人であるが、その少い北鮮は二六・八一人である。強盗罪は殺人罪と同一の理由で平安北道の二五・二四人を除くと、黄海道の九・五八人が最も多い方で、咸鏡北道の二・四六人が最も少く、文化の普及し交通機關の普及せる南鮮の三・三四人に對し、文化の程度低く山嶽重疊せる北鮮は一〇・七五人である。窃盜罪は大市街地を有する京畿道の二・三三・一一人が群を抜き、江原道の四三・五五人が最も少く、貧富の懸隔著しき南鮮の一〇・四・六五人に對し、貧富の差大ならざる北鮮は七二・〇八人である。詐欺罪も京畿道の五四・六二人が第一位にして、咸鏡南道の二二・六六人が最も少く、概して都邑の發達せる京畿道及び慶尙南道が多く、人口密度の粗なる文化の程度低き平北、咸南北の諸道が少い結果南鮮の四四・四四人に對し、北鮮は三〇・八一になつて居る。恐喝罪は全羅北道の三・六二人が最も多く、咸鏡北道の一・四一人が最も少い方で、詐欺罪と同じ傾向を示し、南鮮は二・三八人なるに北鮮は二・一六人である。横領罪は詐欺、窃盜などと同じく京畿道の三四・四二人が第一位を占め、咸鏡南道の二五・〇七人が最も少く、南鮮の二五・八一人に對し、北鮮は遙かに降つて二〇・六二人である。

人口一萬人に對する最近五箇年間の道別犯罪件數 (自大正十年至大正十四年)

道名	犯罪の種類	文書偽造	賭博	猥褻姦淫重婚	殺害	人傷	害強	盜竊	盜詐	欺恐	喝	横領
京畿道		七五二	二五・四〇	三・四	〇・八八	二〇・〇一	四・四	三三・一一	五四・六一	一九四	三四・四二	

第四章 犯罪の地理的考察

忠清北道	三五五	九三二	三四九	一四四	一八二八	二八一	五五六一	二九〇四	一九〇	一七三七
忠清南道	四六二	三五一	四三三	〇八〇	二四九九	三一七	七四四九	三六〇六	二四一	二〇八五
全羅北道	七三九	四二一	五五三	〇九六	二九二〇	六五五	一〇二二四	四〇三三	三六二	二八三九
全羅南道	六八九	二八四〇	三三六	〇七七	三三二二	二五三	七四六一	四二六六	二〇六	二二〇二
慶尙北道	六二三	四六八二	三三七	一三三	三三〇〇	二七九	八四四三	四四〇九	二五九	二五七二
慶尙南道	七六四	七六七	四八九	一三五	四四八一	二五二	九八七五	五〇九一	二二九	二八八四
黃海道	四五五	六一六七	二八六	一八九	三三四四	九五九	六三三三	二七四八	二一八	一七〇六
平安南道	五六〇	五〇四六	四三二	一八八	三三二五	九三三	一四三二二	五〇七一	一六一	三二九九
平安北道	四七五	二七五一	二四六	四三三	二二七二	二五三四	五三三九	二四〇九	三四二	一七九〇
江原道	六〇九	二九四五	三三八	一三八	二二八八	二六一	四三三五	三三六八	二六三	二五四三
咸鏡南道	四三三	一八四六	二六五	一〇〇	二〇八四	二五三	五〇九九	二三六六	一五六	一五〇七
咸鏡北道	五七八	二四四六	二七六	一五三	一三七八	二四六	四四七七	二八七三	一四一	一五〇五
總計	五九九	二四二七	三六四	一三八	二八四六	五六八	九四三七	四〇一四	二三〇	二四二七
南鮮	六五一	一三〇二一	三三四	一〇二	二九三二	三三四	一〇四六五	四四四四	二三八	二五八一
北鮮	四八六	二八七九	三〇〇	二二六	二六八一	一〇七五	七二〇八	三〇八一	二〇六	二〇六二
表朝鮮	六二四	二四三二	三九九	一四二	二九六八	六三四	一〇四三三	四二七〇	二三八	二二三五
裏朝鮮	五五五	二三九九	二九二	一三二	二二五八	二五一	四六六九	二七八四	一九五	二二〇二
南部	六三六	二〇三七	四八八	一〇三	三三二九	三二八	八六八三	四二八一	二四四	二四二二

	3	中	部	六・三二	三七・五四	三・二二	一・二二	二四・八六	五・三四	二八・八五	四〇・九八	二・二〇	二六・六六
	北	部	四・九六	一八・五五	三・〇五	二・五四	二・五〇五	二・二二	七五・三二	三・八四	二・二一	二・七三	
備考	1 號	南、鮮、	へは京畿、忠南北、全南北、慶南北、江原の八道を、北、鮮には黄海、平南北、咸南北の五道を含む										
	2 號	表、朝、鮮、	へは平南北、黄海、京畿、忠南北、全南北、慶南北の十道を、裏、朝、鮮、へは咸南北、江原の三道を含む										
	3 號	南、部、	へは忠南北、全南北、慶南北の六道を、中、部、へは京畿、江原、黄海の三道を、北、部、へは平南北、咸南北の四道を含む										

## 第二節 府・郡・島別の犯罪比較

最近五箇年間に於ける全鮮の道別犯罪状態は右の通りであるが、更に人口一萬人に對する最近五箇年間の府・郡・島別犯罪件数を示して見ると左表の如くなつて居る。各地方の地理的條件を念頭に置いて、これを細密に觀察するときは、その地方の社會現象、就中、その經濟及び文化の大勢と、民心の趨向をも、略ぼ察知することが出來やう。

人口一萬人に對する最近五箇年間の府・郡・島別犯罪件數 (自大正十年至大正十四年)

京 畿 道

地方別 犯罪の種類

地方別	文書偽造	賭博	淫猥	重婚	殺害	人傷	強盜	竊盜	詐欺	恐喝	横領
京陽城府	一八・四	五・六	四・五〇	〇・六六	三七・〇〇	六・三五	六六・六八	一四・九〇	三・三六	八・六六	
高川郡	八・五三	六・八七	二・四二	〇・三三	二四・六九	四・二五	三七・九七	七・九・六	一・六六	六・〇・七	
富仁川郡	一・一八	一八・九三	一・五三	〇・八一	五・九九	二・五九	一七・八七	一四・八一	〇・八一	一七・七五	
廣州郡	八・二二	一七・一六	二・三三	一・〇三	一四・五五	四・〇一	五八・九	四・五七	一・三二	一三・三二	
楊州郡	七・六七	四・五二	二・六四	〇・五三	九・六五	二・二二	二六・七一	二・三・三五	二・二二	一・二・四	
漣川郡	三・一九	六・三三	六・八四	一・三二	一七・六三	五・四七	二七・六六	一・五・二〇	二・七・四	六・五三	
抱川郡	二・二八	五・四一	三・二四	〇・六六	一四・八三	二・〇〇	三五・九一	一・七・二一	一・七・二一	一・五・九七	
加平郡	二・二一	一四・六五	一・九八	〇・七九	二・三二	二・五〇	二四・八一	一・〇・二六	一・七・二	一・五・八一	
楊平郡	二・三八	二・五四	二・八六	〇・三三	一三・八〇	二・八六	六〇・九一	一・五・四四	一・五・九	一・六・一八	
驪州郡	四・四四	一四・三五	三・〇七	〇・六八	九・七四	四・九五	五五・六八	二四・九四	一・七・一	二・三・三〇	
利川郡	二・一一	一三・二九	二・一一	〇・九一	七・九〇	四・〇八	四六・八八	一・三・三一	〇・九一	二・一・〇七	
龍仁郡	二・一〇	二七・六〇	一・五八	〇・九	八・〇二	三・二五	六一・九〇	一・〇・五	〇・五三	一・一・〇四	
安城郡	三・一七	二・三・一九	三・三一	一・八七	二・二四	一・七三	六九・六八	二・〇・六〇	〇・四三	二・一・六七	
振威郡	二・七四	一〇・三八	一・八九	〇・七八	一四・六八	二・八一	九七・七六	二・二・九九	〇・九八	二・一・八六	
水原郡	二・八五	四・六五	三・九〇	〇・四五	一九・三五	五・七〇	二五・五七	二・三・五〇	二・一・〇	一・七・五	
始興郡	五・〇三	六・三九	四・六四	〇・一九	一八・七七	三・三九	五六・七一	二・四・〇〇	一・三・五	三・三・七一	
金浦郡											

第四章 犯罪の地理的考察

朝鮮の犯罪と環境

二三六

江華郡	二〇四	三六二	一五〇	一七七	八八六	二・三二	二八・三二	二・五九	一〇九	二〇八五
坡州郡	三七九	一六・六	一八一	一〇八	二・八一	二・八九	四二・八一	三・三七	〇・七一	二・六四
長湍郡	二・五〇	三四・九四	一・四七	〇・八	一〇・四七	四・二八	三七・四五	一六・六六	二・三二	七・六七
開城郡	四・五八	一・二六	三・七三	〇・六二	一九・八七	三・四九	一四〇・三六	二六・二四	二・七九	一五〇・六
平均	七・五一	二五・四〇	三・二四	〇・八八	二〇・〇一	四・二四	二三三・一一	五四・六二	一・九四	三四・四二

忠清北道

地方別	犯罪の種類	文書偽造	賭博	淫猥	重婚	殺	人傷	害強	盜竊	詐欺	恐喝	横領
清州郡		三・八四	五九一	三・八四	一・五一	一九九三	二・三二	一〇・四〇	三六・九九	一・八三	二・三〇〇	
報恩郡		三・五三	五三〇	一九一	一〇三	一五〇二	〇・四四	三四・三二	一七・三八	一・八	六七七	
沃川郡		五・二一	四・四	三・四五	一・三六	二・九六	二・三二	四一・〇三	一三・三五	三・三八	一四〇・九	
永同郡		三・九二	八・三二	四・二六	一・四三	二・六五二	四・七六	六・三二	三・五一	一・〇七	二・九六	
鎮川郡		一・二四	八・六八	三・五一	一・三三	一・五七〇	四・二三	六・七五	三・七六〇	一・五五	一・七五六	
槐山郡		一・二一	一一・〇五	四・五〇	一・三三	一・八八三	二・九〇	三〇・七四	一・六・三九	一・〇三	一・四三三	
陰城郡		三・七五	一四・八六	二・三二	一・三〇	一四・二八	一・五九	四六・三二	四〇・一一	一・五三	一・七二七	
忠州郡		三・五〇	一五・五九	二・九三	一・七九	一八・八〇	一・八九	五一・〇一	二・二・五	一・九九	一・七九五	
堤川郡		五・三五	九・三四	四・二一	二・三二	二六・〇六	四・三六	四四・四四	三六・三二	一・六二	三〇・八七	
丹陽郡		三・三三	一〇・三八	三・四六	一・六一	八・三〇	五・五四	三五・七六	三四・八三	六・四六	一・三六一	



平均 三・五五 九・二二 三・四九 一・四四 一八・二八 二・八一 五五・六一 二九・〇四 一九・〇 一七・三七

忠清南道

地方別 犯罪の種類

地方別	文書偽造	賭博	淫猥	姦姦	殺	人傷	害強	盜竊	盜詐	欺恐	喝橫	領
公州郡	四・三二	二・三八	五・六六	〇・六七	一三・二二	四・五六	八八・七四	三八・九二	二・七九	二・六五	二・六五	二・六五
燕岐郡	四・四二	二・二二	一〇・〇三	二・〇四	三九・二九	五・四四	一一九・五六	六・五九	三七・四	三・七四	三・七四	三・七四
大田郡	九・五五	五・九三	四・三一	〇・八一	三五・〇一	三・二九	二〇一・九三	七八・七四	二・三六	二・三六	二・三六	二・三六
論山郡	五・〇〇	三・六九	四・四三	〇・三三	三九・六〇	四・四三	一一七・九七	五・二四	一九・七	一九・七	一九・七	一九・七
扶餘郡	四・五五	六・二八	四・六四	〇・九七	二四・二五	三・〇〇	五五・六六	四・八四	四・八四	四・八四	四・八四	四・八四
舒川郡	三・三三	三・三三	二・八五	〇・八三	一五・九〇	一・〇七	四四・九二	二・三九	二・三九	二・三九	二・三九	二・三九
保寧郡	四・一四	一・八七	三・六〇	一・〇七	一七・二二	一・六〇	三三・三三	二・四・五五	三・六〇	三・六〇	三・六〇	三・六〇
青陽郡	五・三九	四・六一	四・三二	一・七〇	一五・七四	五・五五	六九・〇四	三・四・五二	二・六一	二・六一	二・六一	二・六一
洪城郡	四・〇二	二・〇七	四・一四	〇・二二	一三・六四	二・三二	五二・七七	二・四・六一	三・二九	三・二九	三・二九	三・二九
禮山郡	三・八七	四・〇八	三・四四	〇・六四	一六・〇一	三・〇一	五一・〇六	三・三・〇三	一・七一	一・七一	一・七一	一・七一
瑞山郡	三・三九	三・八三	三・三九	一・〇一	一四・六六	一・三七	三〇・〇五	一九・七九	二・〇一	二・〇一	二・〇一	二・〇一
唐津郡	二・九七	一・五九	二・一九	〇・七七	一六・二三	二・三二	二六・二〇	一六・三六	一・九四	一・九四	一・九四	一・九四
牙山郡	四・六六	二・〇七	四・七七	〇・七八	一八・三九	四・九二	四九・〇九	一九・三〇	二・三三	二・三三	二・三三	二・三三
天安郡	五・三三	四・〇一	四・七九	〇・五六	二四・〇七	二・七九	七八・五七	三五・六六	一・三三	一・三三	一・三三	一・三三

第四章 犯罪の地理的考察

朝鮮の犯罪と環境

二三八

平均 四・六一 三・五一 四・三三 〇・八〇 二・四九九 三・二七 七・四九九 三六・〇六 二・四二 二〇・八五

全羅北道

地方別  
犯罪の種類

文書偽造 賭博 淫猥 姦姦 殺人 傷害 強盜 竊盜 詐欺 恐喝 横領

益山郡	六・七二	二・二二	七・三一	〇・六六	四・七三	九・九六	一四・五・四	四六・五七	二・三六	一五・九八
金堤郡	五・九七	一・〇六	五・四〇	〇・四九	二・三・二四	五・一五	一一・八四六	三七・二〇	二・七八	二七・五五
扶安郡	一一・九七	二・六七	五・三二	〇・八九	三・三・一九	六・二四	八・四四〇	五五・五五	一九一	二八・三八
高敞郡	七・五三	二・二九	二・三七	〇・九一	一・七二四	三・五・六	五・三・〇七	三九・三九	二・三八	一九・五一
井邑郡	八・一四	一・二七	四・〇七	〇・八七	一・五・二九	八・〇七	二・三・四四	六・三・六五	六・四	三・〇・六九
淳昌郡	四・八三	一・一四	五・六八	〇・八五	一・九六一	三・九・七	七・八・九一	三一・六五	一・七〇	二・九・八〇
南原郡	四・三二	二・三九	四・三二	一・一〇	二・〇・七六	八・四・五	六・二・七二	二七・一九	二・六六	一・八・六三
任實郡	五・六一	二・六一	四・三一	〇・六	一・一・八八	九・八・〇	五・八・八〇	二・三・〇〇	二・三五	二・〇・五一
長水郡	六・八八	四・二〇	六・二一	〇・七六	一・九二〇	七・四・五	八・八・四三	四・一・六	四・九七	三・七・一
茂朱郡	二・一八	三・五六	六・三三	一・九八	二・五・三三	三・三・六	四・五・二二	三・〇・八七	二・一八	一・三・三六
錦山郡	四・九	六・四二	六・三三	〇・八六	三・五・七七	二・八・五	六・八・二六	三七・一九	五・七	二・五・九四
鎮安郡	六・二四	四・二二	五・九五	一・四五	二・〇・九〇	五・〇・八	六・二・六七	三二・〇・五	五・九五	一・六・一一
全州郡	一〇・六五	一一・〇二	六・四〇	一・〇八	三・六・七八	八・八・五	二・三・三四二	七九・六九	五六六	四・〇・六二
沃溝郡	一一・〇〇	九・五三	六・八七	一・六五	五・八・二九	三・三・九	三・〇・九八六	七五・七〇	二・六六	四・八・五八
群山府	一一・〇〇	九・五三	六・八七	一・六五	五・八・二九	三・三・九	三・〇・九八六	七五・七〇	二・六六	四・八・五八

平均 七三九 四二一 五五三 〇九六 二九〇〇 六五五 一〇二四 四八三 三六二 二八三九

全羅南道

地方別 犯罪の種類  
 文書偽造 賭博 淫猥 重婚 姦殺 人傷 害強盜 竊盜 詐欺 恐喝 橫領

木浦府	六・五七	二六・三三	四・八	〇・九一	五〇・四三	二・五五	一六三・七七	五九・六五	一・五三	三六・三七
務安郡	二・三九	三二・二五	七・二八	〇・八七	五八・一六	七・七一	二四二・三五	二七・一〇	三五・五	五・四四
光州郡	一・三五九	二七・四二	二・八六	〇・八三	二二・七七	二・二五	八・九一	四七・六九	三・三二	二六・七二
潭陽郡	四・五八	三三・二五	二・六九	一・〇八	一九・二三	二・四二	五三・七四	三三・八一	二・二六	二〇・七四
谷城郡	三・二四	三〇・九八	三・七三	〇・三九	二六・八六	一・七六	五八・六三	二六・二八	二・三五	一八・四二
求禮郡	四・五一	三四・〇九	三・六一	〇・九〇	二八・六七	二・五二	四九・〇五	四・三〇	二・二六	一七・八五
光陽郡	七・三四	二四・二五	三・〇八	一・四九	四二・七〇	一・〇六	六二・六五	四二・六五	一・二七	二〇・九五
麗水郡	二・二六	二二・三九	二・八三	〇・五五	二二・〇六	三・二五	五八・二七	三三・三八	二・五八	一九・三三
順天郡	一・七九	一九・三二	二・四一	〇・四五	一九・六七	〇・八〇	三三・〇一	一九・五八	〇・七二	八・七六
高興郡	一〇・三七	二二・一四	二・八四	〇・七六	二五・〇〇	三・六〇	四二・九〇	三七・六六	一九・六	一八・六七
寶城郡	七・二八	四三・九〇	二・九一	一・二六	二五・四五	二・四三	五八・〇八	四二・一六	一九・四	二〇・三〇
和順郡	五・八六	二二・五八	二・六二	〇・五〇	二七・七〇	二・三七	五六・一五	三〇・四五	二・二五	一九・三四
長興郡	六・五五	三九・七三	三・七二	〇・三〇	四四・七九	一・四九	八八・九九	五二・七一	二・六八	二四・一一
康津郡	四・六六	二七・一一	二・〇五	〇・三七	一九・四七	〇・七五	三三・六三	一八・六三	〇・六五	一三・八八
海南郡										

第四章 犯罪の地理的考察 二三九

朝鮮の犯罪と環境

二四〇

靈岩郡	五四一	五三九	二八九	〇三八	二七二五	一六三	四〇一〇	二四・六	三六五	二・三五八
羅州郡	九五二	二二七	四一九	〇九三	三・三三	七七二	六七四四	五・四六	一八六	一八三二
咸平郡	九三五	四八五八	三・四二	一三三	一五〇一	一九七	五七九三	四三・三二	二・一一	一九・六二
靈光郡	八二二	三四・〇	二・五〇	一〇七	三・〇〇	一・六七	八六九二	四九・三六	二七四	二九・〇九
長城郡	一四〇〇	二九五八	三・〇五	〇九〇	二四・五〇	二八二	七六七六	五三・二七	三二六	二七・三二
莞島郡	三四七	一〇四〇	二・八〇	一・二六	一七・二九	〇・八七	三四・五三	一七・九二	〇・九	二二・〇九
珍島郡	九九一	三・八六	二・三九	〇・二八	一三・八七	〇・三七	四四・九七	三〇・四七	二七五	一七・〇七
濟州島	三・六一	二〇五二	二・四四	〇・一九	四〇・八四	〇・一五	三五・二八	一九・七九	一六六	二一・四五
平均	六八九	二八四〇	三・六	〇・七七	三・四二	二・五三	七四・六二	四・六六	二〇六	二三・〇二

慶尚北道

大邱府	一二・三	五三・五〇	六三二	一四七	六〇三九	四六二	四〇八三七	九七・七	二・六	五四・六六
達城郡	一〇四	二八・一四	二・九〇	〇九三	一九・一九	一・五一	五九七六	二・三五八	一・三九	一〇・〇八
慶山郡	二・七八	四六・七三	三・三七	〇七六	一八・七三	一・七七	四三・七八	一三・二〇	二・一九	一一・六四
永川郡	五八一	四二七八	三・三一	〇五八	三五・九九	二・〇九	六三・八〇	四七・五五	三七二	二二・九四
慶州郡	五〇二	五四七五	三・三六	一〇二	四・七五	二・〇三	五七・二六	三七・三四	一・五五	二四・一〇
迎日郡	三七五	五二四一	一・三四	一三四	二・三五	一・二二	三七・二三	二四・九三	一・二二	一七・九六
盈德郡										

犯罪の種類  
 文書偽造 賭博 淫猥 重婚 殺 人 傷 害 強 盜 竊 盜 詐 欺 恐 喝 橫 領

第四章 犯罪の地理的考察

平	均	六・二三	四六八二	三・七七	一・三二	三三・〇〇	二・九	八四・四三	四四・〇九	二・五九	一三・七一
英陽郡		七・七七	五四五	五七七	〇・八六	二八八六	三・六三	八八・九	七・六一	三・六三	五五・五
青松郡		八・一七	七一九九	三六七	二・〇〇	一五五〇	一・八三	三三・六八	五五・六六	二・五〇	二二・五〇
安東郡		四・七二	四六九三	三・四七	二・二六	二四・五	二・九五	四五・一六	四・〇一	三・〇八	一九九三
義城郡		三・〇〇	二五五六	二・四六	一・一九	一八九三	一・五六	二二・九八	二・三〇六	二・八三	一一七〇
軍威郡		六・四八	五〇五四	四三二	〇・八三	二〇六一	〇・五〇	二三・六	一八四・五	一・〇〇	一一六四
漆谷郡		四・〇一	四六七八	三・七四	一・三八	三三・三	三・三二	八九・〇〇	三三・三六	一・五二	三三・五
金泉郡		七・三〇	三三・二八	三・〇一	一・三二	四六・七三	六・四四	一一・三六	七・五〇	三・五一	三五・三五
尙州郡		二・三九	五九五四	四三〇	〇・八四	二八九〇	一九一	五一・〇六	三七・二〇	二・七五	二七・九
醴泉郡		八・三三	三五・六六	二・七四	一・八六	三三・四	三・三三	二六・七四	三三・六〇	一・三七	一七・六三
榮州郡		一・〇九五	五五・〇二	五三五	〇・九一	二二・五	一・五六	五五・〇二	二八・〇三	四・五六	一四・三四
奉化郡		三・六三	五七・六七	五五一	〇・五四	三三・〇	二・八二	三六・三	五五・三八	四・〇三	二〇・八四
開慶郡		一・〇三三	四五・六	二・二九	〇・九八	一四・四	七・七三	四六・三	五三・〇三	一・六三	一五・〇二
星州郡		七・七一	五六・九	四・六	〇・六六	二六・八〇	二・四五	二九・〇〇	四・九八	三・五五	一七・五〇
高靈郡		六・五八	四三・三一	五八五	一・一八	三三・八五	〇・九一	一六・三	二八・七〇	二・三八	一五・九〇
清道郡		二・六七	三六・八六	三・三三	二・三三	二七・〇六	一・七八	四三・五四	三三・三〇	一・六七	一一・四七
善山郡		一・〇七二	三八・四一	三・五三	一・三六	一六・三三	一・四九	二二・三九	一八・一九	二・一七	一六・二五
鬱陵島		四・〇〇	三八・〇一	一・〇〇	三・〇〇	一〇・〇一	—	四七・〇四	三三・〇三	三・〇〇	一八・〇一

慶尚南道

地方別	犯罪の種類									
	文書偽造	賭博	淫猥重婚	殺害	人傷	強盜	竊盜	詐欺	恐喝	横領
釜山府	一三・八一	一三・二〇	八・八四	一・九九	一一・四四	三・八八	四四・三〇一	一八・八・九	二・八三	九六・八八
東萊郡	七・七四	三・六六	四・九二	〇・四二	六・四三	二・二六	一一・〇七五	四・三三二	一・三八	二四・六六
昌原郡	九・六五	七・四七	四・〇五	一・五五	五・〇三〇	四・〇五	一一・四・六九	五・四四二	二・四一	二七・八〇
晉州郡	五・三四	五・七二	四・〇七	〇・五一	三・〇四一	一・二七	四九・二二	三・七六二	一・六五	二・五五
宜寧郡	二・二四	二・二二	一・八九	一・三〇	一・九二一	二・三四	一九・五八	二・三〇〇	〇・八三	一〇・九七
咸安郡	一〇・七八	四・一八	二・七二	一・〇五	三・三・二二	一・二五	三五・七八	三・五・五	二・三〇	一八・四〇
昌寧郡	七・九〇	九・九四	四・〇七	〇・七八	四・三・三	三・二三	五八・八三	四・四・五三	一・八〇	一九・六四
密陽郡	六・六八	一三・一一	四・九五	一・七三	三・七・一一	三・三二	八五・八四	五・四・七七	〇・七四	二・二七
梁山郡	四・五二	四・八〇	四・〇一	〇・九三	三・二・六九	二・三七	六一・七三	三・七・七一	一・六五	二八・三二
蔚山郡	四・八〇	三・八〇	四・六二	一・〇〇	四・二・六	二・三五	六一・六三	三・七・九二	〇・八一	一八・一〇
金海郡	九・〇八	二・〇〇	二・九五	一・一八	二・二・八一	一・一八	四五・九七	三・九・八四	二・〇〇	二〇・七
固城郡	八・二七	五・五四	四・七九	〇・八八	五・一・八五	一・六二	六六・〇二	四・六・五八	二・五七	一三・四九
統營郡	七・三六	四・一五	六・〇二	一・三四	五・二・八	二・四一	五八・九一	三・六・五五	三・六一	一九・〇一
泗川郡	三・二四	六・二七	五・五二	〇・六三	二・六・二二	〇・五〇	二二・四五	一・五・一七	二・二六	一〇・六六
南海郡	七・七九	一四・六八	六・六六	一・四	四・三・八二	五・二〇	六三・八〇	五・〇・四	四・〇七	三〇・一五

山	清	郡	七三七	九七四	五・五〇	一・二五	三三・三六	七・七五	四九・八六	四二・六	二・三七	一九・六二
咸	陽	郡	八五七	四・一〇	四四九	一・九二	二五・四	二・四三	六二・一五	三八・三一	二・四三	二七・〇四
居	昌	郡	六・二二	六・四七	六三五	〇・九二	二二・〇二	三・四六	五三・〇〇	三八・九一	三七・〇	二二・七一
陝	川	郡	六三四	四・七〇	二・六六	〇・九四	二〇・五二	一・四一	三三・八六	二・三六五	一・八八	二二・九一
平	均	郡	七六四	七・六七	四八九	一・二五	四四・八一	二・七二	九八・七五	五・九一	二・一九	二八・八四

黄 海 道

地方別 犯罪の種類

文書偽造 賭博 淫猥 重婚 殺 人 傷 害 強 盜 竊 盜 詐 欺 恐 喝 横 領

海	州	郡	七六一	四・〇九	二・三〇	一・二八	三〇・三四	一一・一〇	七五・四九	三〇・一六	三・二三	二四・二一
延	白	郡	三・二二	六・七三	二・〇三	〇・七八	一五・七六	四・六五	二七・三九	一・六七〇	〇・九四	一一・六四
金	川	郡	二・八三	四・六五	〇・八九	一・四九	九・九八	八・四九	四〇・六五	二・八四四	一・六四	一三・五
平	山	郡	一八一	四・六五	一・三三	一・九〇	二二・一九	一一・八八	三四・四〇	一・四・三三	一・二四	八・七
新	淡	郡	二・四九	八四・三五	一・四	二・四九	二二・九七	五六〇	二四・五	一・三・六八	一・四五	八・九一
瓮	津	郡	四・三六	七五・四六	一・七四	〇・七五	一九・六九	七・四八	二四・五五	一・七一九	一・二五	一一・七一
長	淵	郡	二・八九	六八・三二	二・四一	一・五八	二六・九九	七・三	三四・八二	一・四・三四	二・〇五	一三・九八
松	禾	郡	五・六六	六・六八	一・六八	一・六八	二二・七二	三・六七	二九・〇六	二・四・一七	二・七五	一六・六七
殷	栗	郡	四・〇六	八七・一八	二・七一	二・七一	二四・三九	一〇・一六	二六・八七	一・六四八	三・二六	一三・五五
安	岳	郡	四・〇八	四七・三二	三・〇三	一・三二	二九・五	二・三・九三	六五・五一	四七・五八	二・六四	二・三五五

第四章 犯罪の地理的考察





中和郡	一・二〇	四〇五	一・六四	一・六四	一・八四三	七〇〇	三五・七六	一五・二〇	〇・九八
江西郡	四・三一	四八一	四・二一	一・七一	三〇・四九	六・六二	七〇・五〇	一五・八八	〇・五〇
平原郡	二・八二	四〇〇	三・八二	二・〇九	二・六六六	五・六四	四三・二二	一九・二〇	一・〇〇
安州郡	四・八八	二八六	三・八一	一・六七	四三・二九	九・七六	七四・〇〇	四・四七	一・六七
价川郡	四・五七	五五三	二・六七	一・九一	一八・二一	二四・七八	五三・五六	三・八三	一・三三
徳川郡	三・七八	九・五五	三・〇六	一・三三	一七・四八	九・三七	二七・七五	二・五三	一・六六
寧邊郡	五・二三	八・五四	四・三八	一・七〇	一六・〇六	一〇・三三	二五・三二	三〇・九〇	一・三三
平均	五・六〇	五・四六	四・三一	一・八八	三三・二五	九・三三	一四三・三三	五・七一	一・六一

平安北道

地方別	犯罪の種類	文書偽造	賭博	淫猥重婚	殺入	傷害	強盗	竊盗	詐欺	恐嚇	横領
-----	-------	------	----	------	----	----	----	----	----	----	----

新義州府	七・〇二	二・三三	〇・三三	〇・四八	三・七〇	四・二七	一七・五八二	四・六七	〇・五五	四・六七
義州郡	二・九八	二・七二	二・九八	一・六六	二〇・九七	一三・六九	四三・三八	一八・九七	二・六四	一四・三三
龍川郡	〇・八九	一九・四	二・八一	一・一八	二七・一八	八・四二	四五・八〇	一六・八四	四・二二	二・四〇
鐵山郡	五・九九	二・〇七	三・二二	三・五二	三三・四〇	七・八三	六三・三七	三三・二二	四・三九	二四・九三
定州郡	三・七一	六・八五	一・八六	四・四九	一四・五五	二・三・九〇	一七・九五	二〇・五八	一・七〇	六・八一
龜城郡	六・三三	二・五七三	〇・九五	二・〇三	二・二二	一〇・八三	四四・〇一	二・八・八四	二・一七	一九・六三
博川郡	三・三三	五・四二	一・七一	三・八一	一五・四二	一五・六〇	二六・八三	一三・二三	四・一八	二・一九四
泰川郡										

第四章 犯罪の地理的考察

朝鮮の犯罪と環境

二四六

地方別	犯罪の種類	文書偽造	賭博	淫猥重婚	殺害	傷害	強盜	竊盜	詐欺	恐喝	横領
寧邊郡		三・九四	四六・七	二・〇五	一・六	一六・九二	六・七	二〇・四七	二〇・一五	二・〇	一〇・九四
雲山郡		五・九一	八七七	二・九	五・四八	三・四四	四・五四	五・一七	二・三・七	三・九	一三・二六
熙川郡		七・四	二・三	三・〇一	六・〇五	一三・五二	三・九三	二八・六一	三三・五七	三・三四	一七・五二
江界郡		六・〇一	二七・七	〇・九二	四・六	二四・八八	二三八・〇	三・五〇	一九・一八	二・三二	二・六三
厚昌郡		七・九三	四八・九三	三・九	六・二〇	二八・九五	一五・一六	三〇・六七	二六・五三	五・八六	二八・六〇
慈城郡		五・五九	二九・三〇	四・五	六・四九	二四・八三	一八・五六	三八・五	二〇・三	三・三五	一四・〇九
渭原郡		三・九四	二・〇三	一・六四	九・八五	一六・四二	四三・六七	二七・五	一一・八二	一・九七	九・五二
楚山郡		二・九四	四・〇二	二・〇一	一三・三〇	一九・四八	一〇七・四四	三六・六四	二二・六	六・九六	一〇・六七
碧潼郡		五・三	一四・七	二・三	七・七九	一五・五八	三八・七三	二四・六	一六・七〇	二・〇〇	一七・六九
昌城郡		二・八六	三三・二〇	二・八六	五・二一	九・二〇	一七・一六	一〇・〇一	一五・五三	〇・六一	六・五四
朔州郡		二・九七	四二・二八	二・四七	三・二	二〇・五二	二四・三	一七・五五	一七・三二	三・七一	九・二五
平均		四・七五	二七・五一	二・四六	四・三	一三・七二	二五・四	五三・三九	二四・〇九	三・四二	一七・九〇
<b>江原道</b>											
春川郡		一〇・六五	五三・八八	五・四	一・八八	三九・四七	三〇・一	八五・五八	六三・九一	三・七六	五・五一
麟蹄郡		二・七二	二〇・七	一・三	〇・七五	一三・二八	〇・七五	一五・〇九	一一・六一	一・六六	八・九〇
楊口郡		二・八六	三七・七	二・五	一・六三	一三・二七	〇・四一	二〇・六二	一三・七	一・三三	一四・九

第四章

犯罪の地理的考察

二四七

伊川郡	平康郡	鐵原郡	金化郡	華川郡	洪川郡	横城郡	原州郡	平昌郡	寧越郡	旌善郡	蔚珍郡	三陟郡	江陵郡	襄陽郡	高城郡	通川郡	淮陽郡
四〇八	四八三	九〇二	六一六	八〇九	七二二	二二二	一〇七九	四・九五	四・九四	八〇七	五・三三	七・六六	四・八二	四・六九	八・八一	七・一九	二・五六
四・四七	九・六六	二・二〇	三・七七	四・九三	二・六四	二・七八	四・六一	二・八三	三・七七	二・八四	三・九九	二・三六	一・三九	一・八〇	三・六七	二・六一	二・三九
五・四四	三・〇九	三・四四	二・〇九	二・六〇	四・六二	四・一〇	四・八九	二・八五	二・七一	四・三三	三・六五	二・八一	三・三四	〇・三四	三・四四	五・四五	二・七一
一・三六	一・一五	〇・八六	一・八五	二・八九	一・六三	〇・四七	一・一九	一・二〇	〇・三三	〇・七五	—	〇・八九	一・六一	一・〇〇	一・五〇	一・七四	〇・五七
二・三二	二・二〇	三・四五	二・八八	二・五二	二・五二	二・三六	三・〇六	一・九二	一・七八	二・四〇	三・七四	一・五三	三・二四	二・〇五	二・四七	二・六三	二・八二
三・九三	三・〇九	二・七一	四・九三	〇・八九	二・四五	二・三六	二・八八	二・四〇	四・九四	二・〇七	一・七四	〇・二六	一・九八	二・一八	一・二二	三・九二	二・九九
三・八五	五・五七	六・三〇	四・四八	四・七四	二・八九	二・八一	七・五七	二・八五	三・二五	三・四三	三・六三	三・〇七	七・三九	五・〇四	五・〇九	四・七六	一・七三
三・〇四	二・七八	四・八七	三・八七	四・七四	三・八六	二・八一	四・七六	一・三・三	三・三三	二・八九	三・九九	三・七三	五・九〇	二・八二	三・〇五	三・〇三	一・〇五
二・二七	三・六七	二・〇一	二・三四	四・三四	三・五四	一・四二	五・三三	〇・四五	三・五一	二・八四	三・九九	二・六八	一・五四	一・三四	二・三六	一・九六	二・八五
二・三二	二・〇八	三・三四	二・六八	二・六三	二・六一	二・三九	三・九六	八・四〇	二・三・七	四・八一	一・九・六	三・一・六	三・三・八	二・〇・九	三・三・四	二・二・九	一・〇・二



三水郡	一・七四	四・五五	〇・八七	七・三二	三・九二	七・六六	二・〇八八	一・七五八	一・九一	一・三四〇
甲山郡	四・三六	三・四六四	三・五九	一・六七	一・九五〇	一・〇二六	三・四九六	一・八〇九	七・三二	一・五二七
平均	四・三三	一・八四六	二・六五	一・二〇	二・〇八四	二・五三	五・五九九	二・三六六	一・五六	一・五〇七

地方別 犯罪の種類

清津郡	一〇・九三	四・一九四	三・七六	一・九七	五・〇〇五	一・二五	一〇・一四四	六・七九二	一・四三	四・五二六
富寧郡	六・五一	三・八一二	三・九一	〇・八二	一・五二一	一・四九	六・〇九一	三・三八〇	一・七七	二・五五七
鏡城郡	一・九二	八・三三	一・九二	一・九九	八・三二	〇・五二	一・四二〇	八・三一	〇・八一	七・二〇
明川郡	二・二五	二・〇七六	二・〇〇	〇・八八	一・九二二	〇・七五	二・〇二三	一・四二三	一・二五	二・二〇〇
吉州郡	七・七一	二・〇三九	二・六一	〇・三七	二・〇〇二	二・二一	三・七〇六	三・三・四六	一・九九	三・三・九五
城津郡	五・六一	二・二・九六	二・五五	一・七九	二・三・九八	二・三・〇	二・五・七七	一・七・三六	〇・五一	一・九・九一
茂山郡	一・〇四九	三・三・五五	三・二五	六・五五	三・八・五三	二・〇・八	一・〇・六七	七・〇・五一	四・一九	五・六・八八
會寧郡	五・八三	一・〇九三	一・四六	一・四六	二・四・四二	一・〇・九	三・七・一八	一・五・六七	〇・三六	二・二・五〇
鍾城郡	三・六三	一・五八八	一・二〇	〇・五五	一・〇・四〇	〇・五五	二・〇・八一	二・〇・二六	—	二・七・三八
穩城郡	七・二二	二・九三三	二・六六	〇・七六	一・〇・六三	一・五二	二・八・四六	一・七・八四	〇・三八	一・四・四三
慶源郡	六・九〇	三・〇〇一	四・五一	一・〇六	四・三・五五	二・二二	六・〇・五五	三・五・五九	一・五九	四・一・六九
慶興郡	五・七八	二・四・四六	二・七六	一・五三	二・三・七八	二・四六	四・四・五七	二・八・七三	一・四一	二・五・〇五
平均	五・七八	二・四・四六	二・七六	一・五三	二・三・七八	二・四六	四・四・五七	二・八・七三	一・四一	二・五・〇五

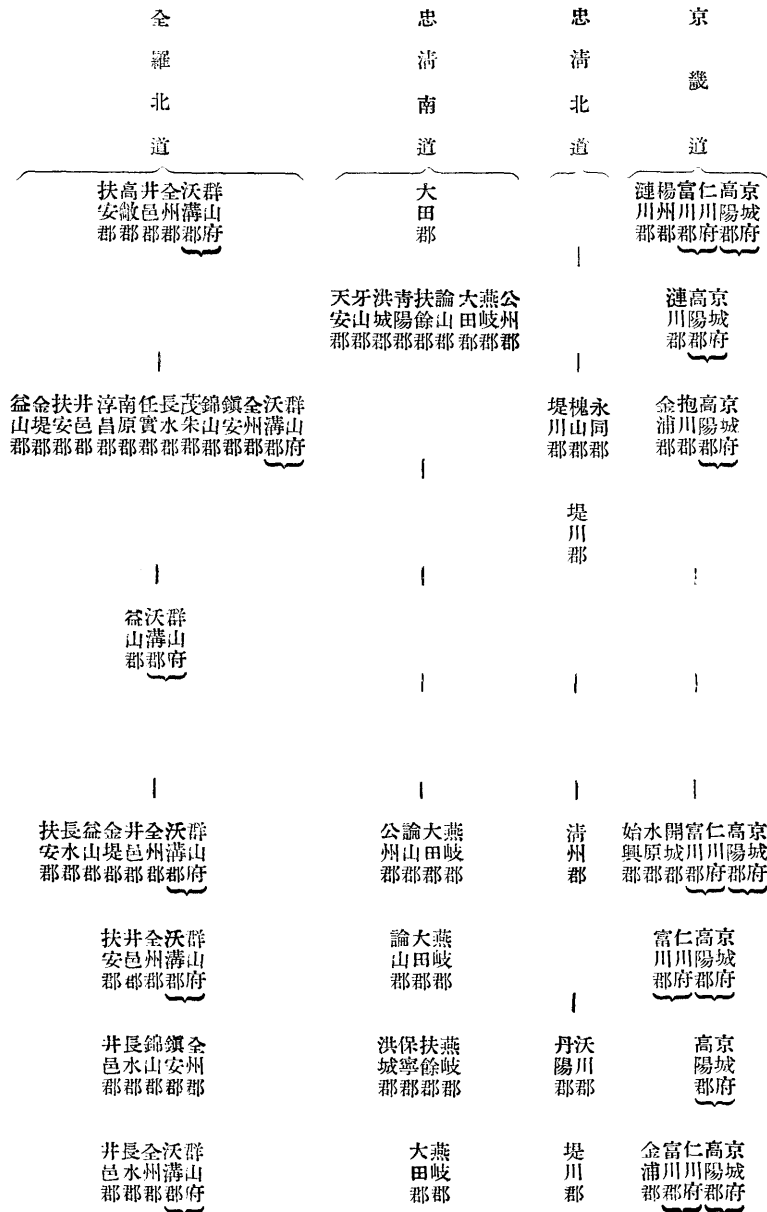
咸鏡北道

第四章 犯罪の地理的考察

右の統計によりて、最近五箇年間に於ける主要犯罪の人口一萬人に對する地方的比率は明瞭になつたが、尙ほ主要犯罪個々に就いて、發生件數の特に多い地方を擧げて見ると大體左の如くなつて居る。即ち文書偽造罪は、府の殆んど全部、道廳所在地、指定面所在地等の市街地に多く、慶尙北道、黃海道の殆んど全部に互つて賭博罪が多いのは注目すべき現象である。猥褻姦淫及重婚罪は、忠清南道、全羅北道、慶尙南道の諸府郡に多く、殺人罪の多い地方は平安北道の殆んど全部に互り、また黃海道、平安南道にも多いのである。傷害罪の多い地方は慶尙南道を第一位とし、全羅南道、黃海道にも數郡ある。強盜罪の多い府郡は平安北道の各地に及び、また黃海道、平安南道にも比較的多い。竊盜罪の多い地方は黃海道、平安北道を除けば、各道に數郡宛あるが、概して南鮮地方に多いのである。詐欺罪及び横領罪の多い地方は大部分市街地であり、恐喝罪の發生件數多數の府郡は慶尙北道、平安南道、江原道である。

主要犯罪事件の多き地方 (人口一萬人に對する最近五箇年間の件數)

文書偽造罪	賭博罪	猥褻姦淫及重婚罪	殺人罪	傷害罪	強盜罪	竊盜罪	詐欺罪	恐喝罪	横領罪
七件以上の府郡	四十件以上の府郡	四件以上の府郡	二件以上の府郡	四十件以上の府郡	十件以上の府郡	八十件以上の府郡	五十件以上の府郡	三件以上の府郡	三十件以上の府郡



慶尚北道

全羅南道

晉昌馬東釜  
州原山萊山  
郡郡郡府

善星開醴榮金青英達大  
山州慶泉州泉松陽城邱  
郡郡郡郡郡郡郡府

珍靈咸長羅和寶麗潭光  
島光平城州順城水陽州  
郡郡郡郡郡郡郡郡

高星開奉榮尙漆軍安青英盈迎慶永達大  
靈州慶化州州威東松陽德日州川城邱  
郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡

咸靈和  
平巖順  
郡郡郡

密宜晉昌馬東釜  
陽寧州原山萊山  
郡郡郡府府

高星奉榮尙軍英達大  
靈州化州州威陽城邱  
郡郡郡郡郡郡府

羅光務木  
州州安浦  
郡郡郡府

鬱清安青  
陵道東松  
島郡郡

昌馬東釜  
原山萊山  
郡郡郡

金迎達大  
泉日城邱  
郡郡郡府

濟康麗光務木  
州津水州安浦  
島郡郡郡郡府

東釜  
萊山  
郡府

漆英金達大  
谷陽泉城邱  
郡郡郡郡府

靈康潭光務木  
光津陽州安浦  
郡郡郡郡郡府

東釜  
萊山  
郡府

開奉青金英達大  
慶化松泉陽城邱  
郡郡郡郡郡府

長羅康光務木  
城州津州安浦  
郡郡郡郡郡府

鬱星金安英慶奉榮  
陵州泉東陽州化州  
島郡郡郡郡郡郡

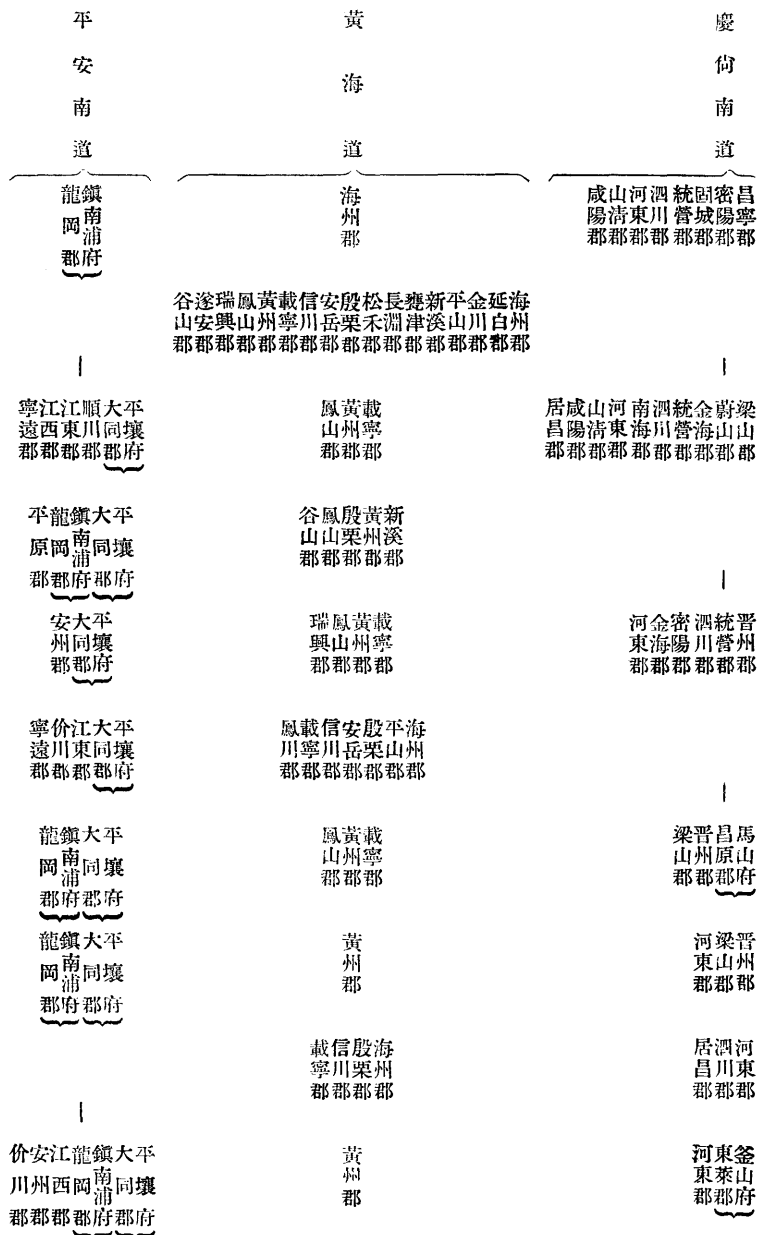
長靈潭光  
城巖陽州  
郡郡郡

金漆英達大  
泉谷陽城邱  
郡郡郡郡府

光務木  
州安浦  
郡郡府



第四章 犯罪の地理的考察





これを要するに、朝鮮に於ける犯罪現象を地理的に考察すると、國境地方、山地帶、平野、市街地沿海地方などの地勢的關係によりて、人口數に對する各種の犯罪發生件數の割合を異にし、また地方特有の犯罪色彩とでも云ふべきものが、臙げながらも浮び出て居る。是れ即ち犯罪が社會環境、殊にその經濟事情及び文化傾向に支配さるゝことの極めて大なる所以を明示するものであるから、世の犯罪現象を觀察する者は、徒らに結果的事實のみに重きを置かず、その發生の根本原因たる、社會環境の改良善導に向つて、絶えず多大の努力を爲さねばならぬ。

# 여 백

## 結 論

朝鮮に於ける犯罪現象及び犯罪と社會環境との關係に就いては、以上各章に於て地理的、統計的に論述したから、朝鮮の犯罪特質、及び地方色、並にその年次的傾向の如きは明瞭になつたことと思ふ而して朝鮮の犯罪状態を内地のそれと比較すると、兩者の社會環境の異なつて居る如く、犯罪現象にも自ら相違があるが、特に社會事情の支配を受くること最も著しき主要犯罪に就いて、總犯罪數に對する年々の比率を求め、内地と朝鮮を比較するときは、兩者の環境の差異が、その犯罪に及ぼす影響の尠くないことを立證して居る。云ふ迄もなく、内地に比すると朝鮮は、貧富の懸隔に於ても、文化の程度に於ても遙かに劣つて居り、これ等の動き方、即ち社會環境の推移變遷も自ら異なつて居ることを前提として、私は左の比較表を對照して考察して見たい。即ち最近十箇年間に於ける内地と朝鮮との總犯罪數に對する主要犯罪の千分比率を見るに、大正五年に於ける、**文書偽造罪**は内地一六、朝鮮一五にして略ぼ似て居たが、内地に於ては年々減少し、朝鮮に於てはその後却つて増加したこともあり大正十四年に至りては内地八、朝鮮一五となり十年前と同じ比率を保つて居る。**猥褻姦淫及重婚罪**は内地に於ては大正五年に五、大正十四年に六にして、この十年間に殆んど變動がないが、朝鮮は大正

五年に三〇、大正十四年に八にして、十年前には内地の約六倍に及んで居たものが、今日では内地と著しき差のない迄に減じて居る。賭博富籤罪は、大正五年に於ては内地は約五割の四九二、朝鮮は約二割の一九七であつたが、その後内地に於ては次第に増加して大正十四年には約六割の五九四となり朝鮮に於ては二〇九であるから、幾分増加して居るに過ぎない。殺人罪は大正五年には内地九、朝鮮八にして、内地よりも朝鮮の方が低い方であつたが、内地に於ては殆んど變化なきに反し、朝鮮に於てはその後少し宛増加し、十年後の今日では殆んど二倍近くに増加して居る。傷害罪は大正五年には内地五六、朝鮮一〇四であつたものが、内地も朝鮮もその後増加して、大正十四年には内地八二、朝鮮一四三となつたのである。窃盜罪は大正五年には内地一九七、朝鮮三二二であつたが、その後兩地共その比率が段々減少して、大正十四年には内地一一一、朝鮮二九〇となり、その減少率は内地の方が遙かに多いのである。強盜罪は大正五年には内地五、朝鮮二四にして、朝鮮は内地の約五倍を示して居たが、大正十四年には内地は殆んど變化なきに反し、朝鮮は五八に増加し、内地の九倍半に及んで居る。詐欺恐喝罪は大正五年には内地七八、朝鮮九七にして朝鮮の方が幾分高かつたが、大正十四年には内地四八に減じ、朝鮮は九七で大なる變化がない。横領罪は大正五年に於ては内地四三、朝鮮七五であつたものが、その後漸次減少して、大正十四年には内地二四、朝鮮四〇となり、いづれも約

半數になつて居る。その他の犯罪の比率は大正五年に於て内地九九、朝鮮一二八であつたが、その後も著しく變化なく大正十四年には内地一〇二、朝鮮一二七を示して居る。

最近に於ける總犯罪中最も多き犯罪は、内地に在りては賭博罪が抜群にして、一、〇〇〇に對し五九四に達し、それに亞ぐものは窃盜罪一二一である。朝鮮に在りては窃盜罪の二九〇が一頭地を抜き賭博富籤の二〇九これに亞ぎ、傷害罪の一四三、及び詐欺恐喝罪の九五なども多い方である。右の總犯罪に對する主要犯罪の千分比率と、前數章に於て説明した年々の犯罪件數の消長とを比較吟味するときは、犯罪を發生するに至る社會環境が、内地と朝鮮とに於て多少その趣きを異にして居ることを看取し得ることゝ信ずる。

### 第一審刑法犯有罪被告人千分比内鮮比較表

年次	罪名	文書	猥褻姦淫重婚	賭博	殺人	傷害	竊盜	強盜	詐恐	欺喝	橫領	其他	計
大正五年	内地	一六	〇	四七	八九	一〇	一七	三	六	五	六	三	一〇〇
	朝鮮	一五	〇	一七	八	一〇	三	四	三	三	五	六	一〇〇
同 六年	内地	一四	二	三〇	七八	六	一七	三	四	一〇	四	七	一〇〇
	朝鮮	一九	五	二四	七	六	五	二	三	四	三	七	一〇〇
同 七年	内地	一〇	三	三〇	八七	七	一四	一	一〇	五	七	四	一〇〇
	朝鮮	一五	四	二六	七	七	七	一	一〇	五	七	四	一〇〇

結論

朝鮮の犯罪と環境

大正八年	〔内地朝鮮〕	三〇	二四	101	104	六七	二六	151	15	16	13	1,000
同 九年	〔内地朝鮮〕	八〇	三三	130	133	一九	三七	143	13	16	17	1,000
同 十年	〔内地朝鮮〕	三三	三六	155	157	二〇	七〇	133	14	14	16	1,000
同 十一年	〔内地朝鮮〕	三三	九三	170	180	一九	八〇	133	14	15	16	1,000
同 十二年	〔内地朝鮮〕	三二	〇六	185	188	七三	八三	133	14	17	15	1,000
同 十三年	〔内地朝鮮〕	八八	一六	208	216	七〇	八六	136	14	18	17	1,000
同 十府年	〔内地朝鮮〕	一五八	八六	294	309	五九	112	132	16	18	17	1,000

備考 一、本表には特別刑法犯を含まず

一、有罪被告人中朝鮮人に係はるものは大正九年迄答刑を包含す

朝鮮に於ける犯罪が、貧困者の甚だしく多きが爲めか、貧富の懸隔著しくなりたる結果か、働かんと欲するも職業を得ざるに基きてか、生活程度の俄かに高まりたるに因るか、産業状態の急激に變化せる故にか、若くは資本主義經濟發達の壓迫に在るかは、識者の判断に任ずるとも、その原因が苟くも經濟事情に存するとせば、各種の方面よりこれを改善して、各人の富の増加を計り、貧窮徒食の



徒なからしめ、以て國民生活の安定を期せねばならぬ。また犯罪が教育の普及せざる結果によるか、人智の朦朧なるに基くか、宗教の信仰なきが爲めか、高尚なる趣味娛樂を有せざるが故か、交通通信の不備なるに由るとせば、須らくそれ等の文化的施設を進歩發達させて行くことに努めねばならぬ。更に或る種の犯罪が、生活に餘裕が生じたる爲めに却つて増加し、若くは文化の進歩によりて一層累進の傾向ありとすれば、それは健全なる教育知識の注入と、道德心の涵養によりて抑制する外あるまい。要するに、人類社會の病患たる犯罪の發生を、成るべく最小の程度に止めんとせば、先づその環境を組織的に、實質的に、善導し美化することが肝要である。

朝鮮の犯罪と環境

朝鮮の犯罪と環境 終